市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-②	サンゴ礁造成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(1)－ア
					生物多様性の保全
担当部課名	経済観光部　海人課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

本市の漁業の発達は、地先の礁池内における沿岸漁業が源であった。復帰後は陸域起因物質等による海の汚れでサンゴの生息が脅かされてきた。豊かで美しい海を育むサンゴの減少は、水産業振興を後退させる要因である。また、沖縄観光に訪れる観光客にとって美しい海の存在は不可欠である。本市においては「全国豊かな海づくり大会」が開催されることもあり、これを契機として礁池内へのサンゴ礁移植を実施した。

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,000				
	(b) 予算現額	6,000				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,000				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	6,000				
	B. 執行済額	5,970				
	うち交付金充当額	4,776				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		99.5%				

予算の状況の説明：予算計上どおりに概ね執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・稚サンゴの移植の実施	目　標	（稚サンゴの移植の実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	稚サンゴ移植を実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：・稚サンゴを移植するため、サンゴ礁造成委託業務により稚サンゴの調達から移植作業までを実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・稚サンゴ移植数	目　標	（　）	（590体）	（　）	（　）	（　）
	実　績		560体			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：・概ねサンゴ礁造成委託委託仕様のとおり560体の稚サンゴ（ｵﾔﾕﾋﾞﾐﾄﾞﾘｲｼ・ﾎｿｴﾀﾞﾐﾄﾞﾘｲｼ・ﾋﾒﾏﾂﾐﾄﾞﾘｲｼ等）を調達し、予定していた西崎海域へ移植することができた。
※当初の目標値の590は誤り（誤植）である。予定していた地域における移植数としては560体が正しい目標値である。

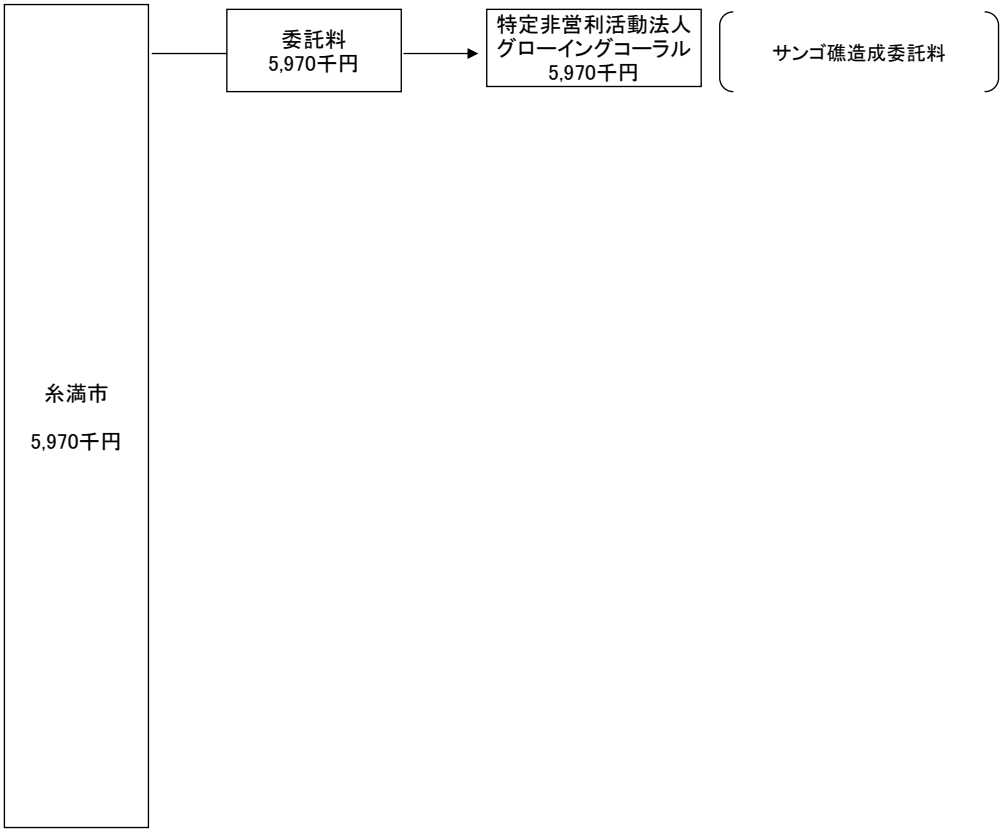
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・稚サンゴの定着状況については、市職員、漁協職員漁業者等で連携して目視等による測定を実施していく。台風の影響を受けにくいイノー内にサンゴを移植しているが、少なからず影響は受けるものと考える。	・移植したサンゴの生育観測については、ホテルやマリンレジャー等観光関連業界等との連携が図れるよう取り組んでいく。また、ダイビング事業者やサンゴ保全にかかわるNPOなどと連携した情報共有等について検討していく必要がある。

今後の取り組み方針

・稚サンゴの定着状況等について定期的な測定を実施していく（市、漁協等）。
・NPO等の連携及び情報共有（発信）等の検討。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,970	5,970	4,776	1,194	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により実績、知識等を勘案したうえで選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑤	沖縄らしい風景づくり事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ
					観光客の受入体制の整備
担当部課名	建設部　都市計画課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

本市は、農村と漁村の風景が残る他に類を見ない地域である。この魅力的な地域の風景を活かした観光地づくり等を進める為風景づくり計画の策定を実施する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,001				
	(b) 予算現額	5,001				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	5,001				
B. 執行済額		5,001				
うち交付金充当額		4,000				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		予算計上どおりに執行できた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・市民会議、策定員会及び地域部会の実施（8地区）	目　標	（市民会議等の実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	市民会議等を実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：地域の景観資源の確認、重点地区に向けて良好な景観方針に住民の意見を反映させるため、市民会議の開催を2回から1回とし、地域部会の開催を8回から13回へと増加した。また、策定委員会は目標どおり開催した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・風景づくり計画（素案）の策定	目　標	（景観基礎調査）	（計画（素案）策定）	（　）	（　）	（　）
	実　績		計画（素案）策定			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：風景づくり計画（素案）策定において策定委員会での検討や地域部会等を開催し、住民の意見が反映された計画（素案）を策定した。

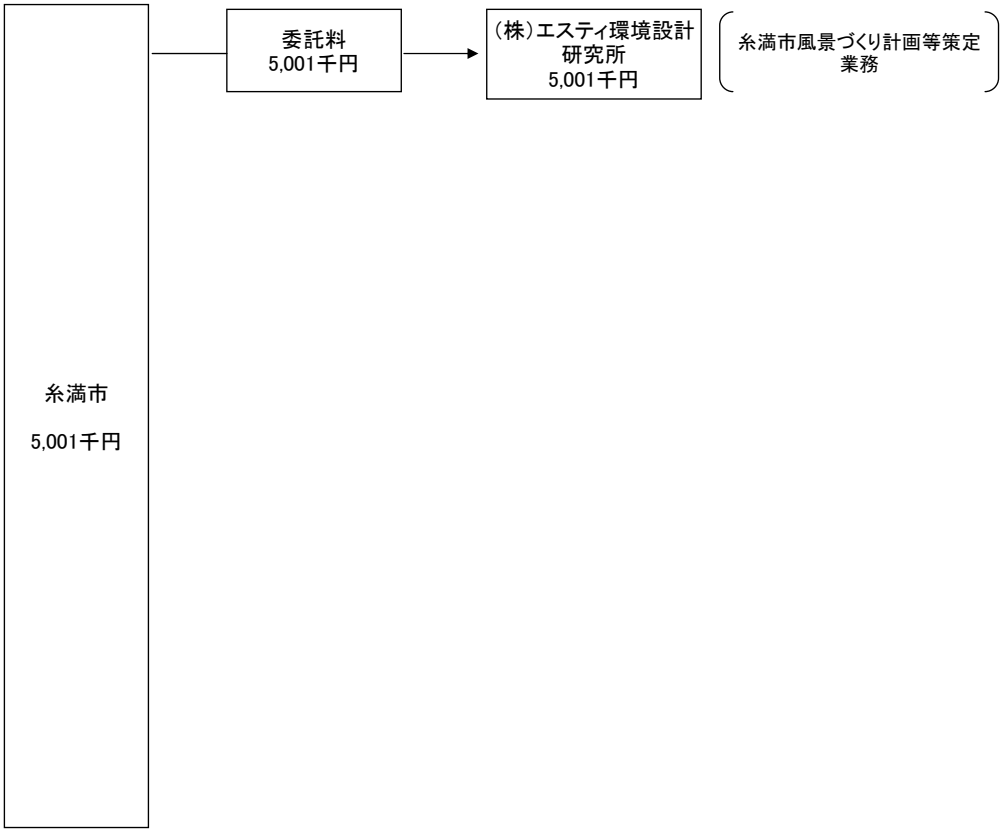
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（ア）風景づくり計画への住民意見反映のためのアンケート調査の回収率を当初2割程度を見込んでいたが、約12%で低かったため、地域部会の回数を増やし住民意見の収集作業を補う等の対応を要した。 （イ）住民からの集約した意見に応じ、適切な庁内関係課や関係機関が参加した連携体制を構築していくなど柔軟な対応が求められる。	（ア）風景まちづくりによって、住民の生活環境の向上、観光客の受入れ等を行い地域の活性化に繋げるための取組みをおこなうため、形式的なアンケートだけでなく、地域部会等、住民との直接意見交換・集約の場の形成に重点を置いた事業設計等が必要となってくる。 （イ）様々な住民からの意見に対し、臨機応変に対応できる関係課及び関係機関の招集など連携体制の構築に向けた取組が必要である。

今後の取り組み方針

・風景づくり計画（素案）を各種委員会、地域部会、市民会議等に諮り、意見の収集及び周知を図り、風景づくり計画の策定を行う。
・重点地区（モデル地区）の行動計画を策定し、事業化に向けて取組むとともに、取組経過の情報を関係課及び関係機関共有しながら事業を進めていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,001	5,001	4,000	1,001	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託コンサルは指名型プロポーザル方式により企業組織、実績知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。（契約は1件で指名型プロポーザル契約） ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑥	昔ながらの原風景写真デジタル保存事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－オ 産業間連携の強化
担当部課名	教育委員会　総務部　生涯学習課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

市史編集事業の一環で収集したフィルム等の写真資料は、沖縄県の高温多湿な環境により劣化が著しい。地域を記録する貴重な写真等は、今後『市史』等刊行物での活用だけでなく、教育現場や観光関連産業等、本市についての情報を発信するあらゆる機会での活用が期待できる。本事業で、貴重な歴史資料を後世に残し、有効活用する為、同情報のデジタル化を実施した。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	16,125				
	(b) 予算現額	16,125				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	16,125				
B. 執行済額		15,289				
うち交付金充当額		12,230				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		94.8%				
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・写真資料デジタル化及びデータベース化の実施	目　標	（対象資料数 120,000件）	（　）	（　）	（　）
	実　績	写真 120,000件			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：平成24年度は、広報担当課等より受け入れた写真資料120,000件を事業の対象とし、全120,000件の写真フィルムをスキャニングしてデジタル化を図るとともに、資料についてのデータベースを作成した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・所蔵写真資料等のデジタル化及びデータベース化率	目　標	（　）	（100%）	（　）	（　）	（　）
	実　績		100%			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：平成24年度の事業対象としていた写真資料のデジタル化及びデータベース作成については予定通り実施することができた。納品された写真資料は観光や教育関連施設、字誌編集機関等に資料を提供するなど、多方面で利用されている。

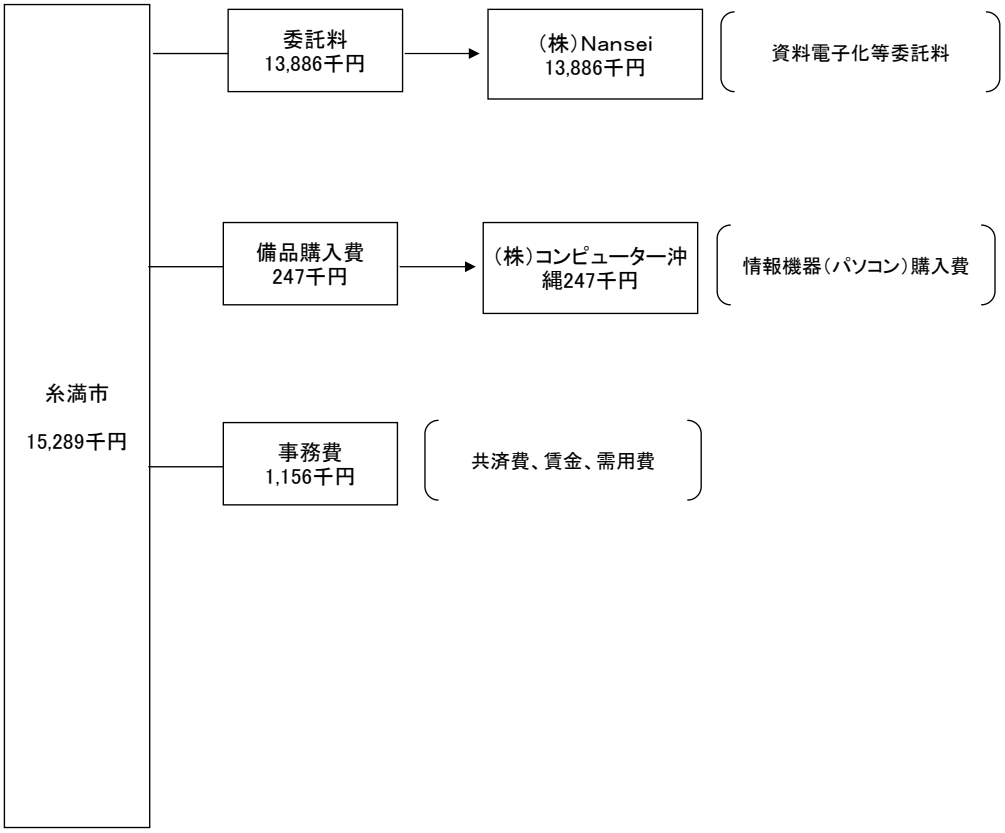
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	アルバムへの記載内容と実際の写真資料の内容に不一致が見られることもあったので、フィルムシート単位での確認が必要であった。	スキャニングを実施する前に、アルバムやフィルムシート単位での整理（撮影者・撮影日時・テーマ等での並べ替えや撮影データの書き込み）を丁寧に行うことが、個別の写真資料の情報を充実させることになり、データベース機能の更なる向上につながる。

今後の取り組み方針

事業の実施にあたっては、スキャニングを実施する前に、事業対象の写真アルバム、フィルムシート等の照合整理を行い、写真情報を充実させるようにする。
平成25年度は、市民から提供を受けた写真（主に紙媒体）と観光担当課と市史編集担当課において記録撮影した写真（主にフィルム媒体）の計120,000件について、デジタル形式による保存を図り、平成24年度に作成したデータベースを基本に平成25年度分のデータを追加し、新たなデータベースを構築する。
（※平成24年度120,000件、平成25年度120,000件、合計240,000件）

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,289	15,289	12,230	3,059	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、公募型プロポーザル方式より、実績や知識等を勘案して選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものであり、支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑦	新しい公共交通検討事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	企画開発部　政策推進課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

観光客が地域内(小さなムラ)を散策する姿が増加傾向にあるが、散策型観光を支える小さなムラへの交通手段が途絶える危機に直面している。
市内に点在する小さなムラ(市まるごと博物館の観光資源)をつなぐ公共交通手段の確保に向け、公共交通の調査検討事業を導入した。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	14,351				
	(b) 予算現額	14,351				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	14,351				
B. 執行済額		12,272				
うち交付金充当額		9,817				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		85.5%				
予算の状況の説明		不用額が2,072千円、不用額の主な物は調査委託料の入札残1,260千円、他に委員会報償費その他に812千円の残が生じている。委員会委員を市民委員を予定していたが、専門性を持たせる為、国・県の行政委員の割合を増やしたことによるものであり、当初予定していた事業内容はすべて実施した。活動・成果目標の達成状況を踏まえても適正であると考えている。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・糸満市の公共交通の現況及び先進事例等の調査の実施	目　標	（　調査　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	調査実施			
・実証実験の手順案の作成	目　標	（　手順書案作成　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	手順案作成			

達成状況説明

公共交通の現況調査については、①関係上位計画の整理、②、既往調査資料の整理、③関係機関へのヒアリング等が実施でき、市民アンケート(全世帯)、や高校、中学校、小学校、老人会、観光客へのアンケートも実施し目標以上の達成ができた。
先進地視察も県外視察は複数(2以上)を目標にしていたが3市、2事業所の視察を行った。
実証実験の手順案を作成できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
・糸満市の公共交通現況調査及び実証実験等の手順書作成	目　標	（　）	（手順案作成）	（　）	（　）	（　）
	実　績		手順案作成			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

現況調査、先進地視察等を行った事により糸満市の課題が明らかになり、今後の糸満市公共交通の基本方針、実証実験等の手順を示した調査報告書を策定することができた。
実証実の手順では、交通不便地域における実証実験、糸満～那覇空港線における実証実験の2案の流れが示された。

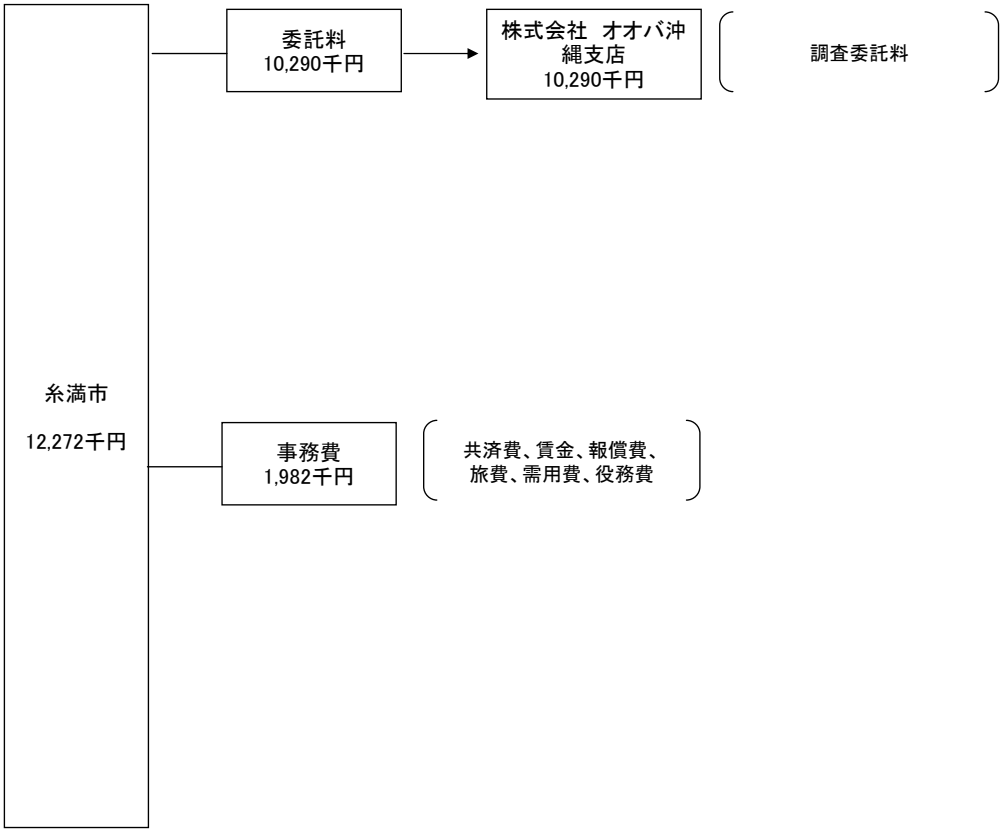
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	糸満市の現況調査を行ったことにより、交通空白地帯や過疎地域の課題等、様々な課題を把握することができた。 検討委員会委員からも過疎地域の課題を優先すべきとの意見も出た。	糸満市の課題は、優先順位をつけ本事業以外の事業で解決を図る。 検討委員会の所掌事項を随時確認し所掌事務の範囲内で解決できる事を検討するようにする。

今後の取り組み方針

調査報告書で得られた基本方針、調査手順書を踏まえ、幅広い利用者にとって利便性の高い広域公共交通路線の拡充を目指し、那覇空港から糸満市（糸満バイパス）経由の実証実験詳細計画策定を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
12,272	12,272	9,817	2,455	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は仕様書の基づき指名競争入札にて選定しており、選定方法、予算規模が妥当だったと考えている。 ○費目・使途は、委託料、事務費、共に市から直接支出しており適正だったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑧	戦火を逃れた文化遺産の保護事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(4)－ア 沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり
担当部課名	教育委員会　総務部　生涯学習課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

沖縄県本島南部は大戦の激戦地で多くの歴史文化遺産が焼失した。本市には奇跡的に残った砂岩質の石碑（報得橋記）があり、尚敬王によって架設された報得橋の経緯や役割等について記載されいる。同石碑を報得橋敷地内に移設し、表示板の設置等を行い、市民及び観光客に公開して本市の観光振興に資する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,449				
	(b) 予算現額	3,449				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	3,449	0			
B. 執行済額		2,730				
うち交付金充当額		2,184				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		79.2%				
予算の状況の説明		当初計画では、報得橋記が所在する民有地を買上げ、覆屋や説明板等の設置を予定していたが、実施にあたり地権者の同意が得られなかったことから、報得橋記を公有地へ移設し、移設先で覆屋等を設置するなどしたため719千円の不用額が生じた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・石碑の移設及び覆屋等の設置	目　標	（　1式　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	1式			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：当初計画では、報得橋記が所在する民有地を買上げ、覆屋や説明板等の設置を予定していたが、実施にあたり地権者の同意が得られなかったことから、報得橋記を公有地（報得橋移設地）へ移設して覆屋・表示板の設置及び防草措置を実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・石碑の移設及び覆屋等設置の実施	目　標	（　　）	（　1式　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		1式			
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：報得橋記を移設した公有地には、県道7号線改築工事に伴って発見された報得橋が移設展示され、平成5年3月には報得橋に関する説明板も設置されている。今事業で報得橋架橋の経緯が記された報得橋記を同地へ移設したことにより、さきに移設された報得橋と合わせて、市・県民及び観光客等に郷土の歴史文化に関する学習・理解を深める機会を提供できる。

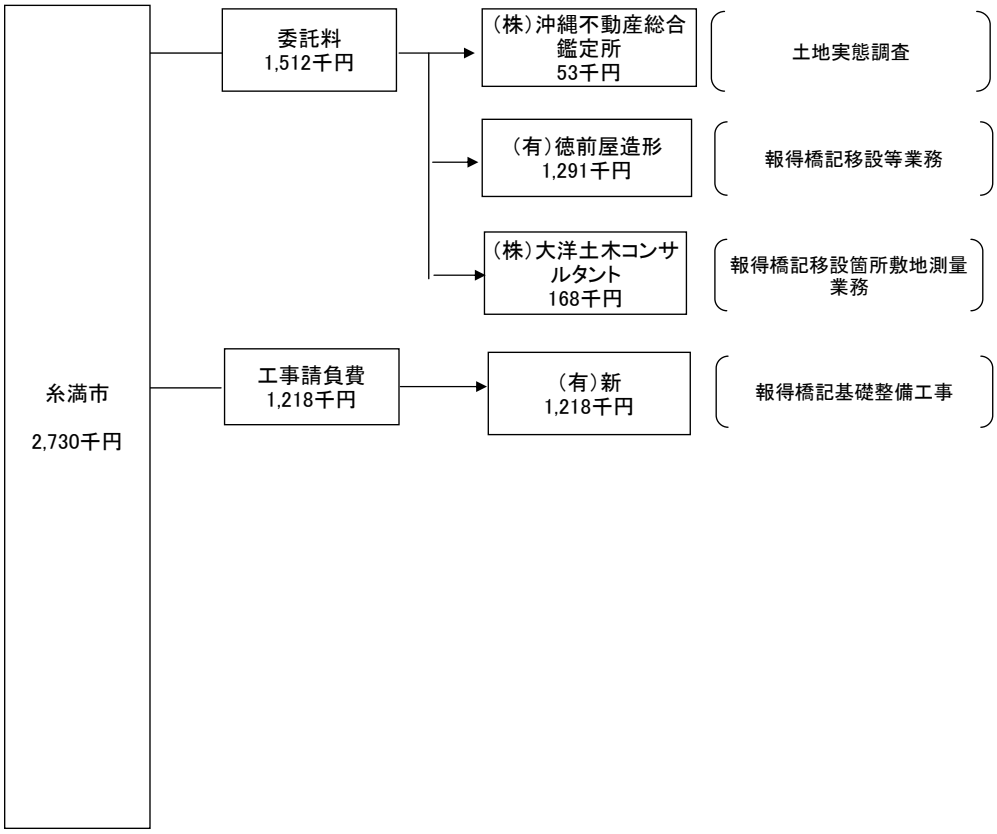
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	当初、報得橋記の所在する民有地の買上げを予定していたが、地権者との合意に至らなかったため、平成5年から移設展示されている報得橋の敷地内へ、報得橋記を移設した。	報得橋記の移設地には、平成5年に移設を行った報得橋が移設展示されている。報得橋記は、報得橋の架設等の経緯が記されており、同一敷地内で橋本体と架設経緯が記された石碑を見ることができるため、観光振興や市民県民等の郷土の歴史文化に対する生涯学習の向上等に資することができる。

今後の取り組み方針

市教委では、出前講座の一つで「糸満市の文化財と史跡めぐり」を提供してきており、報得橋についても、これまで説明等を行ってきたが、報得橋記については、道路対面の民有地にあり、草木が繁茂しているためこれまで案内を控えてきた。本事業で、報得橋記を報得橋と同一敷地内に移設できたことにより、橋本体と合わせた説明が容易となることから、今後は出前講座等で積極的に活用していきたい。また、本事業で設置した説明板には、短文ながら報得橋記移設の経緯を日・英・繁体中国・簡体中国・ハングルの5言語表記で説明しており、本市を訪れる外国人観光客等に対しても、沖縄の歴史文化に対する理解を深める機会の一助としたい。
今後、市の有形文化財指定を検討したい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,730	2,730	2,184	546	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○施工業者は、市の入札参加資格審査に合格し、本市を含む公共工事等に関する実績等があることから妥当であったと考えている。 ○当初の事業内容を一部変更する必要が生じたが、費目・使途等は事業目的に即したものであったことを関係書類等により確認し、適性であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑨	生活感幸（観光）環境づくり事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ
					観光客の受入体制の整備
担当部課名	教育委員会　総務部　生涯学習課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容	市内集落に関する小冊子と地図を作成することにより、本市の風土・文化・歴史などについて学び、散策できる環境を整え、観光客など本市を訪れる人々の利便を図る。
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,477				
	(b) 予算現額	1,477				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	1,477				
B. 執行済額		1,286				
うち交付金充当額		1,028				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		87.1%				
予算の状況の説明		印刷製本費の不用額が189千円生じているが、当初の計画内容はすべて実施した。活動目標、成果目標の達成状況は適正であった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・市史講座の開催	目　標	（　2回　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	2回			
・字単位資料及び民俗地図の作成分	目　標	（　8地区分　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	8地区分			

達成状況説明	・市史講座については、旧兼城村の字賀数・字北波平の2集落において各1回ずつ現地学習会を開催した。 ・旧兼城村を構成する8か字についての冊子資料と民俗地図を字単位で発行した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・市史講座受講者数	目　標	（　）	（　50人　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		43人			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	第1回、第2回の両講座とも、市内からの受講者が多く、受講者にとっては身近な地域の文化遺産・観光資源を認識する機会となった。 また、受講者のなかには観光ガイドなどの関係者も含まれており、これらの人々にとっても良い研修の機会となった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・資料の作成にあたっては、既存資料を活用するとともに対象となる各集落での確認調査等を行った。 ・市民がより深く地域を知るようになるためには、現地での学習会の開催数を増やすことが必要である。 ・H24年度は兼城地域を題材とした資料の作成と講座の開催を行ったが、他地域を題材とした取組についての要望も多い。	・冊子資料と民俗地図については該当地域の歴史・民俗等情報が豊富で概ね好評であった。 ・現地での学習会である市史講座は、市民にとってその地域への理解を深めるよい機会となったが開催数に限りがあるので、市史講座とは別に本市が提供する出前講座等を活用して、市内各地域の歴史・文化の紹介を行うように努めたい。 ・他地域を題材とした取組への要望へ対応するため旧糸満町を対象とした取組・事業化も検討する余地がある。

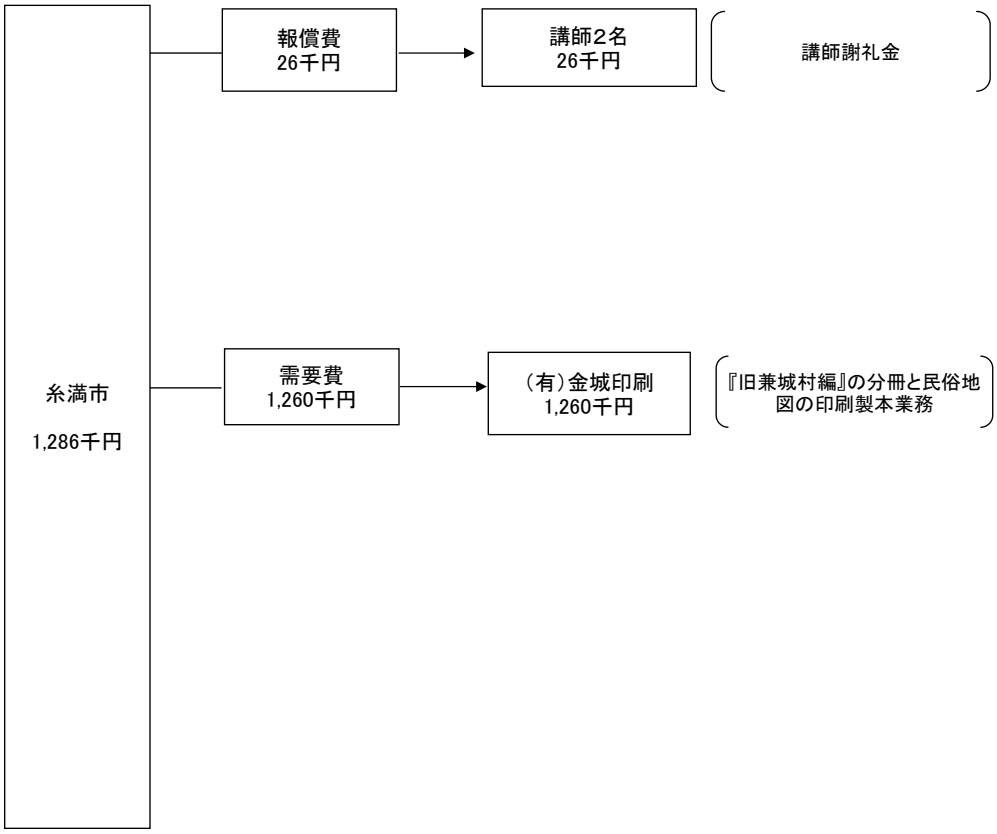
今後の取り組み方針

平成25年度は、 旧糸満町の歴史・文化を理解するための基礎資料の作成を次のように行いたい。
①旧糸満町での民俗調査について記録された資料（仏語）の翻訳。
②旧糸満町の拝所や共同井戸、門中墓等の所在を記した民俗地図の作成。

あわせて、市民に地域の風土、文化、歴史を学ぶ機会を提供するために、市史講座（兼城地域・高嶺地域各1回）を開催する。また、出前講座等の機会を活用して、地域の文化遺産の紹介に努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,286	1,286	1,028	258	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業受託者は市の入札参加資格に登録している業者で、これまでの実績等を鑑み選定し、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものであり、支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑩	地域散策道路整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ
					観光客の受入体制の整備
担当部課名	建設部　建設課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容	観光客が地域内を散策する姿が増加傾向にあるが、域内散策をする道路の利便性や安全性が脆弱であること、さらに、市で取り組んでいる地域の観光資源化事業（村まるごと生活博物館）を進めるうえでも地域の道路整備が求められることから、農村地域の散策道路等を整備する。
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	29,995				
	(b) 予算現額	56,364				
	(c) 増減額 (b-a)	26,369				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	56,364				
B. 執行済額		47,710				
うち交付金充当額		20,762				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		84.6%				

予算の状況の説明：地域住民の強い要望があり、米須・真栄平地区（16,210千円）を追加することにより予算が増加している。また、交付対象外経費（災害復旧工事等（10,159千円））の費用も追加となっている。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・地域の散策道の整備	目　標	（散策道の整備）	（　）	（　）	（　）
	実　績	散策道を整備			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：
・当初目標の照屋地区、与座・新垣地区に米須地区、真栄平地区を追加して整備を行った。
・設計図書に基づき、工事を実施した。整備予定した箇所については計画どおり整備を推進した。
・当初目標から大幅に実施個所が増加しているのは、集落内の観光資源に訪れる観光客等のため、地域住民から整備要望が多数寄せられたためである。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
・地域の散策道の整備（舗装整備）延長	目　標	（－）	（555m）	（　）	（　）	（　）
	実　績		555m			
・地域散策道の整備（側溝整備）延長	目　標	（　）	（553m）	（　）	（　）	（　）
	実　績		553m			

進捗状況説明：
・整備距離についても、計画どおり舗装整備及び側溝整備を実施することができた。
・当初目標から大幅に実施個所が増加しているのは、集落内の観光資源に訪れる観光客等のため、地域住民から整備要望が多数寄せられたためである。

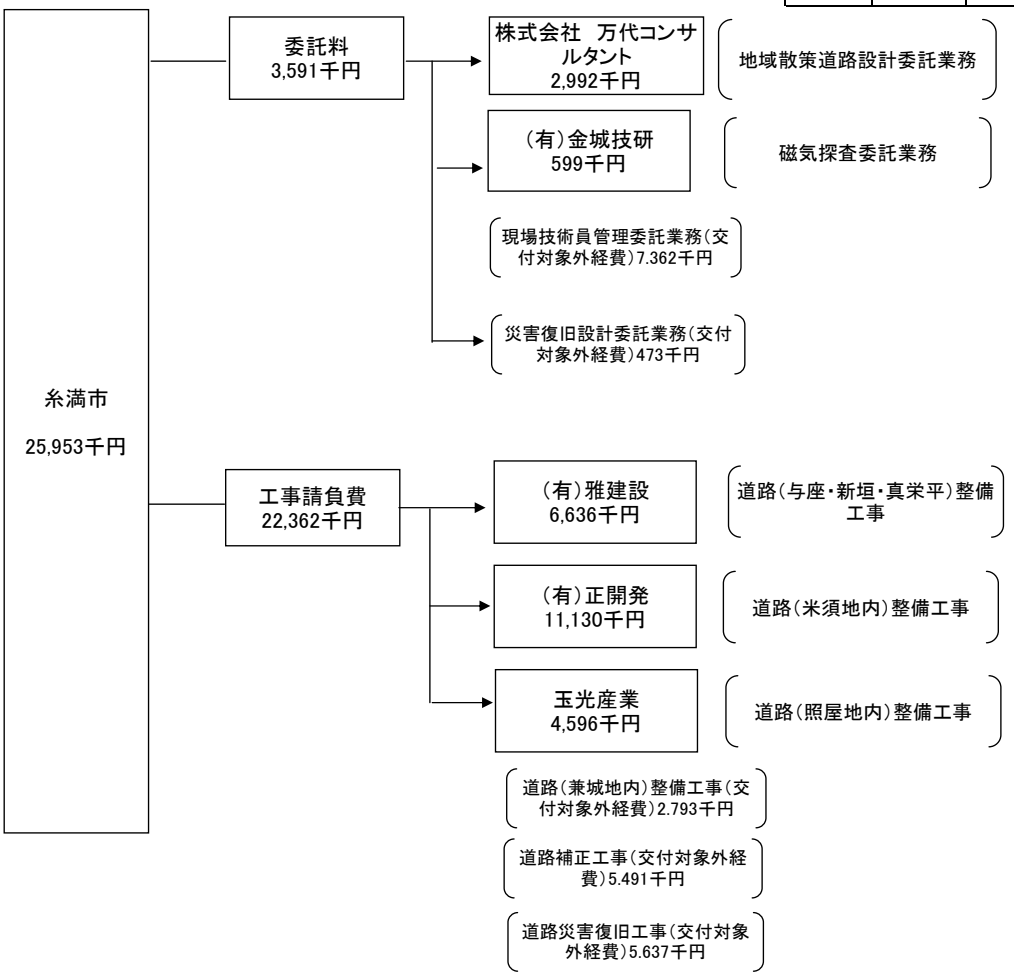
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・地域における散策道の整備箇所については、集落内の観光資源に訪れる観光客等のための散策道としての整備要否の判断を経た上で、地域の要望等も勘案した上で箇所選定を行っている。 ・平成24年度においても地域からの新たな整備要望が多数あり、同要望箇所についても、次年度以降において地域散策道として整備していく必要がある箇所が認められた。	・新たな要望及び整備の必要性等にも対応するため平成25年度以降も散策道整備を行っていく必要がある。 ・整備箇所選定にあたっては各種観光事業（民泊事業導入地域の重点化など）と連携し、相互の事業の相乗効果を高めていく必要がある。

今後の取り組み方針

・次年度以降も引き続き、集落内の観光資源に訪れる観光客等のための散策道として、地域の要望も踏まえつつ年次的に整備を行っていく。
・観光事業との相乗効果を高め、より地域散策がしやすい環境整備に向けた事業箇所選定を行っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
47,710	25,953	20,762	5,191	21,757



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託業者は、本市の指名選定委員会で実績、知識等を勘案して選定した業者であり、妥当であったと考えている。 予算については、設計書の作成をして指名競争で落札した業者と契約することにより、委託額を確定している。 支出については、負担行為で委託額の確認をしており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑪	東シナ海と太平洋が交わるロケーション周辺保全事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ
					観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済観光部　農政課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容	沖縄本島の南部に位置する糸満市は、東シナ海と太平洋が交差する風光明媚なロケーションを有している。それらの観光客の訪れる観光ポイントの環境美化を実施する。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,000				
	(b) 予算現額	5,000				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	5,000	0			
B. 執行済額		5,000				
うち交付金充当額		4,000				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した。活動目標、成果目標を鑑みて適正であったと考えている。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・観光ポイントにおける不法投棄撤去活動の実施	目　標	（撤去活動の実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	撤去活動を実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	当該地域の不法投棄の現況を調査した結果、8ヶ所を選定し、延べ日数15日間で撤去作業を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・不法投棄撤去量：15トン	目　標	（　）	（15t）	（　）	（　）	（　）
	実　績		19.06t			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

予定どおりの撤去活動を実施し、不法投棄物処分数量では目標値を超える結果となった。（合計：19.06t）
・廃プラスチック（10.12t）
・混合（3.03t）
・ガラス（1.51t）
・発砲ウレタン（0.04t）
・廃タイヤ（4.36t）

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	今回の不法投棄撤去により、観光地周辺の環境保全は達成されたが、今後も新たな不法投棄が発生する可能性がある。	不法投棄撲滅の為の立て看板の設置や定期的なパトロールとあわせてマナーアップに関する啓蒙にも取り組んでいく。

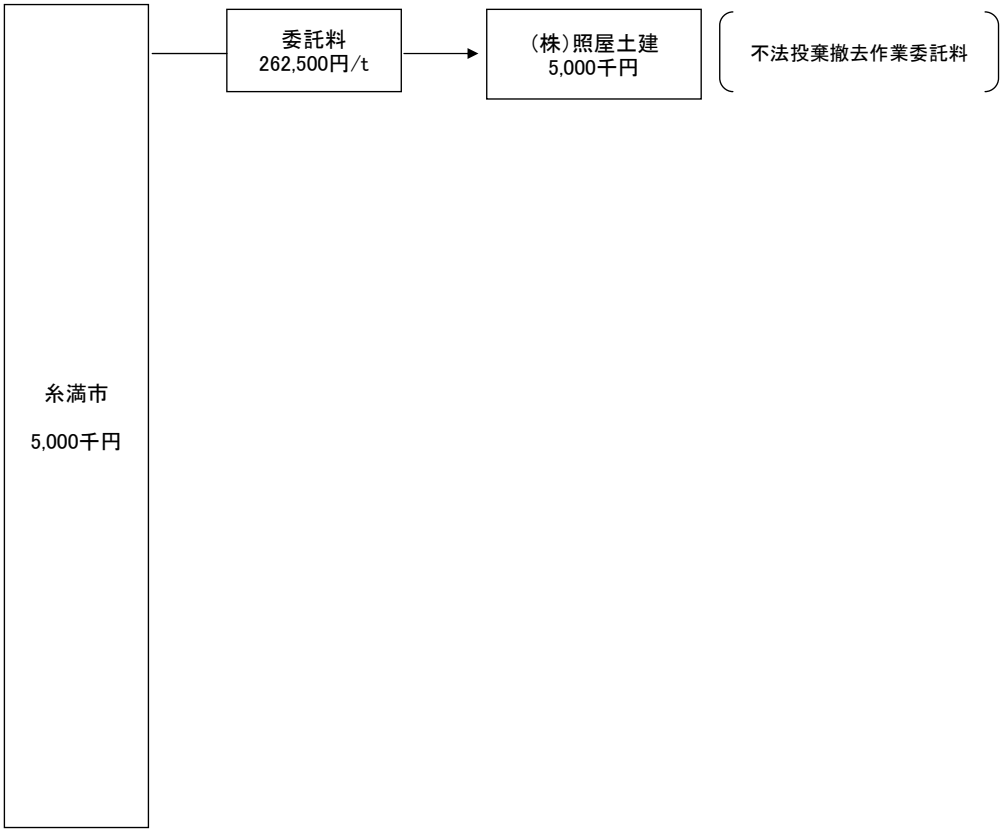
今後の取り組み方針

不法投棄撲滅の為の立て看板の設置や定期的なパトロールとあわせてマナーアップに関する啓蒙にも取り組んでいく。

地域住民及び関係機関と連携し、環境保全の啓蒙及び監視活動を実施する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,000	5,000	4,000	1,000	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○不法投棄物の撤去作業には、混合廃棄物を運搬出来る業者が必要であるため、対応出来る業者を選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑫	冬場のエコスポーツ拡大事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ
					観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済観光部　商工観光課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

沖縄の温暖な気候を求めてスポーツ観光が拡大傾向にあり、本市にあっては他自治体と競合しない新たな観光資源の掘り起こしを行っている。また、本市では本土では冬場コースが凍結し、開催が困難なマウンテンバイクの大会を開催している。外国人を含めたプロ選手等が参加する大会へ拡大するため、大会拡大に対応できる環境整備等を行う。

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,000				
	(b) 予算現額	5,000				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	5,000	0			
	B. 執行済額	5,000				
	うち交付金充当額	4,000				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：予算計上どおりに執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・エコスポーツ（マウンテンバイク）大会の誘致開催	目　標	（　大会開催　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	大会開催			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：
・冬場の観光客誘客のため糸満観光農園でマウンテンバイク大会を業務委託して開催した。
・

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
・マウンテンバイク大会参加来場者数	目　標	（300）	（350）	（　）	（　）	（　）
	実　績		400			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：
初心者向けマウンテンバイクの乗り方教室を実施し、子供から大人までマウンテンバイクの安全な操作の知識を習得させた。
特に、子供向けの乗り方教室を開催したことにより来場者数が増えた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	今後、大会を継続していくために、広く周知を行うことと専用コースを整備する必要がある。	コースを整備するに当たり、日本自転車競技連盟のコース基準にあったコースを整備する必要がある。

今後の取り組み方針

沖縄県サイクルスポーツ振興協会と一体となり、日本マウンテンバイク協会公認に向けて、次年度以降も大会の開催及びコース整備に取り組んで行く。また、通年使用出来るよう観光農園等のホームページ等で案内し、競技人口の拡大にも努める

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,000	5,000	4,000	1,000	

糸満市
5,000千円

→ 委託料 5,000千円 → （社）沖縄県サイクルスポーツ振興協会 5,000千円 （第1回糸満市長杯マウンテンバイク大会運営業務委託）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受託事業者の沖縄県サイクルスポーツ振興協会は、事業内容を遂行するにあたり県内随一の豊富な実績、知識を有することから、選定は妥当であったと考える。 ○事業目的達成の観点から必要最小限の支出であり、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-①	スマート化基本計画策定事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(3)－ア
					地球温暖化防止対策の推進
担当部課名	企画開発部　政策推進課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容	本市の先進的な環境への取組を更に推進すべく、糸満市庁舎のエネルギー利用をより効率化するための調査計画を行う。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,060				
	(b) 予算現額	4,060				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	4,060	0			
	B. 執行済額	3,843				
	うち交付金充当額	3,074				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		94.7%				

予算の状況の説明	不要額が217千円発生しているが、委託費の入札残であり、当初計画していた調査内容は全て実施し、活動・成果目標の達成状況を踏まえても適正であると考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・庁舎のエネルギースマート活用調査の実施	目　標	（活用調査の実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	調査の実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	糸満市新エネルギービジョンの理念に基づき、省エネ・新エネの象徴の一つである糸満市庁舎について既存設備の高効率化及びエネルギー利用効率の高い機器への変更等の機能強化を図り、低炭素社会の実現に向け先導的な取組みを行う環境モデル庁舎として広く市内外にPRすることを目的に、省エネ診断基礎調査報告書を前提とした現況調査、太陽光パネル発電変換効率高効率化実証実験及び空調環境負荷低減手法検討などの調査を実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（24年度）
・調査により得られた庁舎のエネルギースマートの方策案	目　標	（0）	（5件）	（　）	（　）	（5）
	実　績		5件			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	太陽光パネル発電変換効率高効率化実証実験及び空調環境負荷低減手法検討などの調査事業の実施により、庁舎のエネルギースマート化の方策案5件の提案が得られた。おおむね目標とおりの成果が得られた。

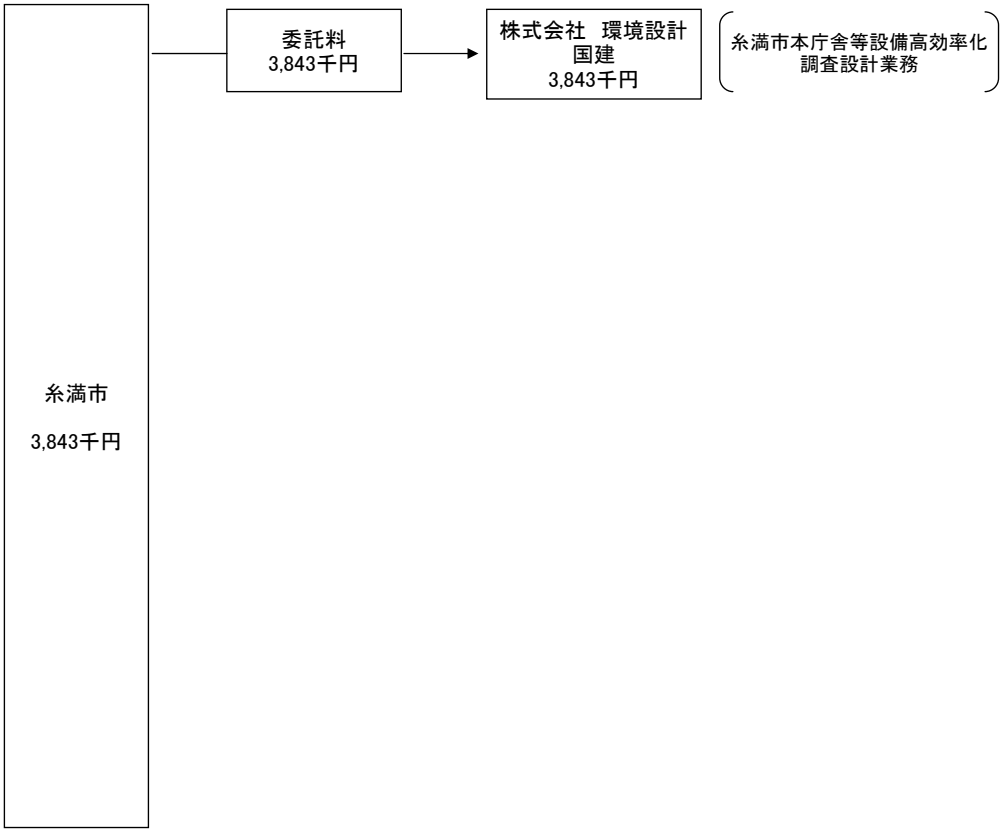
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○太陽光パネル発電変換効率高効率化実証実験で、散水設備により一定程度のパネル温度低減の効果が得られたが、課題として散水設備にかかる維持経費（水道料金、水を汲み上げる電気代等）と発電変換効率高効率化により削減できた経費等を比較すると、費用対効果に課題が残る。 ○空調環境負荷低減手法検討の一つである「太陽光パネルの修繕の検討」において、既存施設の製造会社の事業撤退により、糸満市特別仕様のパネルとの交換ができない状況である。	○散水量や散水時間の適正化及び設備の低コスト化を図ることで、費用対効果に見合う取組みが実施できる。散水設備によるパネルの温度低減の効果により、発電効率が上がり、確実に二酸化炭素排出量が削減されることから、地球温暖化防止に関するさらなる取組の強化を目指す。 ○太陽光発電パネルを整備した当時（平成14年度稼働開始）と比べ、国内外のメーカーの新たな参入や技術革新により、太陽光パネルのコストダウンと変換効率の向上が実現されていることから、既存メーカーにとらわれることなく、製品の選定を行うことで、さらなる二酸化炭素排出削減に寄与することが可能となる。

今後の取り組み方針

○本調査事業で得られた庁舎のエネルギースマート化の方策案を基に、市庁舎の太陽光発電設備の合理化により効率化をはかり、施設内容を分かりやすい内容で解説する説明版の整備等「太陽光エネルギー利用設備合理化事業」を実施予定。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,843	3,843	3,074	769	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札により選定されていることから妥当であったと考える。 ○予算規模や費目・使途は、事業の活動及び成果目標の達成状況、さらに、確定検査等により適正であったと言える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-⑤	エコカー導入事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(3)－ア
					地球温暖化防止対策の推進
担当部課名	総務部　総務課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容	公用車にエコカーの導入と電気自動車用充電器を設置することにより、クリーンエネルギーの普及啓発を推進する。
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	13,048				
	(b) 予算現額	33,307				
	(c) 増減額 (b-a)	20,259				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	33,307	0			
	B. 執行済額	32,094				
	うち交付金充当額	25,345				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		96.4%				
予算の状況の説明		エコカー購入車数の増より、予算増となった。 当初、3台の購入予定でしたが、エコカーの普及啓発を図るためには、8台まで増数し、市内外を走行させることで、より効果的な啓発活動が可能であると判断した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・庁用充電施設の設置	目　標	（　1箇所・12基　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	1箇所・12基			
・庁用電気自動車導入台数	目　標	（　8台　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	8台			

達成状況説明	庁用普通充電設備1か所12基を設置した。 当初、1基の予定を12基に増設したことにより、車両ごとの充電場所が設定されたことにより、待機することなく充電が可能となった。 庁用電気自動車(軽貨物型5台、普通自動車型3台)を購入した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・庁用充電施設の設置	目　標	（　　）	（1箇所・12基）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		1箇所・12基			
・庁用電気自動車導入台数　8台	目　標	（　　）	（8台）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		8台			

進捗状況説明	庁用普通充電設備1か所12基を設置した。急速充電でないため、充電には時間を要するが、複数台の設置により同時充電が可能となり、日々の運行に支障の出にくい充電体制が確保できた。 庁用電気自動車(軽貨物型5台、普通自動車型3台)を購入し、当初の計画どおりの施設・台数の確保ができた。

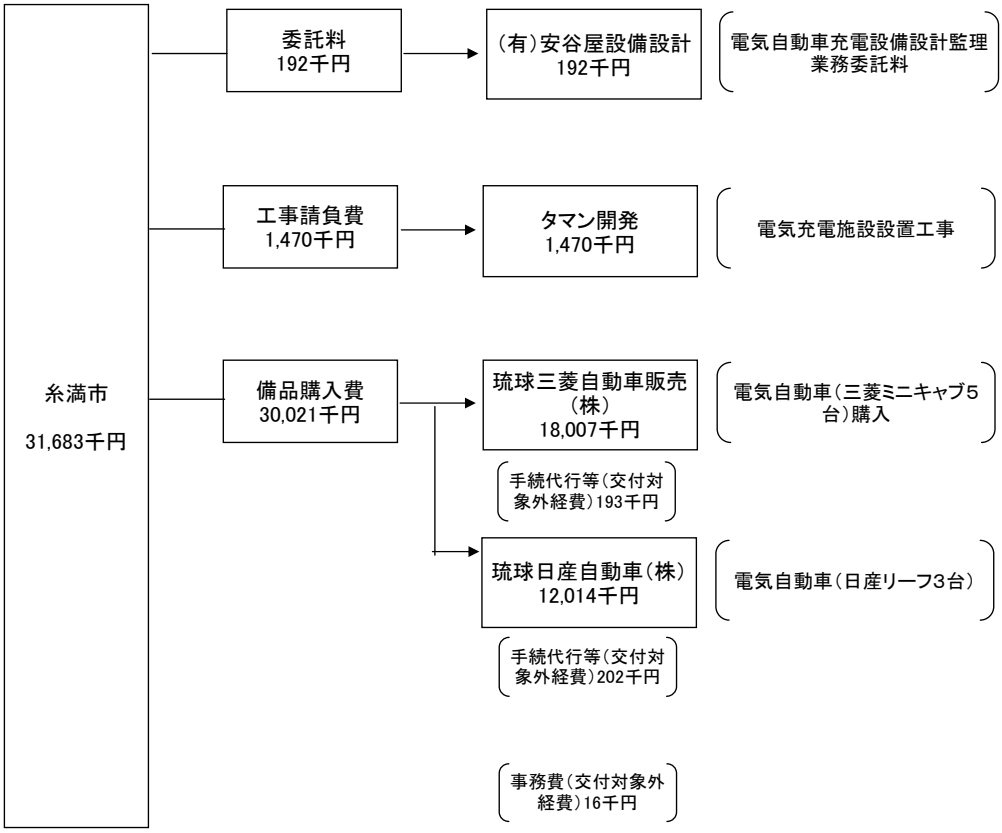
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	平成24年度は、庁用普通充電設備の導入、庁用電気自動車の購入を実施した。 電気自動車の普及啓発に効果的な台数の確保のみならず、様々な視点（走行時排出CO2の削減等）からの検討も加えた台数の設定の検討を行うことも必要と思われる。	・普及啓発に必要な適正な台数の確保においては、車両運行状況も踏まえた検討が必要と思われる。 ・また、実用車として目に触れることだけで普及啓発するのではなく、これにより発生を抑制した走行時排出CO2の削減についての広報についても定期的に行っていく必要がある。

今後の取り組み方針

・平成25年度以降も、普通充電設備使用の市民利用を広報のほか、各種媒体（広報紙、HP、地元FMラジオ）を活用した広報活動を展開していく。
・車体にクリーンエネルギーの普及啓発を示すデザインを施した電気自動車を日常業務や、イベント等（トリムマラソン等スポーツ大会での補助車等）で活用することによって、一般の方が電気自動車を選択するような啓発に努める。日常業務では、市内訪問等の多い部署（市民生活環境課、税務課、健康推進課、社会福祉課、国民健康保険課等）に配置し、走行回数頻度を高くし、市民や近隣市町村等の方の目に触れることによって、電気自動車の普及啓発に努める。
・庁用電気自動車における走行時CO2排出量削減効果についても定期的に広報媒体を通じた広報を展開していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
32,094	31,683	25,345	6,338	411



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○普通充電設備に係る設計監理業務、当該工事は入札による適正な手続きのもとに実施された。電気自動車の購入にあたっては、現行市場で量産販売されている軽貨物自動車、普通乗用車販売先から選択した。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-⑥	電動式塵芥収集車導入事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ア 国際的な沖縄観光ブランドの確立
担当部課名	市民健康部　生活環境課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

塵芥収集車に電気自動車を導入し、クリーンなまちづくりを啓発する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	14,000				
	(b) 予算現額	14,000				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	14,000				
B. 執行済額		13,319				
うち交付金充当額		10,602				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		95.1%				
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・電動式塵芥収集車の導入数	目　標	（　1台導入　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	1台導入			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：・電動式塵芥収集車を導入。（1台）

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・電動式塵芥収集車の導入数　1台	目　標	（　0台　）	（　1台　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		1台			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：・電動式塵芥収集車（2トン）の導入により、CO2が削減され、クリーンなまちづくりの啓発に取り組むことができた。

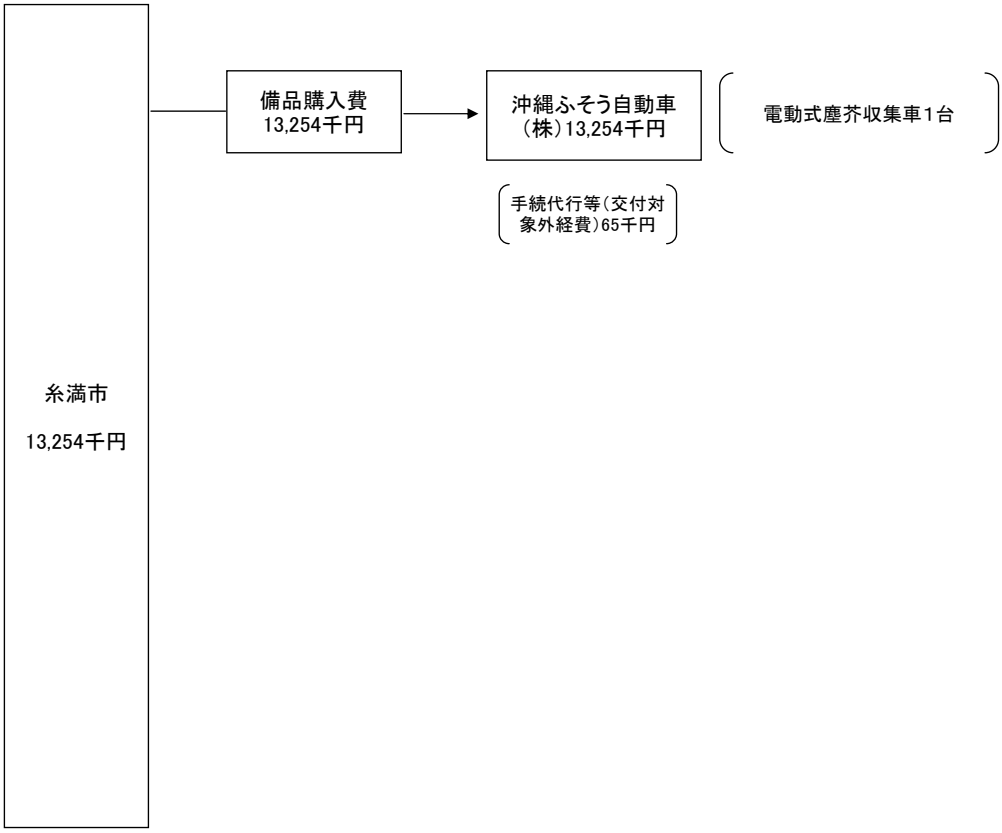
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・本市直営の塵芥車2台のうち、1台を電動式塵芥車（2トン）に切換え稼働することによりCO2排出量が削減され、車体にもクリーンエネルギー普及啓発のデザインを施し、公共施設等のごみ収集用に市内を巡回することで、クリーンなまちづくりの啓発に一定の効果があったと思われる。 ・CO2排出低減による環境配慮に対する思想の普及の面においては、1台の運行では、普及効果としても限定的である。	・本市直営の塵芥車を全て電動式へ切り替えること（市直営管理は計2台）で、クリーンエネルギーの普及啓発及び今以上のCO2排出量の削減に寄与することが可能となる。そのため、平成25年度において残る1台の塵芥車についても対応していくことが望まれる。

今後の取り組み方針

・市直営の塵芥車を電動式塵芥車（2トン）に切り替え、市内を巡回することで、市民に対してクリーンなまちづくりの啓発する。
・電動式塵芥車の活用により、クリーンなまちづくりにおける更なるCO2排出削減を目指していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,319	13,254	10,602	2,652	65



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は組織、実績、知識等を勘案した上で指名競争入札にて選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-⑦	燃料ごみ処理モデル事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(3)－ウ 低炭素都市づくりの推進
担当部課名	市民健康部　市民生活環境課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	現在、4地区のみで取り組んでいる可燃ごみの固形燃料化を市全域に広めていくよう「燃料ごみ処理モデル事業」を推進する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,299				
	(b) 予算現額	4,299				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	4,299	0			
	B. 執行済額	2,747				
	うち交付金充当額	1,627				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		63.9%				
予算の状況の説明		当初見込んでいた処理量（H22実績より）よりH24実績が下回ったため、処理費用も下回り執行率が低くなった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・燃料ゴミ収集の実施	目　標	（　104回/年　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	102回/年			
・燃料ゴミ化推進広報の実施	目　標	（　10回/年　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	10回/年			

達成状況説明

・モデル地区を週2回の収集を実施、可燃ゴミの搬出量を抑え、ゴミの資源化に効果があった。
・チラシ配布、広報掲載を行うことで市民への周知が図られた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・H24年度再資源化(RPF)量	目　標	（　143トン　）	（　145トン　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		127トン			
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明

・当初見込んでいた処理量（平成22年度実績をもとに算出）を平成24実績は下回った。要因として、公共施設等から排出される機密文書等を燃料ごみとして排出しなくなったため、古紙類の処理量が減少していることにある。

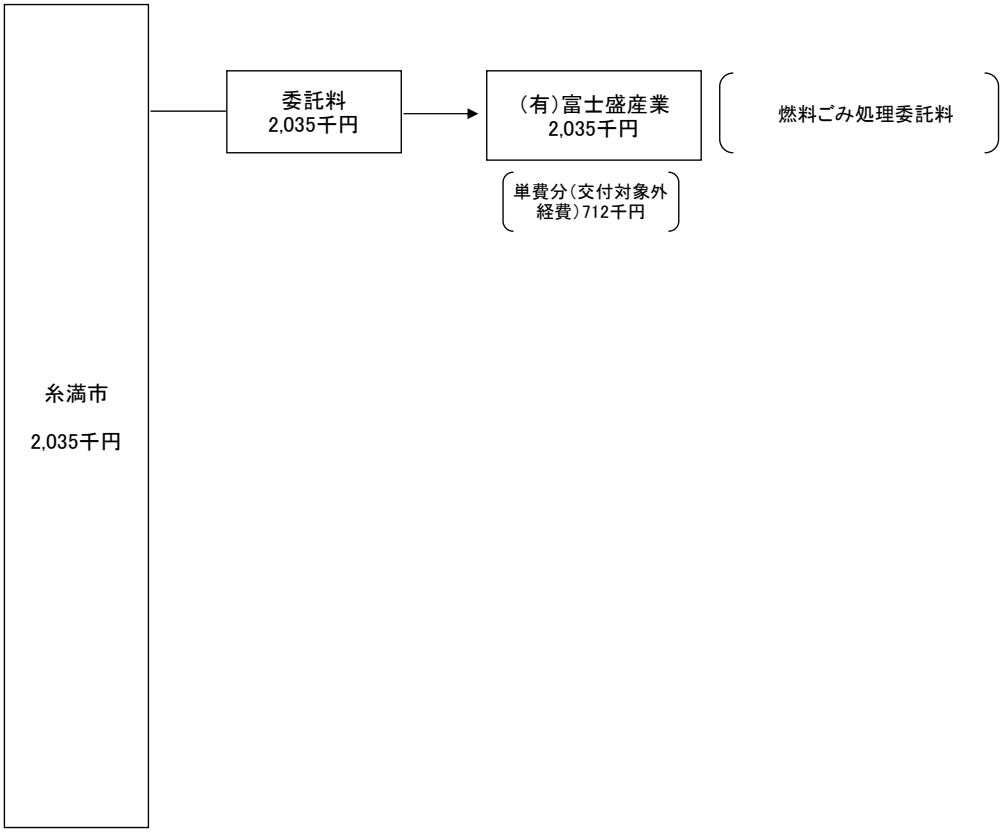
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・モデル地区が4か所のみである ・古紙類の処分量が低下してきている。	・モデル地区の拡大 ・広報等を活用し、市民への燃料ごみ分別についての周知徹底

今後の取り組み方針

燃料ごみ（RPF）分別の周知徹底及びモデル地区と連携し、取組みに前向きな自治会から、勉強会等を通して分別を実施し、平成26年度モデル地区拡充への環境を整備する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,747	2,035	1,627	408	712



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託業者は組織、実績、知識等を勘案した上で選定、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	3-②	スポーツ観光分野開拓事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(1)－イ 「スポーツアイランド沖縄」の形成
担当部課名	教育委員会　指導部　社会体育課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

本市への県内大会、九州、全国大会の誘致を促進する取り組みとして、県内で活躍する団体等の試合やトップアスリートの講話・実技指導等を実施した。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,780				
	(b) 予算現額	3,780				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	3,780	0			
	B. 執行済額	3,575				
	うち交付金充当額	2,859				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		94.6%				

予算の状況の説明：計画した事業についてはすべて実施できた。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・ウォーキングコースの開発	目　標	（　4コース　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	4コース			
・ウォーキング大会の開催	目　標	（　大会の開催　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	大会を開催			

達成状況説明：
・ウォーキング大会の開催に併せて、今回4つのコース開発を実施した。概ね計画どおりの規模で開催できた。
・また、海洋スポーツフェスティバルについては、海のまちの特色を生かした、昔ながらのサバニ体験やカヌー、ウォーターバード体験、砂浜におけるビーチサッカー、ドッチボール交流大会など様々なメニューを盛り込んだフェスティバルとして開催することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
・ウォーキング大会・海洋スポーツ大会参加者数	目　標	（　0人　）	（　1,300人　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		1.320人			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：
・ウォーキング大会については、トップアスリートも招聘するとともに、日本ウォーキング協会の月刊紙や観光関係者等にもさらにPRし、今回の大会としては720人の参加があった。
・海洋スポーツフェスティバルについては、参加人員500を目標に進め、結果600人の参加をいただいた。同2つの大会を通じて合計1.320人の参加者があり目標どおり実現できた。

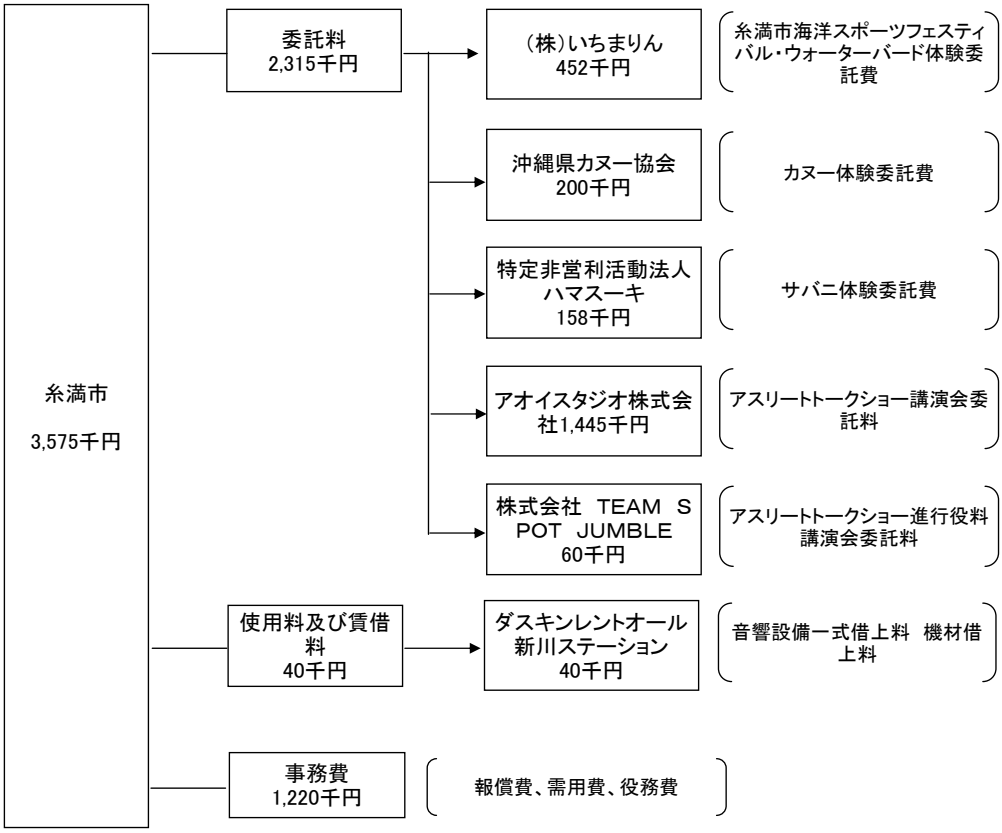
	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・ウォーキング大会については、参加者から、健康・体力つくりや糸満市内の平和観光ガイドを使っての歴史・史跡・文化・戦跡地を学習する機会としての事業の取り組みは評価された。 しかし、コースを4コース設定し、スタート地点と史跡、戦跡地との距離が長いとの声もあり、反省事項に基づき検討していきたい・ ・海洋スポーツフェスティバルについては、自然との共存問題であり、今回11月に計画しましたが、直前の大雨、洪水、雷雨注意報が発令され、3月に延期し実施しました。3月となると、まだ寒さがあり、次年度は、夏のシーズンに開催したい。	・今後の取り組みとしては、既存の事業や各種スポーツ団体等との日程調整を図り、早い時期から計画し取り組んでいくことが必要である。

今後の取り組み方針

・ウォキング大会については、市民ニーズや大会関係役員の意見等を踏まえて、開催時期やコース設定等について効率的に改善していきたい。
・海洋スポーツフェスティバルについては、開催場所やビーチとの調整や参加種目の選定についても関係競技団体等とも検討していきたい

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,575	3,575	2,859	716	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	本事業で起用のトップアスリートを確保できるのは、アオイスタジオ株式会社のみであり、契約の性質や目的が競争入札に適しないことから随意契約とした。 その他契約については、自治令167条の2第1項第1号により随意契約とした。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-①	海抜表示委託事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ
					観光客の受入体制の整備
担当部課名	市民健康部　市民生活環境課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

本市は、観光客が多く訪れる地のひとつであり、訪問地は海に近いところが多い。観光地をはじめ市内要所に海抜表示を行うことにより市民、観光客が安心なまちづくりとする。

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,675				
	(b) 予算現額	3,675				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	3,675				
B. 執行済額		3,673				
うち交付金充当額		2,938				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		99.9%				

予算の状況の説明：予算はほぼ全額執行されており、活動目標、成果目標の達成状況から鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・海抜表示の設置	目　標	（海抜表示の設置）	（　）	（　）	（　）
	実　績	海抜表示を設置			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：海抜表示は、低地帯の電柱に390箇所、公共施設、民間施設に165箇所、合計555箇所に設置した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・海抜表示の設置箇所数	目　標	（　）	（555箇所）	（　）	（　）	（　）
	実　績		555箇所			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：低地帯ほぼ全域と、公共施設並びに主な民間施設に当初計画どおりの表示箇所数（555箇所）で設置できた。

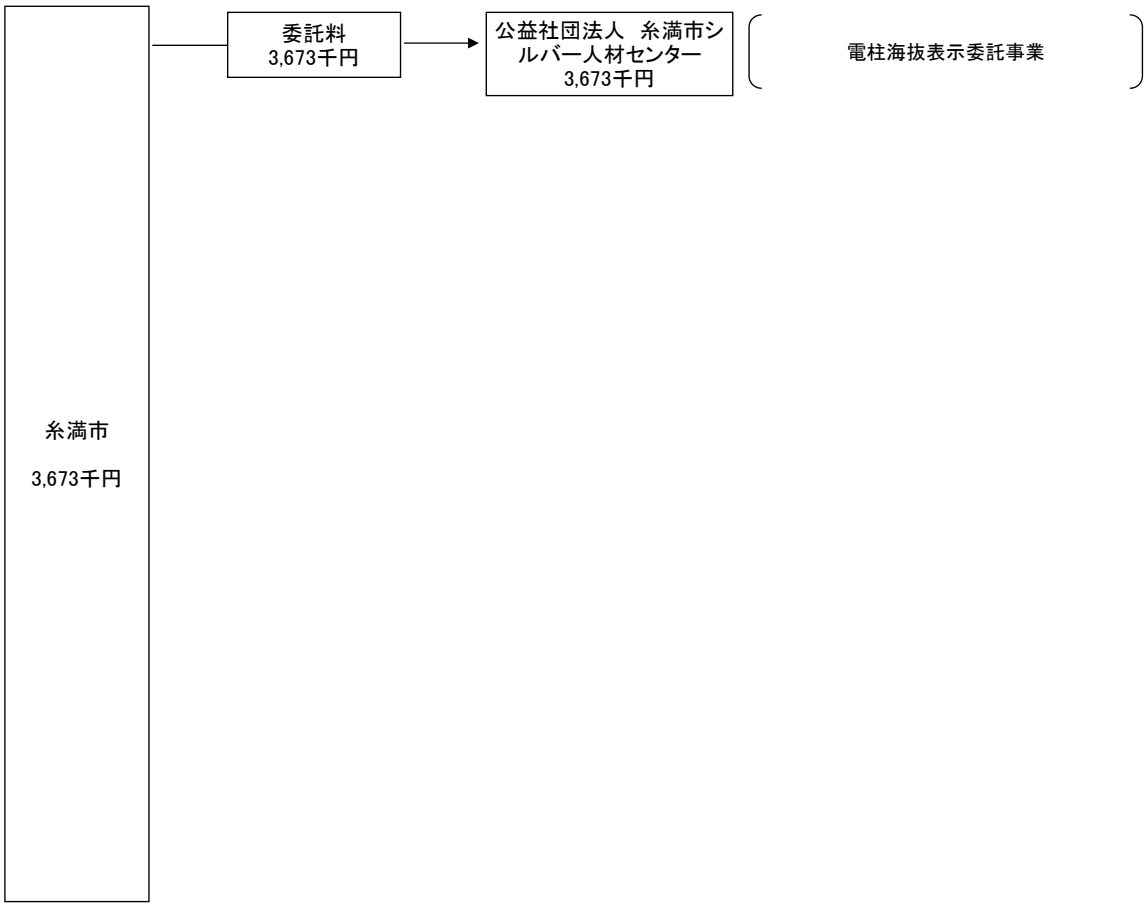
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・低地帯及び公共施設、民間施設に海抜表示が設置され、市民及び観光客の津波発生時の避難の目安とり、防災意識の高揚が図られている。 ・平成24年度では内陸部の施設には設置できなかった問題がある。	・海抜を常時表示することにより、市民及び観光客が、津波発生時に避難の目安となり、又防災意識の継続的な高揚が図られた。 ・内陸部においても設置し、市民や地理に不慣れな観光客に向け周知を図る必要がある。

今後の取り組み方針

本市には、内陸部に多くの観光施設が存在するため、平成25年度においても引き続き内陸部に海抜表示を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,673	3,673	2,938	735	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先事業者は、法人格有した事業所であり組織、実績等を勘案した上で選定しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-③	観光地危機管理対策事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	市民健康部　市民生活環境課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	大型ホテルや道の駅の設置、観光レジャーの拡大等県内有数の観光地として成長する本市にあって、観光客の増大に伴う事故や不測の事態への対処できる体制の確立が急がれるため、多様で高度な事故等へ対応できる環境整備を行う。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	25,815				
	(b) 予算現額	25,815				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	25,815				
B. 執行済額		21,424				
うち交付金充当額		17,138				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		83.0%				
予算の状況の説明		不用額が4,391千円発生しているが防災資機材整備事業（備蓄倉庫）の入札残によるものであり、当初計画内容はすべて実施た。活動目標、成果目標の達成状況は、適正であった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・市内防災拠点施設への防災資器材の設置	目　標	（　資器材の設置　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	資器材を設置			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				
達成状況説明	自主防災組織が結成されている、7自治会に対し防災資機材を納入。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・防災拠点の防災資器材設置箇所	目　標	（　　）	（　7箇所　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		7箇所			
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					
進捗状況説明	当初からの予定の自主防災組織が結成されている7自治会に対し防災資機材を納入した。					

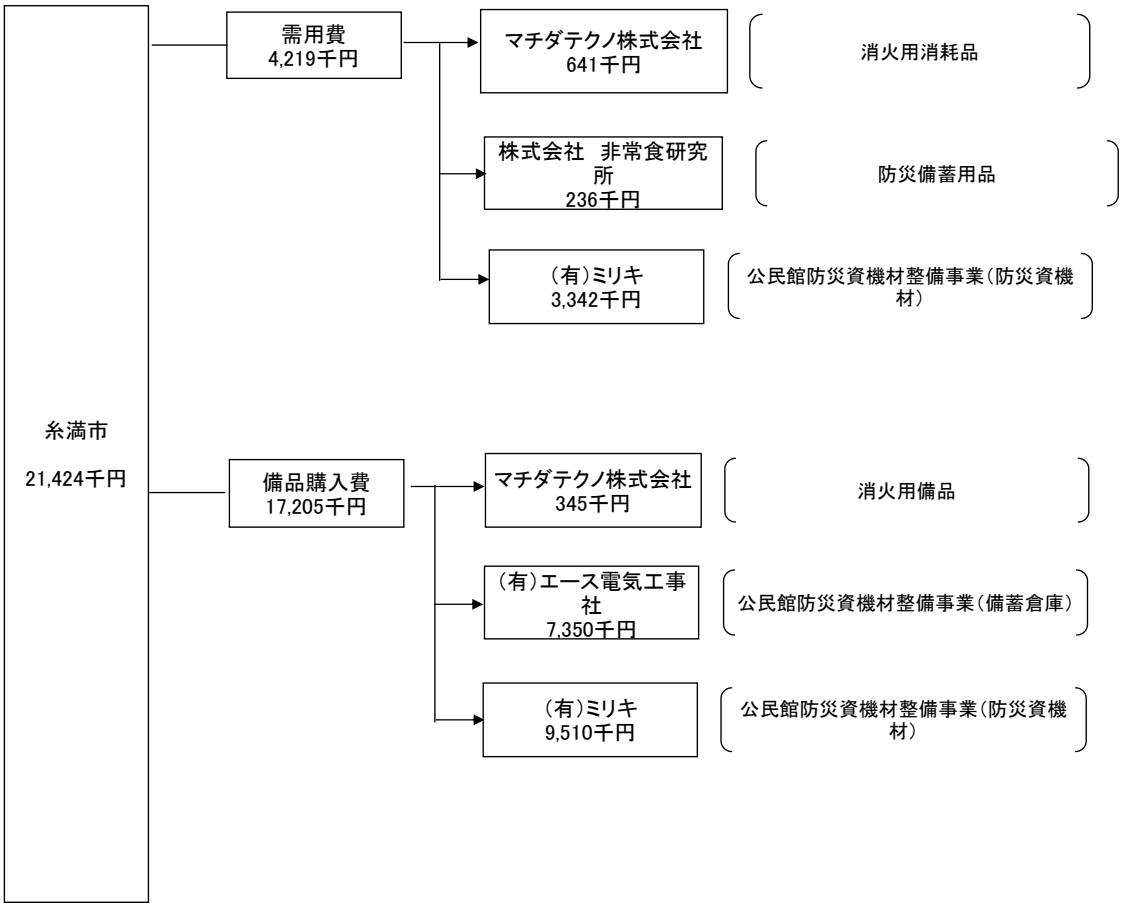
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本事業は、自主防災組織が結成されている自治会が対象であるが、本市の、73の自治会の内、自主防災組織が結成されているのは7自治会のみである。特に低地帯にある自治会については、自主防災組織の結成が望まれる。	自治会の自主防災組織の結成を促す。

今後の取り組み方針

・資器材を設置した自治会へ自主防災組織の結成促進に向けて、自治連絡員会議及び地域に出向いて説明会を行っていく。
・緊急時の活用ができるような訓練等の実施も導入していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
21,424	21,424	17,138	4,286	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○請負業者は、入札により選定された業者であり、実績、知識等を勘案して妥当であった。 ○予算規模・費目・使途については事業目的達成の観点から必要最低限なものである。 ○自主防災組織が結成されている7自治会に対し、防災資機材を支給した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-④	減災マップ作成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	市民健康部　市民生活環境課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	災害時非難に必要な標高、避難場所情報等が掲載された地図の作成し、市民や観光施設等事業所へ配布し、観光地として不測の事態に対応できる環境を整備する。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	8,190				
	(b) 予算現額	8,190				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	8,190	0			
	B. 執行済額	8,190				
	うち交付金充当額	6,552				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：・予算は全額執行されており、活動目標、成果目標の達成状況から鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・減災マップの作成・配布の実施	目　標	（ マップ作成配布 ）	（　）	（　）	（　）
	実　績	マップ作成配布			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：減災マップ26,000部作成し、本市の全世帯、主な観光施設に配布した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・観光拠点へのマップ設置率	目　標	（　）	（ 100% ）	（　）	（　）	（　）
	実　績		100%			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：
・当初計画していたとおり、全23,000世帯、減災マップ配布予定箇所（市内主要観光施設等）に3,000部の配布ができた。
・減災マップを配布することにより、市民及び観光客が災害時に避難のために必要となる、海抜、避難ビル、避難場所などの情報が得られる環境が確保された。

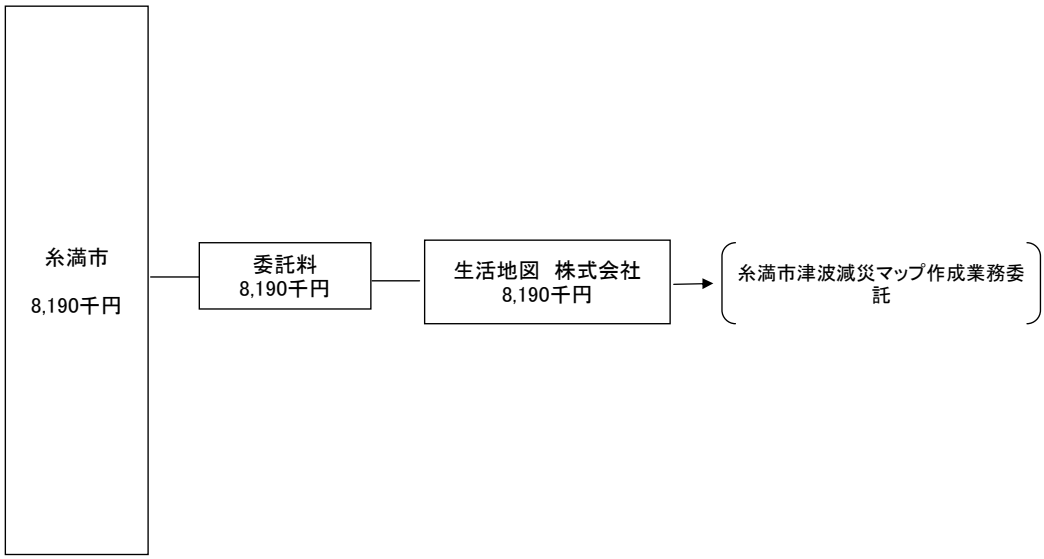
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	東日本大震災以来、市民の防災意識は高く、減災マップを全世帯及び観光施設に配布することにより市民のニーズに対応できた。	全世帯及び観光施設に減災マップを配布したことにより、災害時における市民及び観光客の基本情報が得れれ、防災意識も高まった。

今後の取り組み方針

・平成24年度で終了。
・滞在者、観光客等に当該減災マップに目を通してもらうよう設置機関における配慮協力をお願いしていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,190	8,190	6,552	1,638	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、住宅地図作成について、特殊な技法を習得しており、知識等を勘案し上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4-⑤	学校校舎緊急避難施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ
担当部課名	教育委員会　総務部　総務課	事業実施（予定）年度	平成２４年度		観光客の受入体制の整備
				沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

スポーツ観光施設利用者や近隣住民等の緊急避難箇所がきわめて少ないため、学校施設内にスロープや車いす等で利用できるようにトイレをバリアフリー化し、突発的に発生する災害時の緊急避難施設として整備する。

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,300				
	(b) 予算現額	3,300				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	3,300				
B. 執行済額		3,297				
うち交付金充当額		2,637				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		99.9%				
予算の状況の説明		予算計上どおりに執行できた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・学校施設の緊急避難施設としての機能強化工事の実施	目　標	（　工事の実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	工事を実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：教室内の改造工事　1室（休憩室、トイレ・シャワー室の整備）

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（24年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（24年度）
・学校施設の緊急避難施設としての機能強化工事の実施	目　標	（　－　）	（工事の実施）	（　）	（　）	（工事の実施）
	実　績		工事を実施			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：避難施設としての機能確保　1室

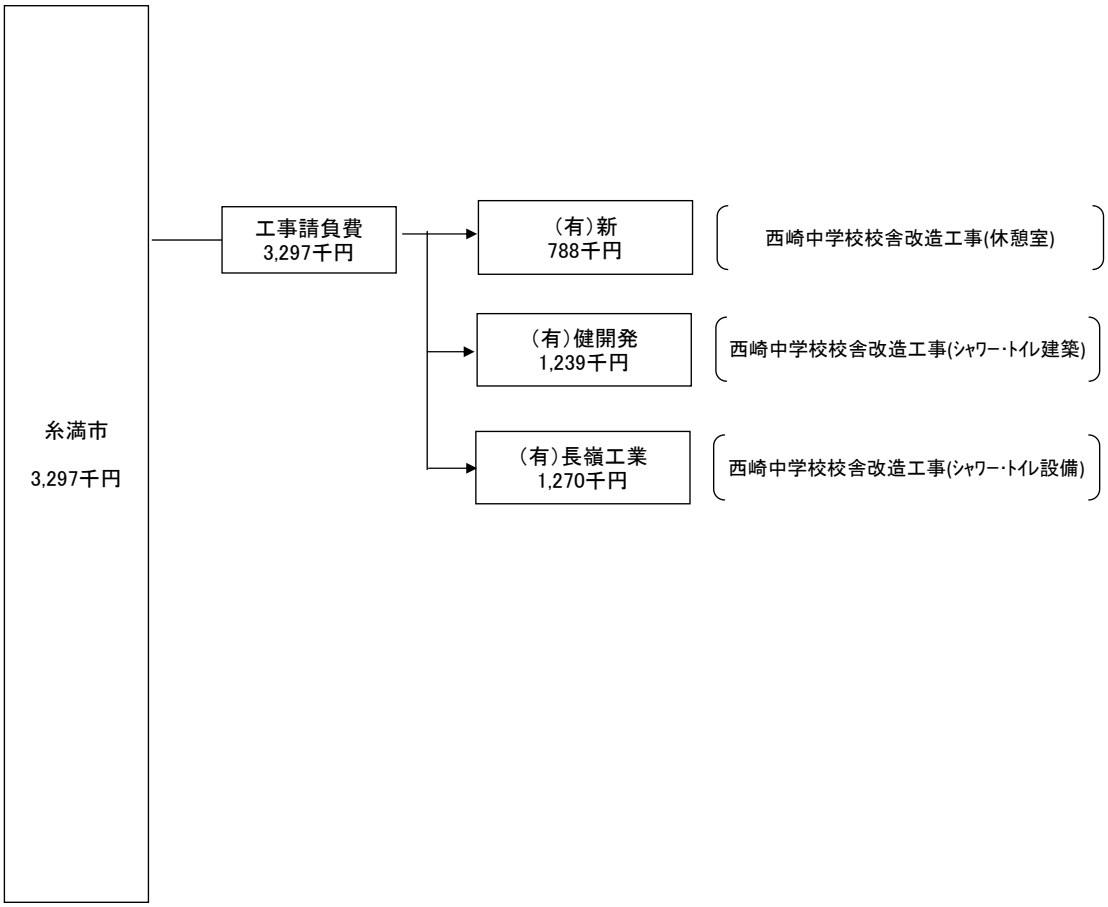
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	緊急避難施設としての機能を最大限生かすためには、規模の拡大が必要である。	今回は1階へ配置したが、今後は各階へ避難施設を取り入れられないか検討を要す。

今後の取り組み方針

大規模災害に対応できるよう、市内全学校へ同様な避難施設を順次整備する計画の策定が必要である。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,297	3,297	2,637	660	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	建設業法による登録業者へ委託し、予算規模・使途については必要最小限の事業支出である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-①	多言語観光案内マップ作成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ
担当部課名	経済観光部　商工観光課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 Ⅲ－1－(1)

事業内容

近年、糸満市にも中国、台湾、韓国など外国からの観光客の訪問が目に見えて増えてきており、その便宜を図るよう多言語表示の観光ガイドマップ(ブック)を作成する。

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,000				
	(b) 予算現額	5,000				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	5,000				
B. 執行済額		4,242				
うち交付金充当額		3,393				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		84.8%				

予算の状況の説明：入札により翻訳料が安価に済んだため、不用額が生じた。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・多言語観光ガイドマップ(ブック)の作成 日本語版	目　標	（　33,000部　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	33,000部			
・多言語観光ガイドマップ(ブック)の作成 韓国語版	目　標	（　8，000部　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	8，000部			

達成状況説明：多言語観光ガイドマップ(ブック)の基本となる日本語版を作成し、併せて韓国版観光マップを作成した。
韓国語版観光マップについては、既存の観光マップ(日本語版)をもとに本市にあるホテルの外国人宿泊客の割合から作成した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・多言語観光ガイドマップ(ブック)配布数	目　標	（　　）	（　21,000部　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		21,000部			
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：本市にあるホテル・民宿へのガイドマップ(ブック)設置をはじめ、近隣の宿泊施設、レンタカー会社などの店頭にて積極的に配布協力をいただいた。また、平成24年11月に開催された全国海づくり大会においても案内ブースにて多数配布することができた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・国によって、興味や観光の形態が異なり、ガイドマップ（ブック）の需要も異なる。	・県の観光入域客数情報や地元のホテルや民宿などの国別観光客数等を参考に、ガイドマップ（ブック）作成部数や作成内容も再検討する必要がある。

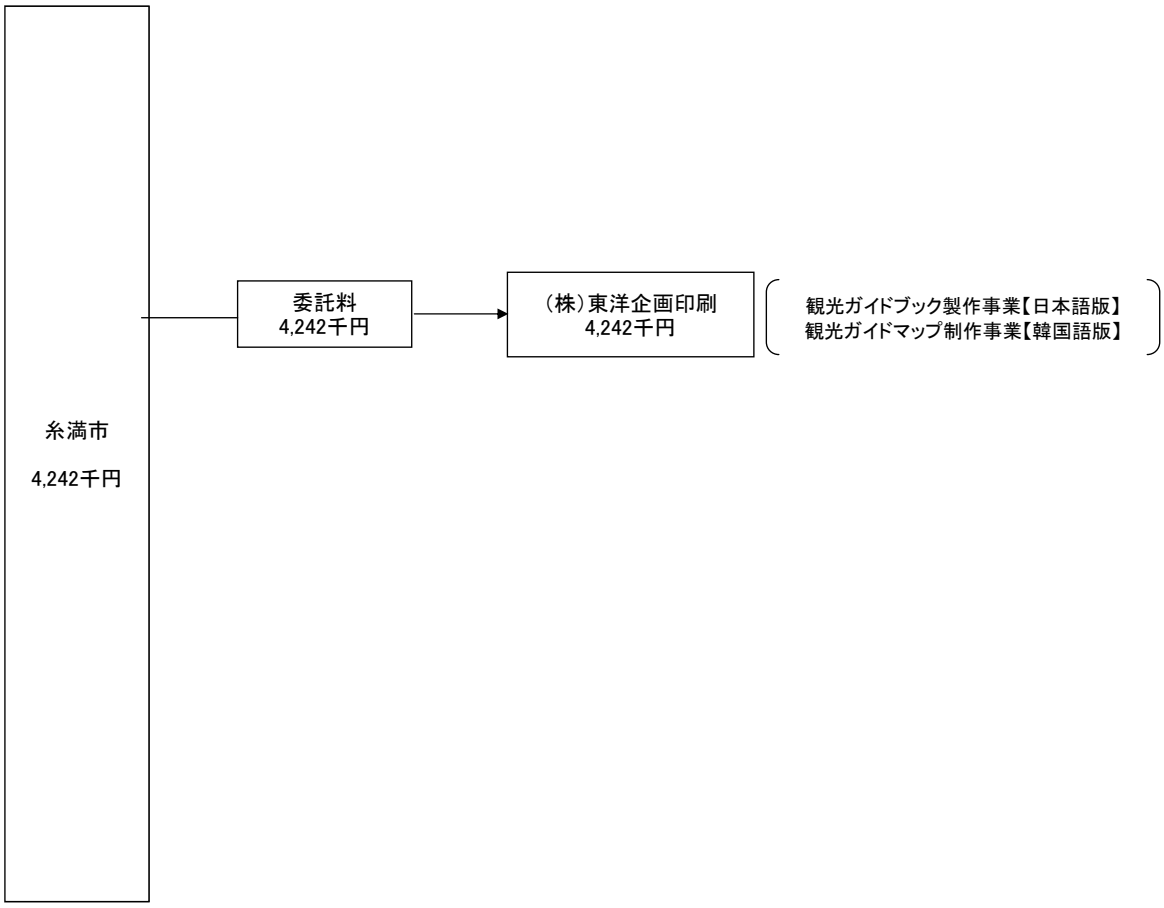
今後の取り組み方針

・国別観光客数を把握し、言語を特定してガイドマップ（ブック）を作成する。

・宿泊数が多い、中国語版の作成を優先する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,242	4,242	3,393	849	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・これまで市の広報等の業務を請け負うなど、糸満市の写真データを豊富に蓄積していることからガイドマップ作製をする上で妥当であると考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-②	糸満ふるさと祭推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ア 国際的な沖縄観光ブランドの確立
担当部課名	経済観光部　商工観光課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	糸満市の各字に残る民俗行事などを披露し、市民の融和と伝統行事の継承と意図すると共に観光客にも糸満の地域行事を楽しむ場とする。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,000				
	(b) 予算現額	5,000				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	5,000				
B. 執行済額		4,990				
うち交付金充当額		3,991				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		99.8%				
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・ふるさと祭りの開催	目　標	（　祭りの開催　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	祭りを開催			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：市内の各字の民俗行事など一堂に会し、市民の融和と伝統行事の継承と意図すると共に観光客にも糸満の地域行事を楽しむ場とするため、ふるさと祭り実行委員会に対し、開催経費（対象経費：需用費、役務費、委託費、使用料及び賃借料、報償費）の補助金を交付した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・ふるさと祭りの開催	目　標	（　）	（祭りの開催）	（　）	（　）	（　）
	実　績		祭りを開催			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：
・各字の民俗継承者に多く参加して頂き、子供たちへ民族行事を周知させるこに繋げることができた。
・平成24年度　祭り来場者数は3万2000人であった。（平成23年度3万2000人）※主催者発表

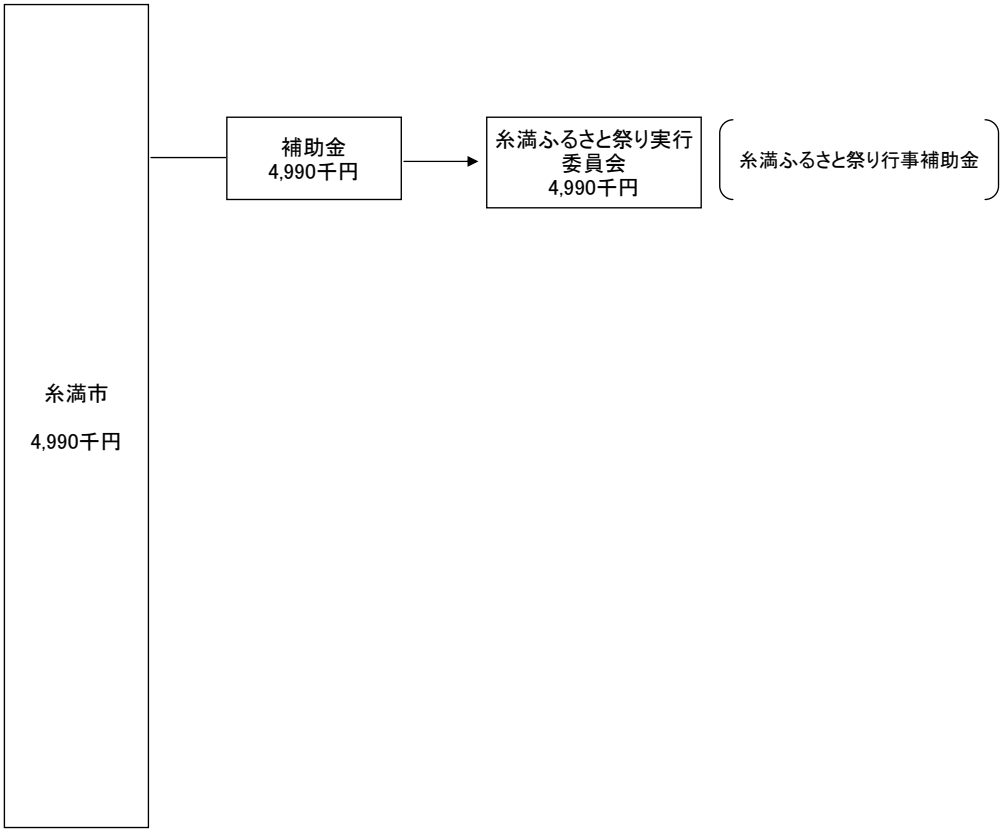
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	夏場の行事のため、暑さ対策が非常に重要で、改善策を検討する必要がある。	日陰を多く作るため、出場者控室を多く設けるように、設置にかかる資材及び場所の確保に努める。

今後の取り組み方針

会場のメインステージが西側を向いているので、昼以降はステージの裏を控室用に使用できるよう会場整備に努め、暑さ対策を講じる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,990	4,990	3,991	999	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 実行委員会に委託することで直接事業実施を行えることから費用等に置いても妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-④	体験交流促進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ア 国際的な沖縄観光ブランドの確立
担当部課名	経済観光部　商工観光課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

本事業は、市域内の観光資源を用いた体験型観光メニューの開発を行い、個々のメニュー検証や観光施設事業者などと連携したイベントの開催により、メニューの充実及び市内外への広報周知を図り、滞在型観光を推進することを目的とする。また、体験活動指導者や観光市民ガイドの育成を行うことにより、観光客の受入れ体制を整える。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,486				
	(b) 予算現額	5,486				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	5,486				
B. 執行済額		5,486				
うち交付金充当額		3,291				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：予算計上どおりに執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・体験交流指導員の育成	目　標	（　指導員の育成　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	指導員の育成			
・体験交流イベントの開催	目　標	（　イベントの開催　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	イベントの開催			

達成状況説明：市域内で体験できる個人向け、団体・修学旅行生向けの体験メニューがプログラム化された。まちあるき2コースの開発やJTBとの商品造成もでき、目標値を上回るメニューが成果としてあがった。
南部広域で開催する体験イベントにも、市内事業所との連携のもと、多数のメニューを提供し、地域資源の周知を図った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・体験交流イベント参加者数	目　標	（　0人　）	（　100人　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		140人			
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：観光人材として育成された方を中心に体験メニュー等を南部広域で開催したイベントで実践した。
23個の体験メニューを提供し、合計140人の参加者があった。
アンケートからは、参加者の15%が県外で、全体では30代～50代の参加者が多かった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・一度だけの実証実験のため、実戦での体験メニュー実施にはまだ不安な部分が多い。 ・費用面で団体で受入れないと、収支バランスがとれないメニューがある。 ・修学旅行生を対象とした1次産業の体験メニューの開発を進めたいが、なかなか体験受入れ先を獲得できない。	・個別の実証実験に加え、イベントなどでも回数を重ねることで、体験内容の充実を図る必要がある。 ・南部広域の取り組みなどを参考に、無理のない価格の設定と催行人数を決定したい。 ・農協や漁協を通じて農・漁業関係者らとのつながりをもちながら、体験受入れ者を獲得したい。

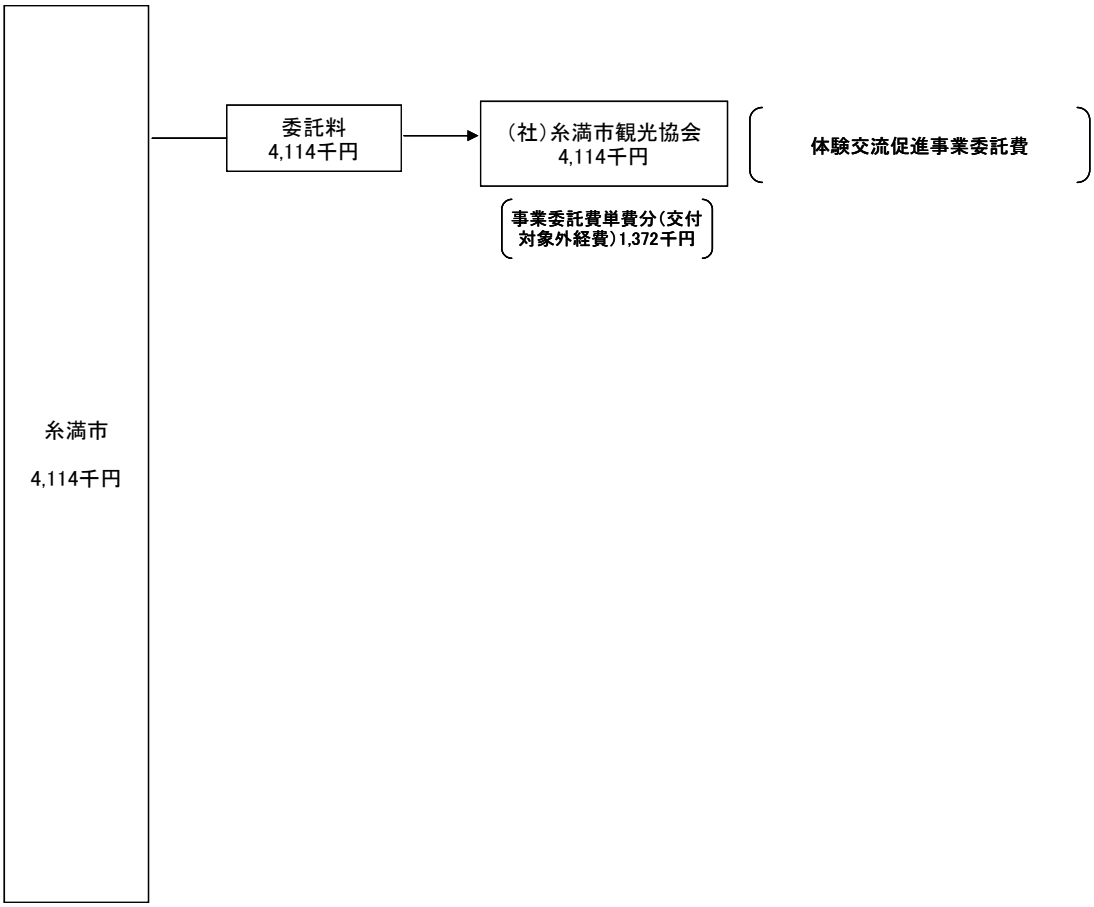
今後の取り組み方針

・引き続き市域内観光資源の発掘に努め、観光関連事業者や農・漁業者等と連携し、新たな滞在型観光につながる体験メニューを開発する。

・開発した体験メニューについても実証実験も並行して実施し、参加者へのアンケート等を通じて、内容充実を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,486	4,114	3,291	823	1,372



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、南部広域や観光関連事業所と連携し、事業目的を達成できる団体であることを理由に随意契約を行った。当団体への委託は妥当であったと考えている。 ○支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-⑤	接客スキルアップ事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－エ 世界に通用する観光人材の育成
担当部課名	経済観光部　商工観光課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

アジア圏域の旅行客が市内を訪れているが、地域の波及はきわめて少ない。アジア圏域の旅行者に対応できるよう、語学習得や接客法等事業所のスキルアップを支援し、受け入れ態勢を整備する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,000				
	(b) 予算現額	2,000				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	2,000				
B. 執行済額		1,995				
うち交付金充当額		1,596				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		99.8%				

予算の状況の説明：当初計画していた事業内容はすべて実施した。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・語学習得講座の開催	目　標	(16)	( )	( )	( )
	実　績	11			
・接客法等講座の開催	目　標	(3)	( )	( )	( )
	実　績	4			

達成状況説明：
・糸満市商工会へ委託し、語学習得講座及び接客法等講座を開催した。
・語学習得講座は計11回、中国語を対象に糸満市商工会で開催した。
・接客法等講座については、計4回開催、①観光のまち力アップセミナー2回②iPad活用セミナー1回③スマートフォン活用セミナー1回の内容で、商店街にお客さんが集まり売上がアップする方法や情報機器を活用した集客や営業の効率化について講習会を糸満市商工会で実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・語学習得・接客法等講座受講者数	目　標	( )	(70)	( )	( )	( )
	実　績		166			
【参考指標】	目　標	( )	( )	( )	( )	( )
	実　績					

進捗状況説明：
・語学習得講座に関しては延べ56人の参加、接客法等講座受講者については延べ22人の参加となった。
・目標に対して230%の実績。こうした講座を通じて語学及び接客スキルアップにより、直接的にも外国人観光客へのサービス向上、現場における対応にも変化が表れているとの声も聴かれた。

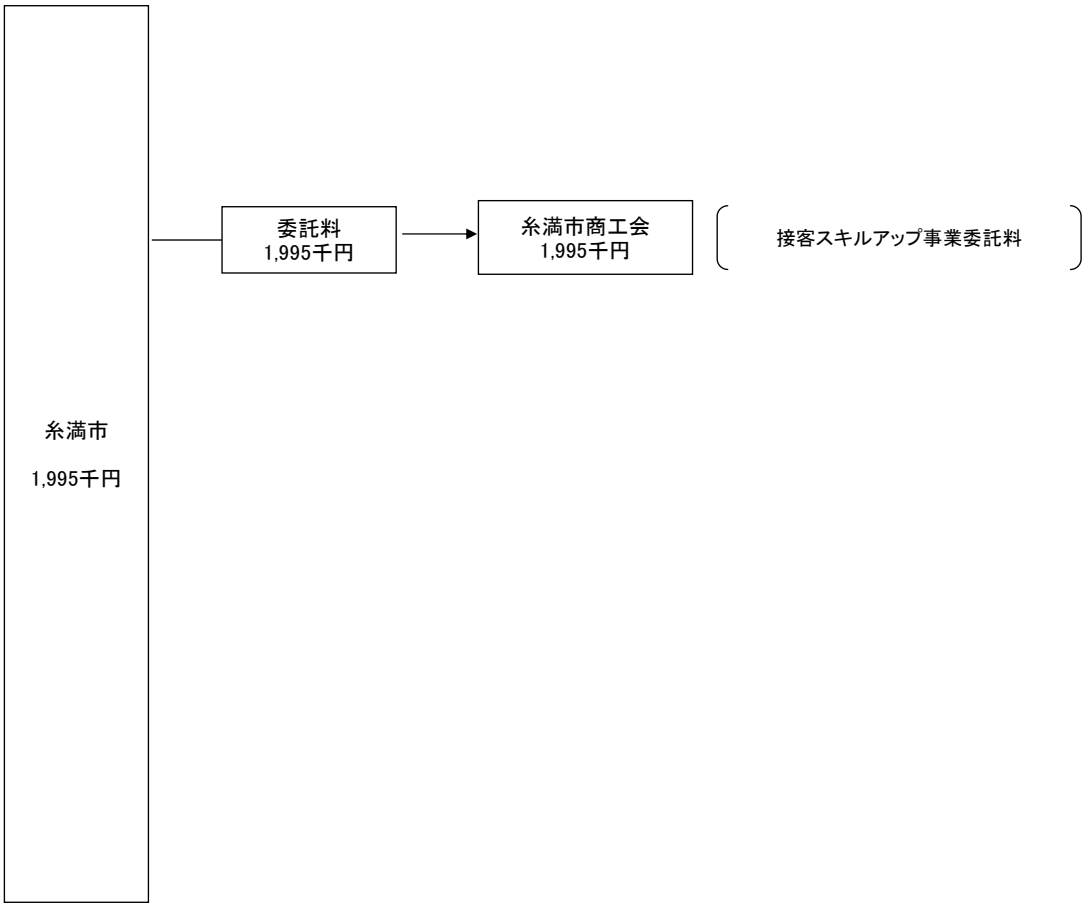
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	沖縄県の外国人観光客は前年比26.9%増の38万2500人となり、初めて30万人を超えた11年度をさらに上回った。定期便やチャーター便の航空路線拡充などを背景に、台湾や韓国などが高い伸びを示した。 中国本土からは大型クルーズ船の寄港などで上半期は大幅に増加した。9月以降は尖閣諸島を巡る問題で減少傾向に転じたが、年度合計ではプラスとなっている。 沖縄県の外国人観光客の約69%は公用語が中国語の地域である。	糸満市の経済団体への講座の周知・募集を行い、また、ニーズ調査を実施とともに行うことによって、今後の講座に反映させ、効果的に事業を行っていけるようにしたい。

今後の取り組み方針

・講座の周知募集の徹底。
・外国人観光客の受入れに向けた事業者向けニーズの調査の実施。
・当該ニーズに基づく接客・語学講習会の開催。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,995	1,995	1,596	399	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○糸満市小規模事業者の会員ネットワークを持っており、また糸満市商業の現状を把握しており、効果的に事業を遂行でき妥当だったと考える。 ○費目・使途については、確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-⑦	緑と花の演出事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	建設部　都市計画課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

何度も訪れたい美しいまちとして観光客の心に刻むため、大型ホテルが位置する西崎周辺や本市が進める花の名所づくり実施地域に南国らしい緑と花の異空間づくりに取り組む。

実施方法　■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	95,005				
	(b) 予算現額	95,005				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	95,005				
B. 執行済額		95,004				
うち交付金充当額		76,000				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明						

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・花の名所づくり実施地域への花木等植栽整備の実施	目　標	（厚装基材吹付 1500㎡）	（　）	（　）	（　）
	実　績	厚装基材吹付 1500㎡			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

当該公園は、城跡地で観光客が訪れる場所として、トラック協会や学校等が清掃活動及び記念樹を植樹している。しかし、この公園は高台に位置し台風等で樹木が枯れたり、倒れたりして斜面が裸地状態で厚層基材で緑化し、散策路の周りは桜の木を植えて花見ができる場として整備した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・花の名所づくり地域への植栽花木数	目　標	（　－　）	（50本）	（　）	（　）	（　）
	実　績		50本			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

予定どおり、花の名所づくり地域への花木植栽50本を実施した。
　西崎周辺の公園施設は運動公園、都市緑地が融合し、本年度においては、第32回全国豊かな海づくり大会（11月17.18日）のイベント会場としても利用された公園である。又、普段から交通量も多いめ、本市の緑の名所づくりとして実施して地域住民からの要望や、意見を踏まえ公園周辺の樹木の剪定、枯れている樹木の植え替え等をして南国らしい花と緑の明るい街並みにも取り組をした。

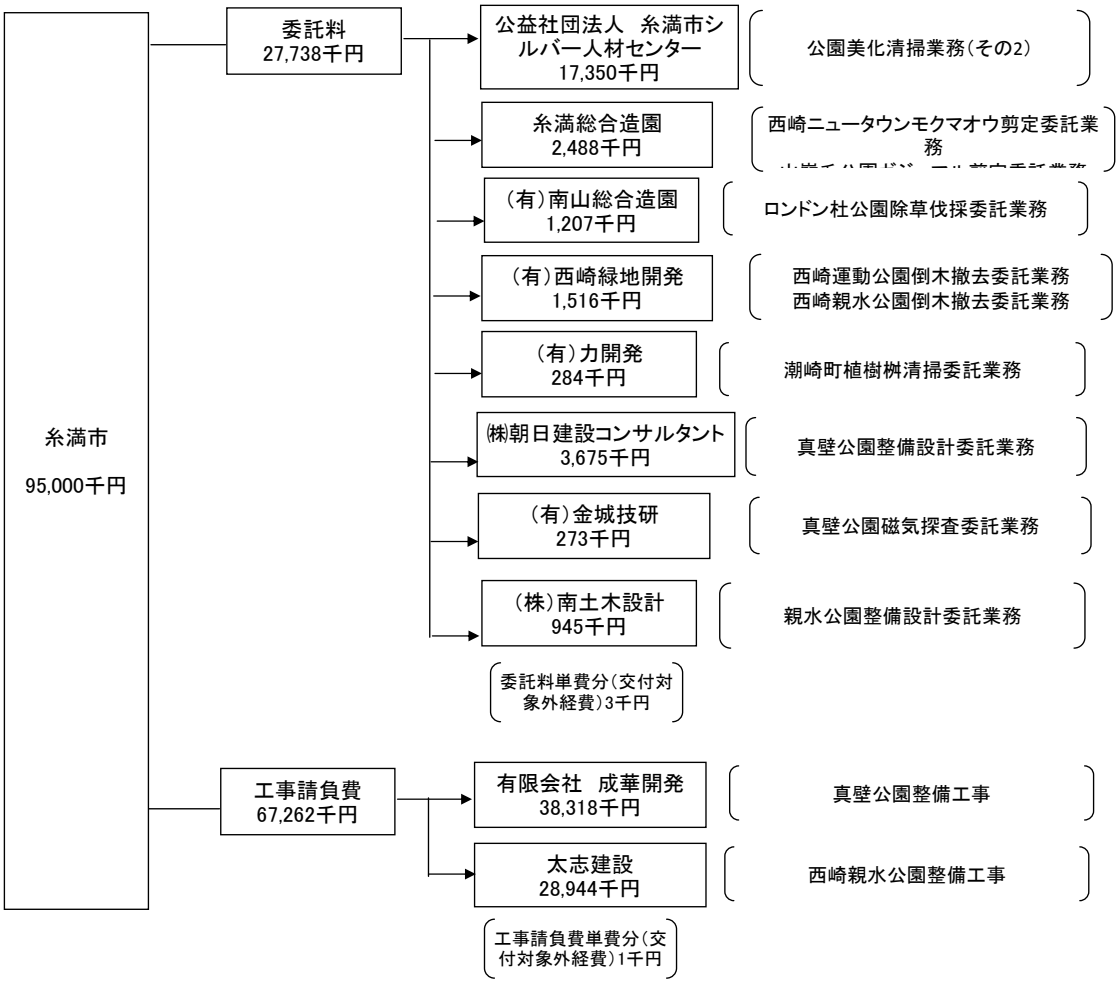
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（ア）地域住民と一体となり、清掃活動に取り組む。 （イ）市民団体が緑地周辺に花木等を植えている。	本市の緑地帯は、住宅地に隣接し各班毎に市がボランティア活動を推進させ奇麗な街並みを造るよう取り組む。

今後の取り組み方針

・植栽した花木等の定期的な管理と当該管理へのボランティア活動等の活用について検討を進めていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
95,004	95,000	76,000	19,000	4



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札で選定しており、妥当である。 ○予算規模は、設計書を作成して内容に見合った規模である。 ○費目・使途につては、設計書の数量と実施数量を確認して、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-⑧	観光情報発信事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－オ
					産業間連携の強化
担当部課名	総務部　総務課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容

スマートフォン等の普及に伴い、インターネットを利用した情報発信の重要性が増している。このため、本市独自の観光情報や平和情報等を積極的に発信する取り組みを行う。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	20,000				
	(b) 予算現額	20,000				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	20,000				
B. 執行済額		19,012				
うち交付金充当額		15,209				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		95.1%				

予算の状況の説明：不用額が988千円発生しているが、コンペ時の提案額で契約を実施している事による残額が殆どである。
当初予定していた事業内容は全て実施しているので、適正であると考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・観光情報発信新システム導入	目　標	（　システム整備　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	システム整備完了			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：本市の観光情報をより積極的に発信するため、多言語、モバイル機器等に対応した観光情報発信システムを整備した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・観光情報事業による新システム導入	目　標	（　）	（ システム整備 ）	（　）	（　）	（　）
	実　績		システム整備完了			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：本市の観光情報をより積極的に発信するため、多言語、モバイル機器等に対応した観光情報発信システムを整備完了した。

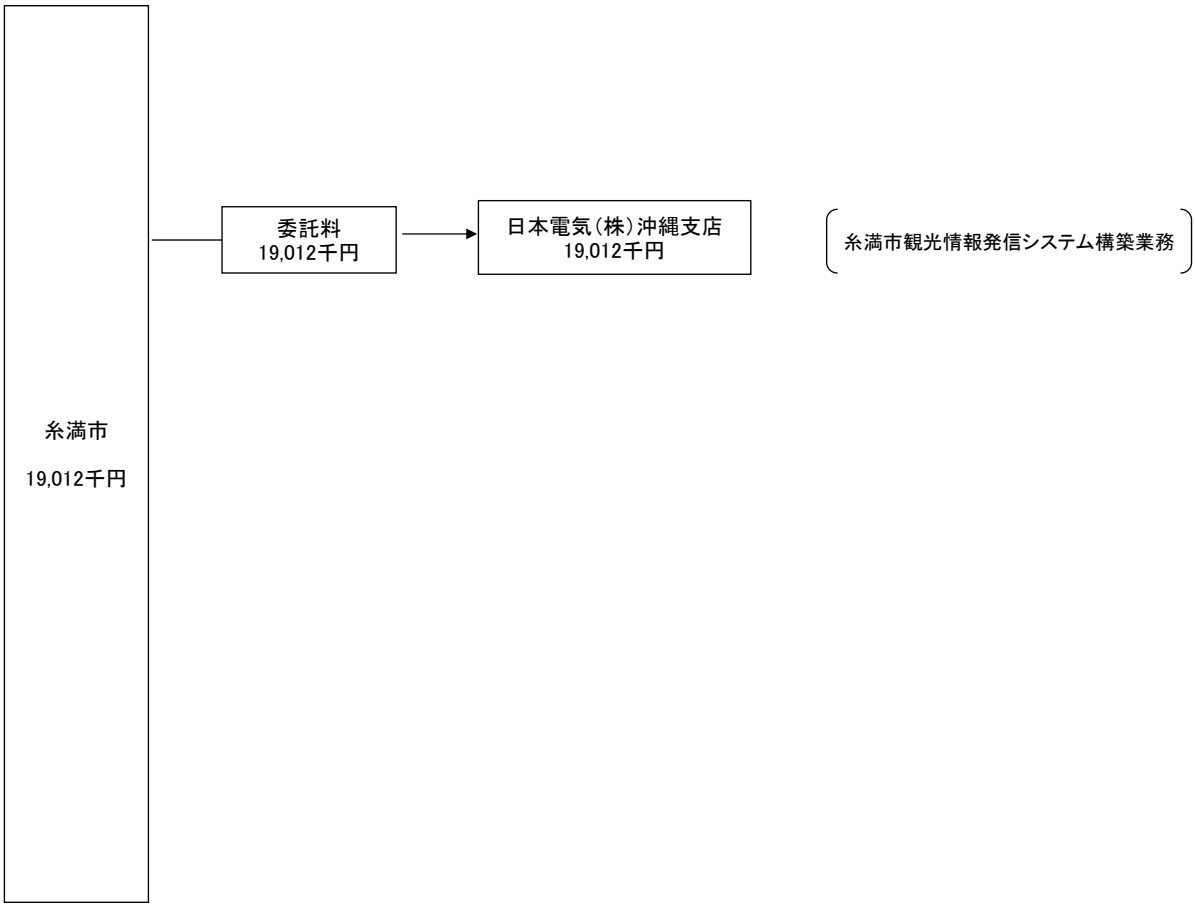
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	平成24年度はｼｽﾃﾑ及び初期ｺﾝﾃﾝﾂの整備を行っている。 本格的な活用は25年度以降となるため、現時点で大きな課題は見つかっていない。	本市の観光情報をより積極的に発信するため、より効果的なシステムの活用方法について検討する。

今後の取り組み方針

・CMSによる、各種イベント情報等のタイムリーな作成、配信
・メーリングリストによる情報のプッシュ配信
・FACEBOOKによる情報のタイムリーな発信
・アプリによる広報等の配信
・祭などの動画配信

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
19,012	19,012	15,209	3,803	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託業者は、公募型提案コンペにより、提案内容、担当技術者資格、実績、価格等を勘案したうえで選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-⑨	民泊受入体制強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済観光部　商工観光課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容	自然体験や農業体験等教育旅行の需要が増える中、本市においても民泊が実施されている。本事業は、安心・安全な民泊がなされるよう研修や救急措置法等の講習会を実施し、民泊受け入れ世帯のスキルアップを行う。併せて、受け入れ世帯の拡大に向け、広報周知を行う。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,000				
	(b) 予算現額	3,000				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	3,000				
B. 執行済額		2,850				
うち交付金充当額		2,280				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		95.0%				
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・民泊受入民家向け講習会の開催	目　標	（　講習会の開催　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	講演会の開催			
・受入れ世帯拡大のための広報活動	目　標	（　広報活動　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	広報活動			

達成状況説明	民泊受入世帯への講習会を8回開催。 また、本市域内での民泊事業周知のため、「受入世帯募集ちらし」を作成し、全戸配布を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・民泊受入民家向け講習会受講者数（延）	目　標	（　0人　）	（　150人　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		185人			
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明	・各種講習会を開催し、述べ185人が受講した。 ・新規民泊受入世帯10件を獲得し、現在の受入世帯数は合計45件となった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・県の指導もあり、今後、修学旅行向け民泊といえども簡易宿所営業許可の取得が必須となる。 ・受入希望世帯について、家庭の問題や簡易宿所営業許可取得等の条件により、思うように新規登録まで至らないことが多い。 ・南部広域連携の民泊受入事業もはじまり、受入世帯数が不足している。世帯の開拓を急ぎたい。 ・各世帯で体験する内容の情報交換や体験内容についての講習会を実施してほしいとの要望あり。	・簡易取得営業許可申請については、市民にも受入の条件をよく説明し、申請所得を促す。 ・まずは、民泊事業の利点や楽しさを知ってもらう機会を増やし、団塊の世代や農村地域の世帯を中心に受入れ世帯拡大を図る。 ・現民泊受入世帯の声を聞き、講座内容を充実させる。

今後の取り組み方針

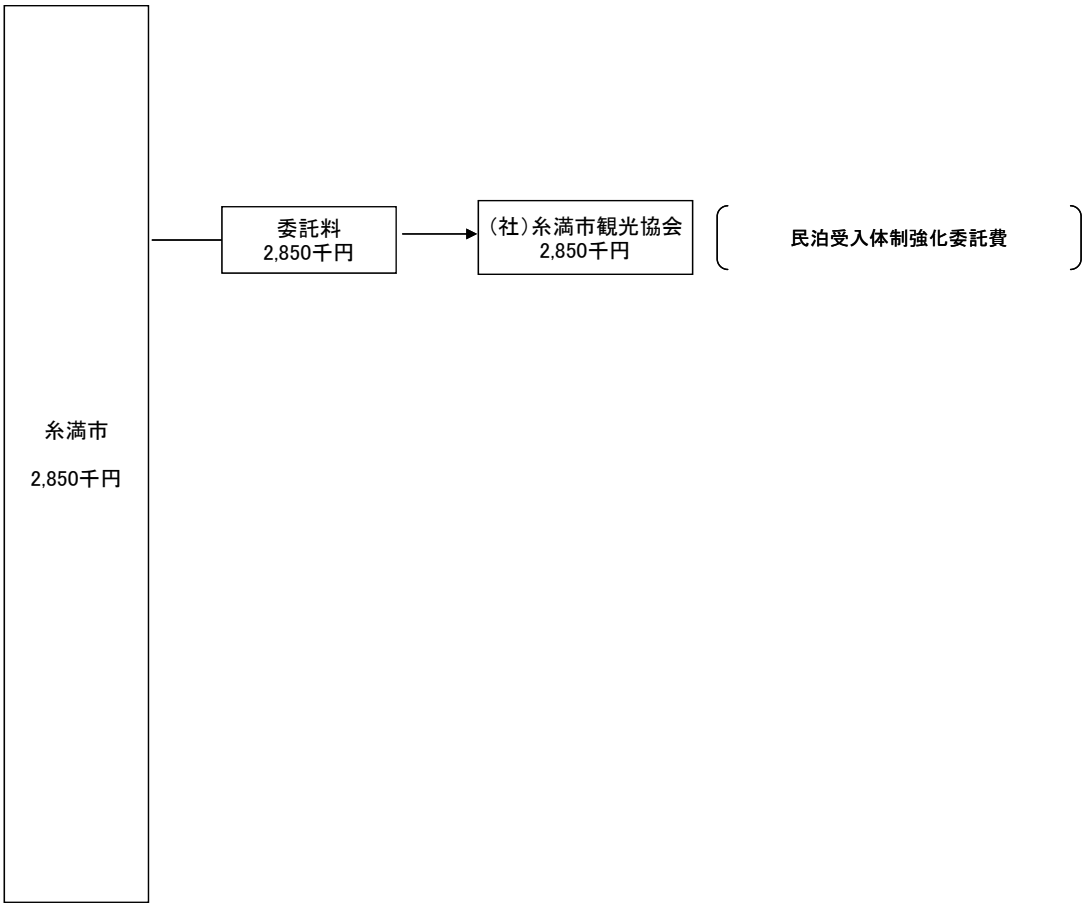
・簡易宿所営業許可取得申請の方法等を簡潔に説明し、民泊推進員が取得の支援を行う。

・市広報誌における記事掲載によるさらなる民泊事業周知に加え、地域の会議などにおいて、事業の目的や楽しさを伝える個別の説明会を開催する。

・民泊受入世帯の要望を聞きながら講座内容を設定する。
各世帯で民泊体験のレベルを平均化できるよう、家庭内で行う体験の充実を図る講座を盛り込む。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,850	2,850	2,280	570	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、南部広域と民間の民泊受入事業所の関係を調整し、連携できる団体であることを理由に随意契約を行った。当団体への委託は妥当であったと考えている。 ○支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-②	フィッシャリーナ施設運営強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	経済観光部　海人課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)

事業内容	水産業の観光的側面を強化し、総合産業化を促進するため、フィッシャリーナ施設内の駐車場管理システムを整備する。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,842				
	(b) 予算現額	8,842				
	(c) 増減額 (b-a)	1,000				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	8,842				
B. 執行済額		8,399				
うち交付金充当額		6,719				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		95.0%				
予算の状況の説明		予算どうりに概ね執行できた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・フィッシャリーナ駐車場管理システム導入の実施	目　標	（ システムの導入 ）	（　）	（　）	（　）
	実　績	システムを導入			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

・糸満フィシャリーナの施設運営管理の一つの機能強化として、駐車場管理システムを導入した。
・フィッシャリーナ駐車場システム設置工事入札を行い、工事を実施、H24年9月に完成した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・フィッシャリーナ駐車場管理システム導入の実施	目　標	（　－　）	（ システムの導入 ）	（　）	（　）	（　）
	実　績		システムを導入			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

・これまでのスタッフによる管理であったため常時入退場ができる環境でなかったが、駐車場管理システムの導入により、一般観光客等による駐車場入退場が常時できる環境となった。

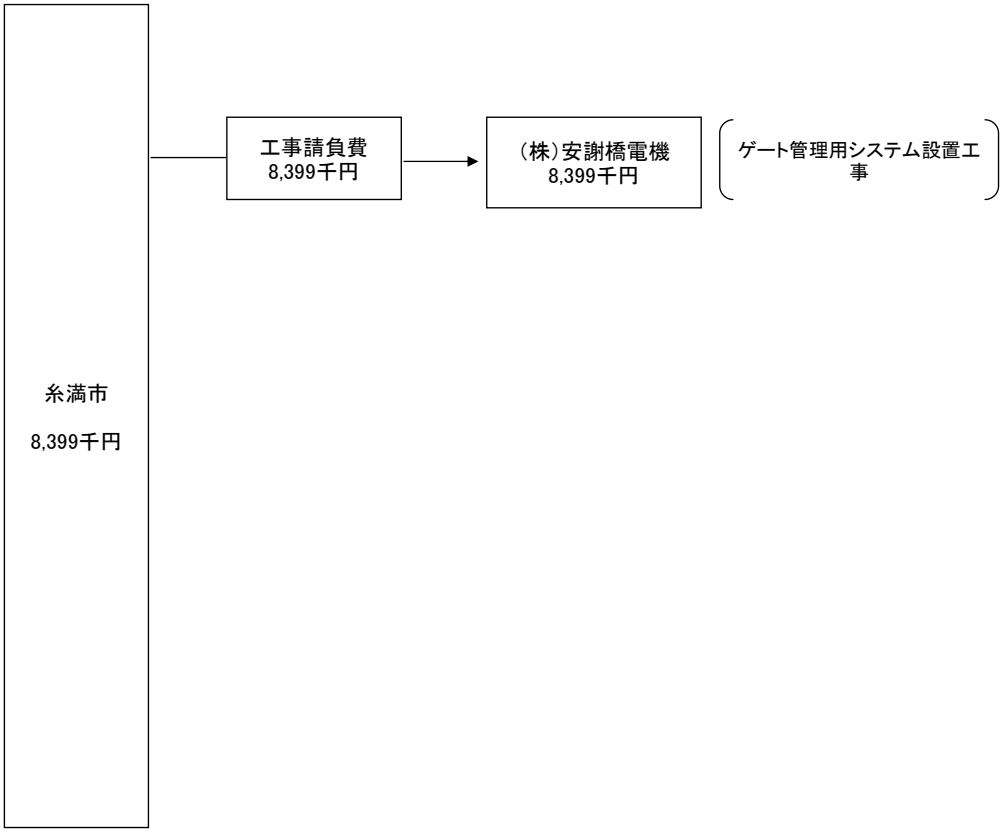
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・隣接するふれあい公園ふれあいビーチ（美々ビーチ）の混雑時やイベント開催時における観光客、ビーチ利用客の駐車制限、路上駐車等の問題が生じる場合も想定されるため、何らかの対策を講じる必要がある。	・隣接するふれあい公園ふれあいビーチ（美々ビーチ）の混雑時やイベント開催時におけるフィッシャリーナ駐車場の相互利用環境などをスムーズに行っていくための検討を行う必要がある。

今後の取り組み方針

・平成25年度よりふれあいビーチとフィッシャリーナの指定管理区域を統合させ、一体的な運営が可能となるような指定管理者選定を行い、ふれあい地区の一体的な管理運営を行っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
8,399	8,399	6,719	1,680	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-③	豊かな海づくり大会を通じた広報宣伝事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(2)－オ
					産業間連携の強化
担当部課名	経済観光部　海人課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)

事業内容	全国豊かな海づくり大会の式典の模様は全国にテレビ等で発信される。この機会に糸満市を広報宣伝することを目的としてこの事業を実施した。
実施方法	□直接実施　□委託　□補助　■負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	20,000				
	(b) 予算現額	28,000				
	(c) 増減額 (b-a)	8,000				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	28,000				
	B. 執行済額	28,000				
	うち交付金充当額	22,400				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		沿道プランターの設置、シャトルバスの運行、ステージイベントの充実、警備管理体制など、予定以上の経費が必要となったため、予算現額の増となっている。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・会場や沿道への花プランター設置	目　標	（　プランター設置　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	プランター設置			
・シャトルバスの運行 ・おきなわ豊かな海づくりフェスタの開催	目　標	（　バス運行、フェスタ開催　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	バス運行、フェスタ開催を実施			

達成状況説明	・天皇皇后両陛下をお迎えして開催する全国豊かな海づくり大会運営の円滑化のため全国豊かな海づくり大会南部地区推進協議会が取り組む、会場周辺の美化や来場者の円滑な交通整理が実施できる体制を確保するため当該経費についての運営補助を実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・全国豊かな海づくり大会・関連イベント来場者数	目　標	（　）	（来場者数 50,000人）	（　）	（　）	（　）
	実　績		来場者数 50,000人			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	・事故等なく円滑な運営ができ、海づくり大会及び関連イベントへの来場者数も当初の目標値水準の実績を確保することができた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・全国へ地域を発信する一大イベントであり、円滑な運営は必至であった。沖縄県としての取組、市とのしての取組、そして南部地域が自ら取り組んでいく部分との役割分担を行いながら、すべての関係者が互いに協力していくことが求められるイベントであった。	・同様のイベントはなかなか他にないが、今後の糸満市におけるイベントとしての類似する部分については、関係機関の協力体制の築き方など、大いに参考になる部分あるものと思われる。

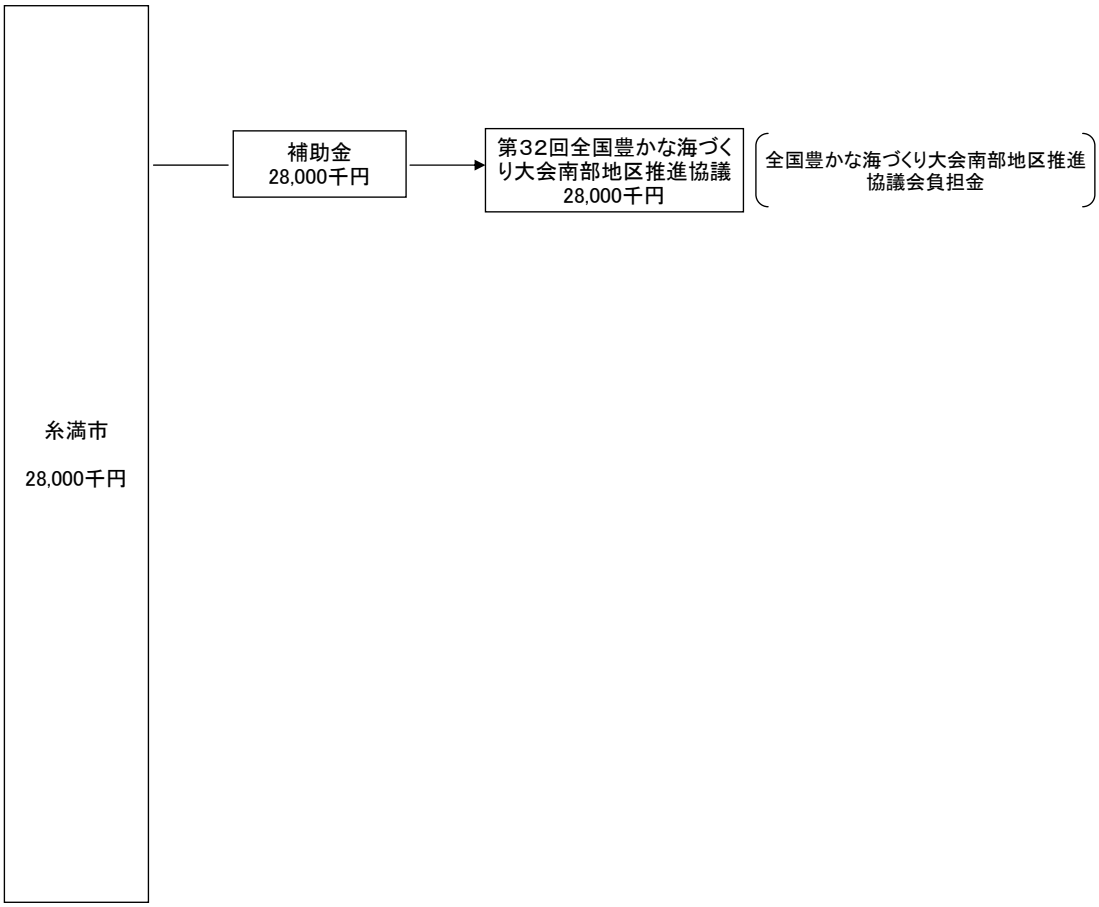
今後の取り組み方針

・海づくり大会のようなイベントは当面予定されていないが、今後のイベント管理においても今回築かれた関係機関の連携ネットワークを今後の基盤として活かしていく方策を検討していく。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
28,000	28,000	22,400	5,600	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	糸満市補助金交付規則により、適正に執行されている。推進協議会を南部地区15市町村及び関係団体で構成し、常任委員会及び総会において各市町村及び糸満漁協の負担金額を決定し実施した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-④	海人沖縄爬龍船大会事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(6)－ア 沖縄のソフトパワーを活用した新事業・新産業の創出
担当部課名	経済観光部　海人課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)

事業内容

沖縄の水産業の象徴であるサバニを漕ぐ爬龍船大会を海人のまちとして名高い本市において、漕ぎ手沖縄一を決める大会を開催した。

実施方法　□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,300				
	(b) 予算現額	6,300				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	6,300				
B. 執行済額		6,300				
うち交付金充当額		5,040				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：予算計上どおりに執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・海人沖縄爬龍船大会の開催	目　標	（海人沖縄爬竜船大会の開催）	（　）	（　）	（　）
	実　績	海人沖縄爬竜船大会の開催			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：・沖縄爬龍船フェスティバル実行委員会へ運営補助金（会場設営費3,175,000円、広告宣伝費2,050,000円、諸経費137,500円、安全管理費937500円）を交付し、同フェスティバルの開催を支援した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
・海人沖縄爬龍船大会来場者数	目　標	（－）	（30,000人）	（　）	（　）	（　）
	実　績		20,000人			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：
・沖縄爬龍船フェスティバルの開催により、大会出場チームとしては48チームあり、来場者数2万人の来場があった。
・全国豊かな海づくり大会関連イベントとして支援を実施したことにより、海づくり大会のPRにもつながった。
・来場者数については、30,000人で計画したところであるが、準備期間が短かったことやオスプレイ配備反対県民大会が同日に行われたことなどから、計画参加チーム数180チームに対し実績参加数108チームとなるなどの影響を受けて、約20,0000人の来場者となった。

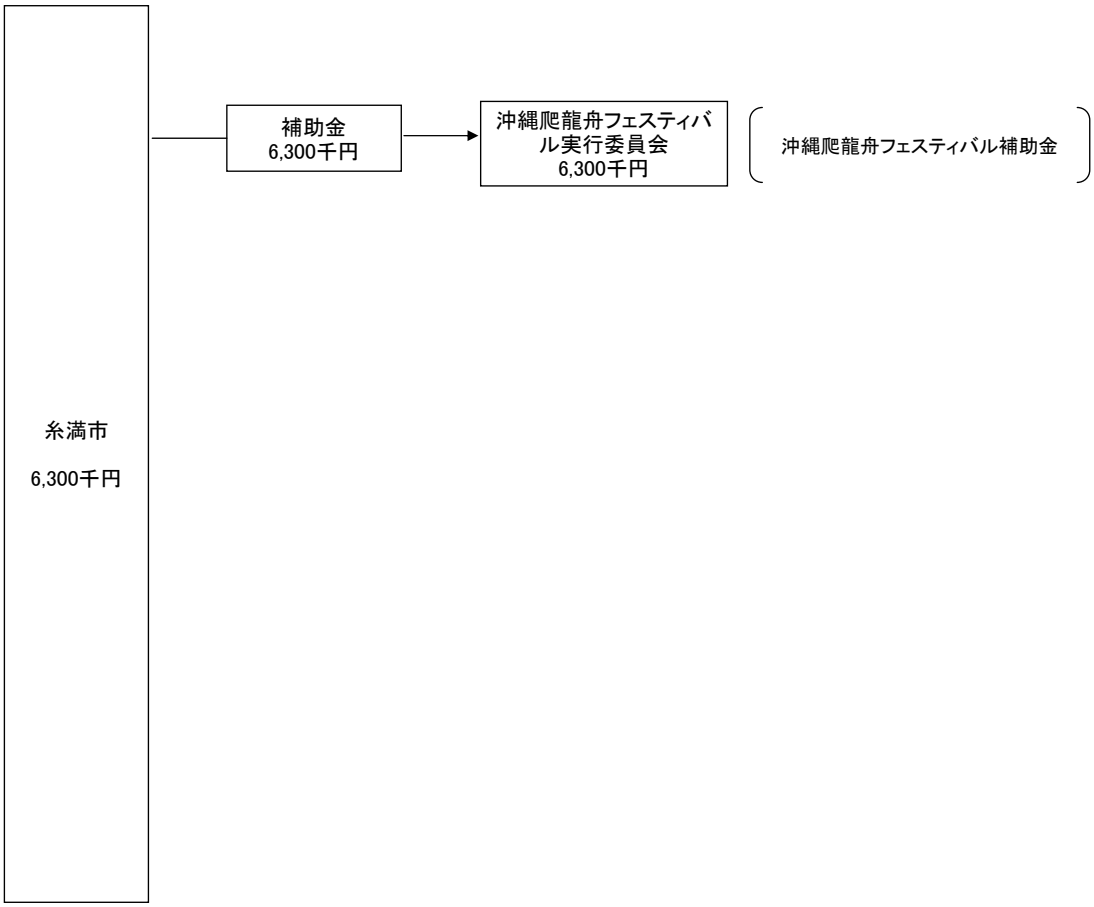
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・沖縄爬龍船フェスティバルといった海洋スポーツイベントによる誘客には一定の効果もあるものの、県外からの参加ツアー企画などはなく、集客交流ビジネスとの連動性の部分では今後改善の余地が残った。	・地域に立地する宿泊施設や旅行エージェントとの連携などを盛り込んだメニューとしてのイベントとするなどの企画力の支援していく機能が今後求められる。

今後の取り組み方針

・沖縄爬龍船フェスティバルの開催を通じた地域活性化が実現できるよう、より事業採算性（自立性）を高めていく方向での検討を行っていく必要がある。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,300	6,300	5,040	1,260	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	糸満市補助金交付規則により、適正に執行されている。 補助金は、対象項目（会場設営費等）を定めて支出しており、補助金に係る項目の実施について適正に執行されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	6-⑤	海やからのまち推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－カ 亜熱帯・島しょ性に適合した農林水産業の基盤整備
担当部課名	経済観光部　海人課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)

事業内容

水産都市として名高い本市は、水産業を総合産業として位置付けその発展可能性を導き出したい。そのため、振興計画を策定した。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,464				
	(b) 予算現額	3,464				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	3,464				
B. 執行済額		3,150				
うち交付金充当額		2,520				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		90.9%				

予算の状況の説明：・不要額が314千円発生しているが、委託費の入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・海やからのまち振興計画策定調査の実施	目　標	（　調査の実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	調査を実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：水産都市として名高い本市は、水産業を総合産業として位置付けその発展可能性を導き出したい。そのため、振興計画を策定にむけた調査を実施した。策定にあたっては糸満市水産業振興協議会を開催した。調査等業務については、委託により実施。

成果目標（指標）及び進捗状況

		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・海やからの町振興計画の策定	目　標	（　）	（基本計画の策定）	（　）	（　）	（　）
	実　績		基本計画を策定			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：糸満市水産業振興協議会の開催を通じて、策定作業を進め、H25.3.22に計画書が策定された。
①平成24年11月7日　第3次糸満市水産業振興基本計画の策定についての説明および報告
②平成25年2月7日　糸満市の水産業における課題等の報告　第3次糸満市水産業振興基本計画のビジョンについての協議
③平成25年3月11日　第3次糸満市水産業振興基本計画の施策及び基本理念についての協議
④平成25年3月21日　第3次糸満市水産業振興基本計画書の報告

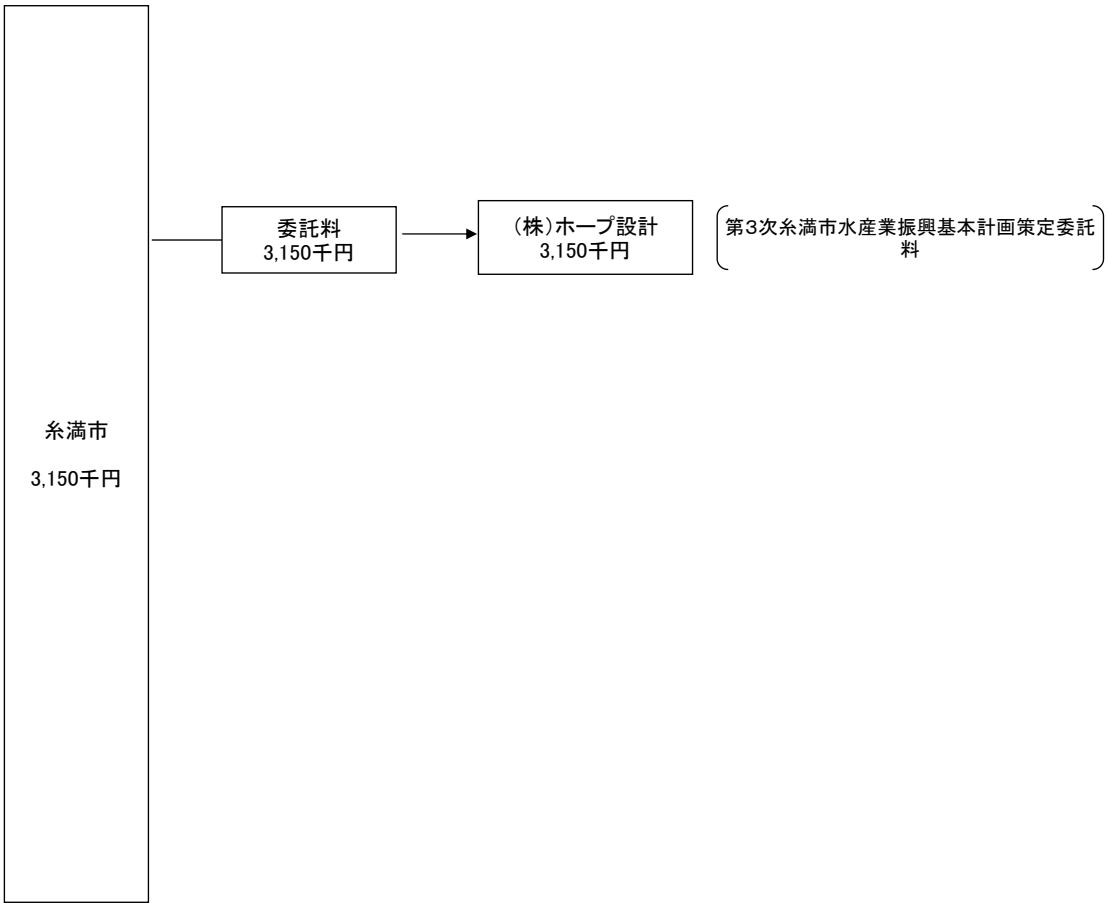
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・糸満市喜屋武地区への沖縄県水産研究センターの移転が決まっており、沖縄における水産研究の拠点化が今後期待されている。 ・糸満市では、同研究センターに隣接する地区へ市水産振興センター（仮称）の設置構想をたてており、沖縄県における水産研究と連動した水産ビジネス支援機能を整備していくことで地域の活性化、沖縄の魅力ある水産振興へ寄与していくことを標榜している。	・沖縄県における役割と海人のまち糸満市が果たすべき役割、機能を整理し、それぞれが連携・連動することで相乗効果を発揮していく視点をもって、計画的に取り組んでいく必要が求められている。

今後の取り組み方針

・水産振興にかかる各施策・事業の展開のほか、本計画を基づき、糸満市として水産業振興センター（仮称）の設置等についても取り組んでいく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,150	3,150	2,520	630	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-①	耕作放棄地対策事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－エ 農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化
担当部課名	経済観光部　農村整備課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)

事業内容

耕作放棄地の実情を把握した後の流動化を促進し、規模拡大希望農家及び新規就農者への農地斡旋を推進した。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,074				
	(b) 予算現額	2,762				
	(c) 増減額 (b-a)	688				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	2,762	0			
	B. 執行済額	2,762				
	うち交付金充当額	1,659				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：予算計上どおりに執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・耕作放棄地の調査活動の実施	目　標	（　調査の実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	調査を実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：調査活動として、業務調査員による調査活動として計235日の活動を実施した。
概ね予定どおりの調査活動が実施できた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（28年度）
・耕作放棄地の実態調査	目　標	（　－　）	（350,000㎡）	（　）	（　）	（163,000㎡）
	実　績		350,659㎡			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：耕作放棄地調査として、土地改良事業地区24地区内の317筆、350,659㎡を実態調査した。
概ね予定どおりの実態調査ができ、耕作放棄地の実態把握ができた。

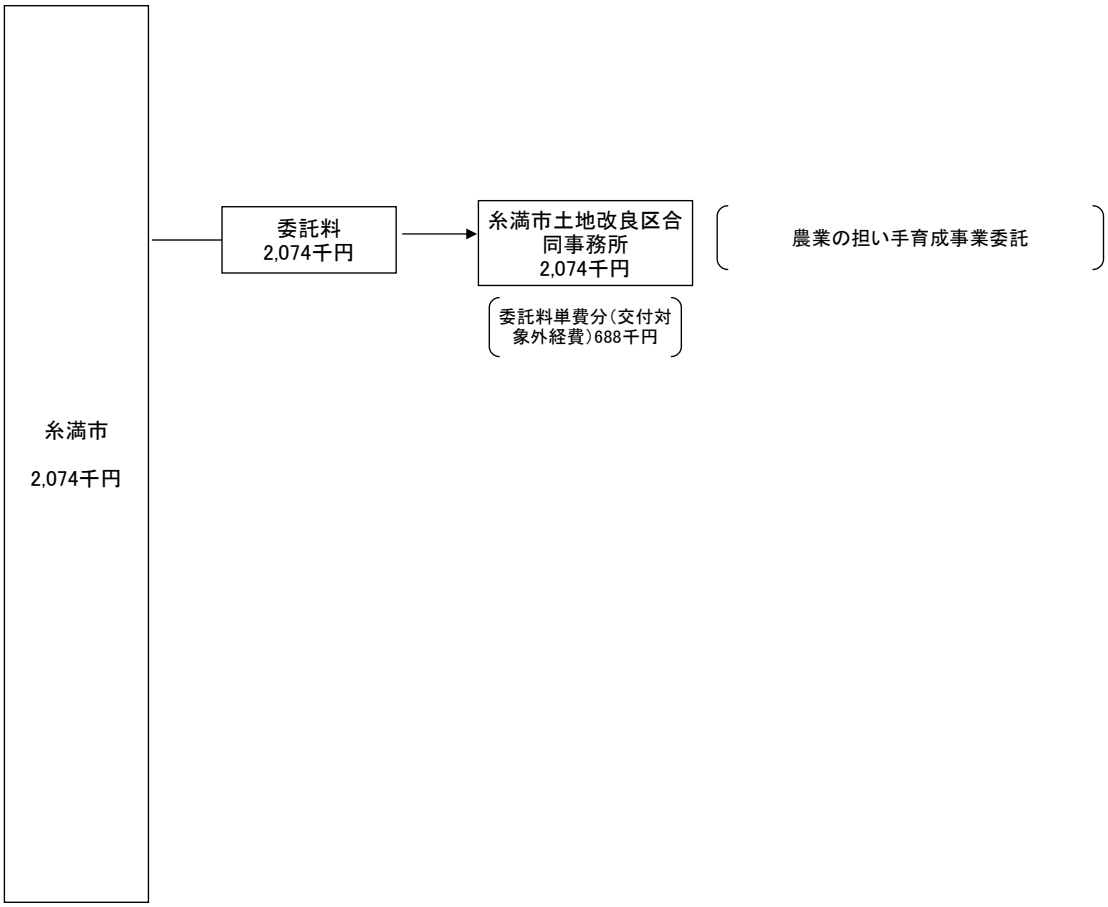
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	農家の高齢化、後継者不足等の担い手問題の社会情勢がある。農地賃貸間の利用権設定等の手続きの改善、また、過去に貸し手、借り手間のトラブル等から固定化している放棄地が多い。 放棄地が常態化すると、雑草の繁茂による周辺農地営農管理時間の浪費、ゴミの投棄、ハブの生息、農道通行不良等による農用地の荒廃が懸念される。	農地賃借の規制緩和による多様な農業参入、農業協同組合等による農業経営の取組みについて、実態に即した対策が必要。

今後の取り組み方針

今後の取組みとして、耕作放棄再発の防止、巡回監視を強化し、農家と調整を図り理解と協力を求めていく。また、耕作放棄地対策協議会との連携を図り、担い手農家の斡旋を推進する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,762	2,074	1,659	415	688



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は土地改良区の運営、専門知識等から事業効果達成等を勘案しており、選定は適正である。 ○費目・使途については事業目的達成に支出されていることを書類で確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-②	糸満和牛群改良整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章－3－(3)－イ 圏域の特色を生かした産業の振興
担当部課名	経済観光部　農政課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)

事業内容

ヤギや豚を食する文化が根強く、食用牛を育てる基盤が他自治体に比べ弱い。近年石垣牛など地域のブランドとして高い需要があり地域経済をけん引している。糸満市においても経済波及を生むよう質の高い食用牛の改良に取り組んだ。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	12,000				
	(b) 予算現額	12,000				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	12,000	0			
B. 執行済額		12,000				
うち交付金充当額		9,600				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明：予算計上どおり執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・優良母牛のリースの実施	目　標	（　リースの実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	リースを実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：・優良母牛を積極的に導入し、質の高い子牛生産の推進を図るため、母牛の調達及びリースを実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・優良母牛リース頭数	目　標	（　0頭　）	（　40頭　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		40頭			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：・予定どおり40頭の調達及びリースが実施できた。

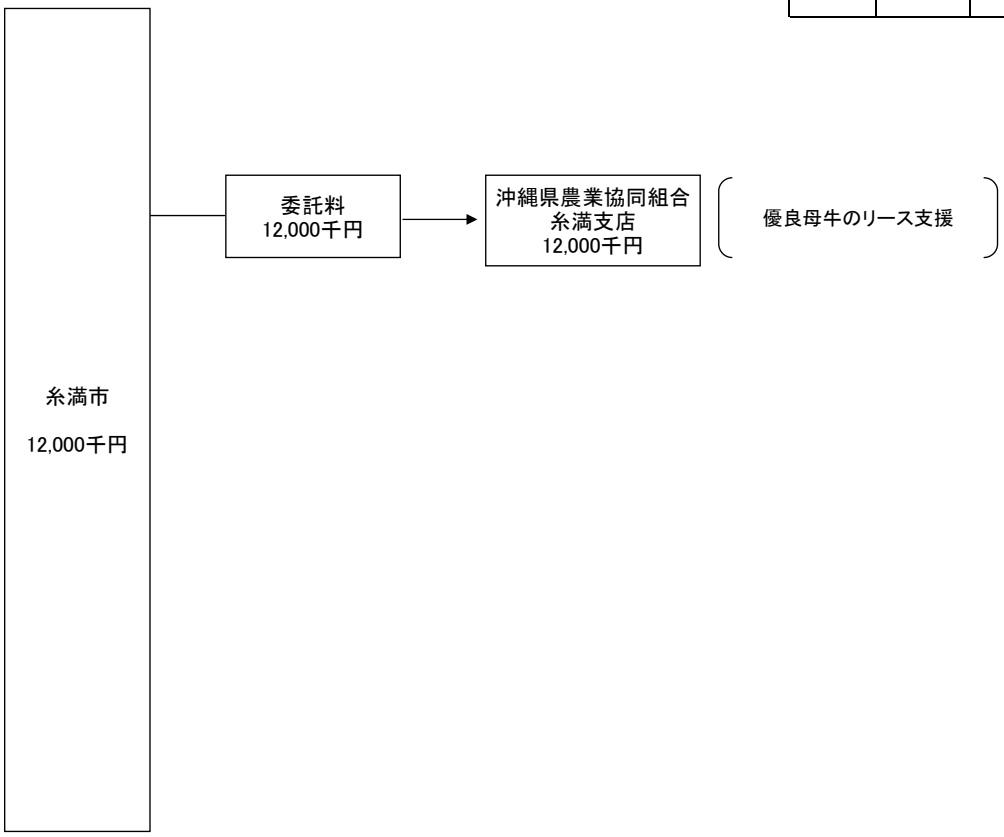
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	(ア)事業実施要領にある5年間に1頭以上の雌子牛を自家保留することができるかが課題である。	●繁殖障害(不妊)等による子牛の生産が難しい場合は、受精卵移植等の技術を使い、胎空期間を短縮させる。

今後の取り組み方針

9才以上の飼養繁殖牛(高齢母牛)を更新するため、優良母牛をH24～H29で累計240頭(年40頭)を計画的に導入する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
12,000	12,000	9,600	2,400	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先のJAは、畜産部会の事務局として農家の実情を把握しており、適切な指導が可能である。 ○セリでの購入価格の平均が40万円なので適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-③	小規模農家支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－エ 農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化
担当部課名	経済観光部　農政課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(6)

事業内容	本市は、小規模農家が多く、圃場が点在している。さらに、個別の小さな畑が隣接するなど、農作物ごとに使用制限のある農薬が飛散しやすい。簡易パイプハウス、防風ネットの施設整備支援を行い改善を図った。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	70,500				
	(b) 予算現額	141,000				
	(c) 増減額 (b-a)	70,500				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	141,000	0			
B. 執行済額		140,663				
うち交付金充当額		112,530				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		99.8%				
予算の状況の説明		多くの農家から防風ネット及び簡易パイプハウスの整備要望があったため予算現額の増となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
防風ネット設置及び簡易パイプハウス設置	目　標	（　ネット等の設置　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	ネット等を設置			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：・本市は、小規模農家が多く、圃場が点在している。さらに、使用農薬が異なる作物畑(野菜・キク・さとうきび)が隣接するなど、農薬が飛散しやすい環境となっている。当初の計画どおり防風ネットや簡易パイプハウスを設置実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・防風ネット設置数　36箇所(件) ・簡易パイプハウス設置数　35基	目　標	（0箇所 0基）	（36箇所 35基）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		36箇所 35基			
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：・当初の計画どおり防風ネット36箇所(19，144m)の実施を行うことができた。簡易パイプハウスも35基(事業面積24，486㎡)設置した。
・これら防風ネット等の設置により、農薬の飛散防止や強風による作物被害が防げるようになった。

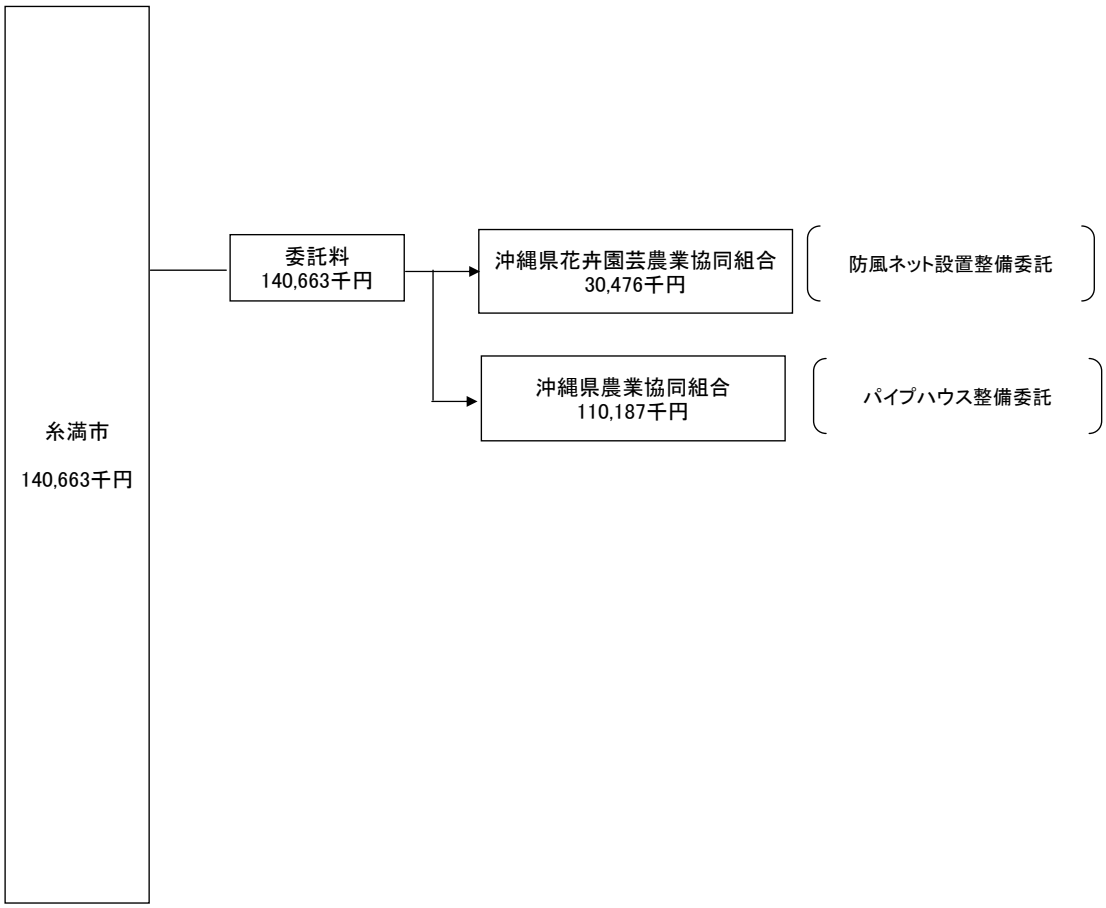
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	(ア)園芸施設のため、台風等の自然災害による施設損害が起きた場合の復旧がなされるかが懸念される。	●施設共済の加入を義務付けし、災害による被害の費用を軽減させる。

今後の取り組み方針

防風ネットや簡易パイプハウスは、農薬の飛散防止、鳥獣対策等に絶大な効果があり、農産物の安定生産、農家所得の向上を推進するため、H24年度～H29年度で年次的に導入する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
140,663	140,663	112,530	28,133	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	△	支出先の選定方法は妥当か。	△支出先をJAや花卉農協のみで選定したため、それぞれに所属しない農家への支援が図れなかった。 ○費目・使途及び支出等については、小規模農家の支援の観点からは不可欠なもので適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	8-①	姉妹都市等物産交流事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(9)－イ 県産品の販路拡大と地域ブランドの形成
担当部課名	経済観光部　商工観光課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(7)
事業内容	姉妹都市の宮崎県都農町、友好都市北海道網走市との物産交流を行い相互の特産品の販路拡大を推進した。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	16,000				
	(b) 予算現額	16,000				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	16,000				
B. 執行済額		13,000				
うち交付金充当額		10,400				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		81.3%				
予算の状況の説明		当初は物産展を県外5か所で開催を予定していたが、4か所での開催となったため、不用額が生じた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・物産交流会の開催	目　標	（　5か所　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	5か所			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：糸満市の姉妹友好都市並び県外において物産観光展及び商談会を開催するため、糸満市商工会へ業務委託を実施した。
また同事業の中において、沖縄の産業まつり・商工会特産品フェア及び姉妹都市（宮崎県都農町）、友好都市（北海道網走市）、和歌山県、愛媛県にも出展することにより地場産品を広く県内外に紹介した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・物産交流会参加事業者数	目　標	（　）	（　18事業者　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		49事業者			
・物産交流展来場者数（延）	目　標	（　）	（　300,000　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		313,000			

進捗状況説明：
・当初の予定より多くの49事業者の参加が確保できた。
・物産観光展の受け入れ先と連携を図り、お祭りやイベントの開催時期に合わせて行った結果、来場者数もほぼ計画どおりの来場動員を確保することができた。

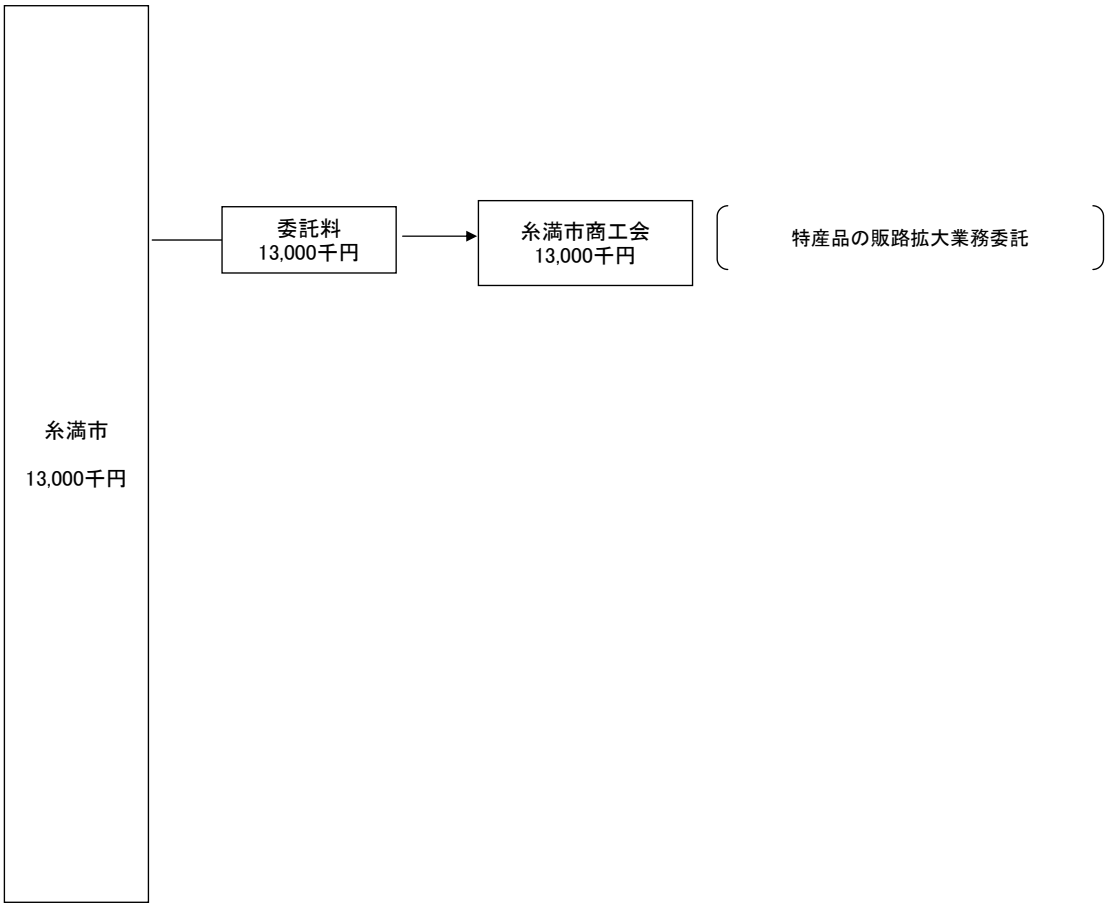
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・糸満市の物産を県内外のバイヤーに対して、効果的にプロモーションを行い、マッチング向上につなげていけるようにしたい。	・商談会を開催するにあたって、バイヤー等に効果的にプロモーションを行うためには、ターゲットの設定や自社商品の強み・弱み等を把握し、戦略的に行っていく必要がある。そのため、県外の商談会の前には講習会の開催などを行っていきたい。

今後の取り組み方針

・県内外で糸満地場産品販路拡大のためのPR並びに糸満市の観光をPRする。
・実施会場ではいとまん美人キャラクター「いとちゃん」、地場産品詩推奨ロゴののぼりで効果的にPRする。
・姉妹都市、友好都市、大都市圏にて、物産展及び観光PRを行う。
・引き続き、本市商工業の振興支援を行うため、地場産品の販路開拓を図り、物産展開催と併せて商談会も実施するともに、本市の観光資源の情報発信を行うことで観光込客数を増加させる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,000	13,000	10,400	2,600	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○糸満市商工会は地域の総合経済団体として、商工業及び観光振興事業の推進、農商工連携による付価値の高い商品開発及び販路開拓等に実績のある団体であり、構築された商工業者のネットワークにより、小規模事業者の販路開拓支援という本事業目的を迅速かつ効率的に事業遂行でき、妥当だったと考える。 ○費目・使途については、確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	8-②	全国豊かな海づくり大会物産フェア実施事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(9)－イ 県産品の販路拡大と地域ブランドの形成
担当部課名	経済観光部　商工観光課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(7)

事業内容

全国豊かな海づくり大会時にふれあい交流事業を実施する中で物産フェアーを開催し、本市の特産品を全国に発信した。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	10,000				
	(b) 予算現額	10,000				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	10,000				
B. 執行済額		10,000				
うち交付金充当額		8,000				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		予算計上どおり執行できた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・物産フェアの開催	目　標	（　フェアの開催　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	フェアを開催			
・参加事業者数	目　標	（　37事業者　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	38事業所			

達成状況説明

・予定通り豊かな海づくりフェスタで糸満コーナーを開設し、出店事業者数も予定よりも多くの事業者を確保することができた。
・糸満市の地場産業者を中心にしないの事業所に出店して頂き、糸満市地場産品フェアを実施。糸満コーナー内でスクラッチカードを配布し、糸満市の地場産品が当たる抽選会等を行った。
・吉本興業との連携により、沖縄出身の人気芸人を招聘し、糸満をテーマにトークステージを展開。糸満市青年協議会、糸満市内青年団によるエイサーを披露。糸満ハーレー・糸満アンマーのパネル展示、各種糸満情報誌等の展示配布を実施。また、読売巨人軍の協力のもと、糸満市出身のプロ野球選手（宮國投手）のパネル展・グッズ抽選会を開催。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（　年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
全国豊かな海づくり大会物産フェア来場者数	目　標	（　　）	（　50,000人　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		52,000人			
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明

・全国豊かな海づくり大会における物産フェアとして実施し、目標を超える52,000人の来場者となった。
・各種趣向を凝らしたイベントとして実施でき、来場者の反応もよかった。

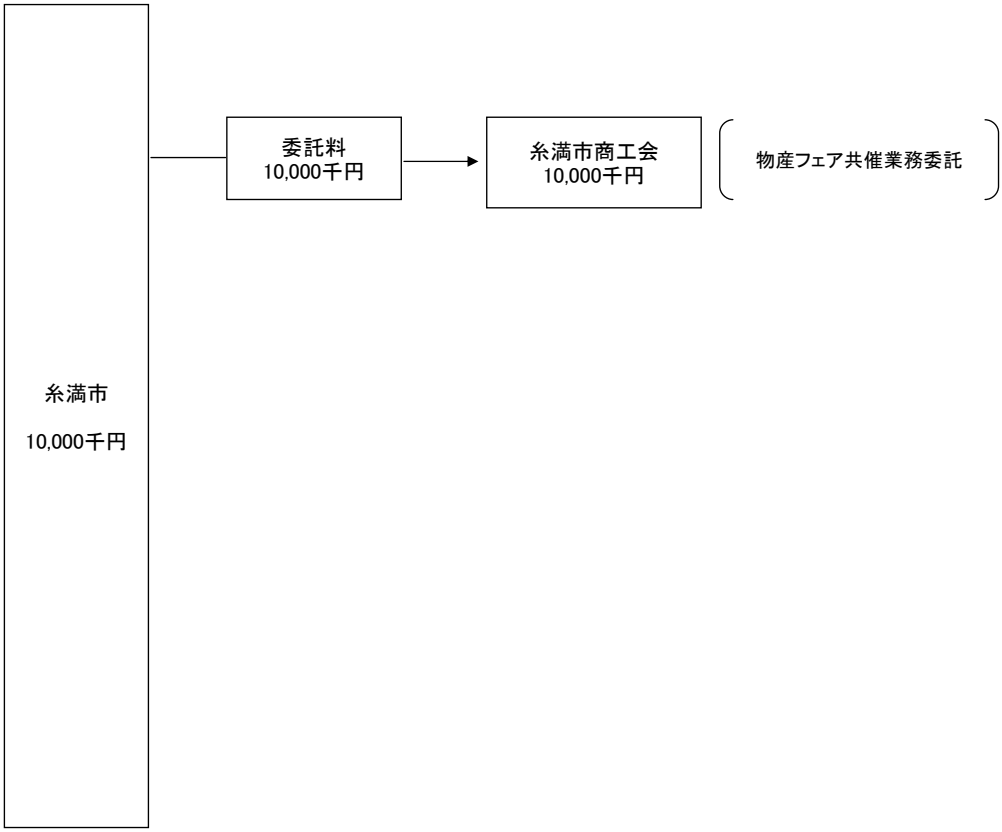
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	平成24年度は全国豊かな海づくり大会に参加される県内外からの多くの参加者に糸満市の地場産品を知っていただき、地場産品の販売促進に寄与することができたが、25年度以降は糸満市内での全国的な大きいイベントがないことから、集客の面での懸念がある。	地元の経済団体や産業関係者、住民、学校機関との連携を図り、効果的に告知宣伝を行うほか、魅力あるステージ等を考え集客につなげて、地場産品のPR・販売促進に寄与していく。

今後の取り組み方針

・魅力あるステージ等を考えて集客につなげて、地場産品のPR・販売促進に寄与していく。
・積極的な参加を事業者へ呼びかけ、商品の充実を図り、効果的にプロモーションを行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,000	10,000	8,000	2,000	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○糸満市商工会は地域の総合経済団体として、商工業及び観光振興事業の推進、農商工連携による付価値の高い商品開発及び販路開拓等に実績のある団体であり、構築された商工業者のネットワークにより、本市の特産品PRという本事業目的を迅速かつ効率的に事業遂行でき、妥当だったと考える。 ○費目・使途については、確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	8-③	報得川タマン祭・西崎フェスタ事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(9)－イ 県産品の販路拡大と地域ブランドの形成
担当部課名	経済観光部　商工観光課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(7)

事業内容	川・海の連鎖を常に認識している。河川下流にある西崎商業地域において、森（農業）と海（水産業）を再認識させるイベントを実施し、市内農水商の連携を強くする事業に取り組んだ。
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,000				
	(b) 予算現額	2,000				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	2,000				
B. 執行済額		1,694				
うち交付金充当額		1,355				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		84.7%				

予算の状況の説明：・当初見込んでいたグルメ選手権を参加する飲食業者がいなく、設置費用分が負担減となり執行率が低くなった。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
西崎フェスタ・報得川タマン祭りの開催	目　標	（西崎フェスタ等の開催）	（　）	（　）	（　）
	実　績	西崎フェスタ等の開催			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：
・祭りに伴う実行委員への補助金（対象経費　運営費、宣伝広告費、事業費等）を交付し、祭り・フェスタの充実化を支援した。
・実行委員には地域の方々を募り、地域参加型のイベントとして実施していくため、実行委員会を8回開催。
・西崎商店街近隣の道路を通行止めにした歩行者天国を実施。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
・西崎フェスタ・タマン祭り来場者	目　標	（　）	（6,000人）	（　）	（　）	（　）
	実　績		5,000人			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：
・ほぼ予定した企画内容でフェスタを開催し、6,000人規模の来場を見込んでいたが、5,000人程度の来場者数となった。
・企画としてグルメ選手権の開催による来場者増員を約1,000人見込んでいたが、同イベントへ応募少数にて実現できなかった部分が影響したものと思われる。

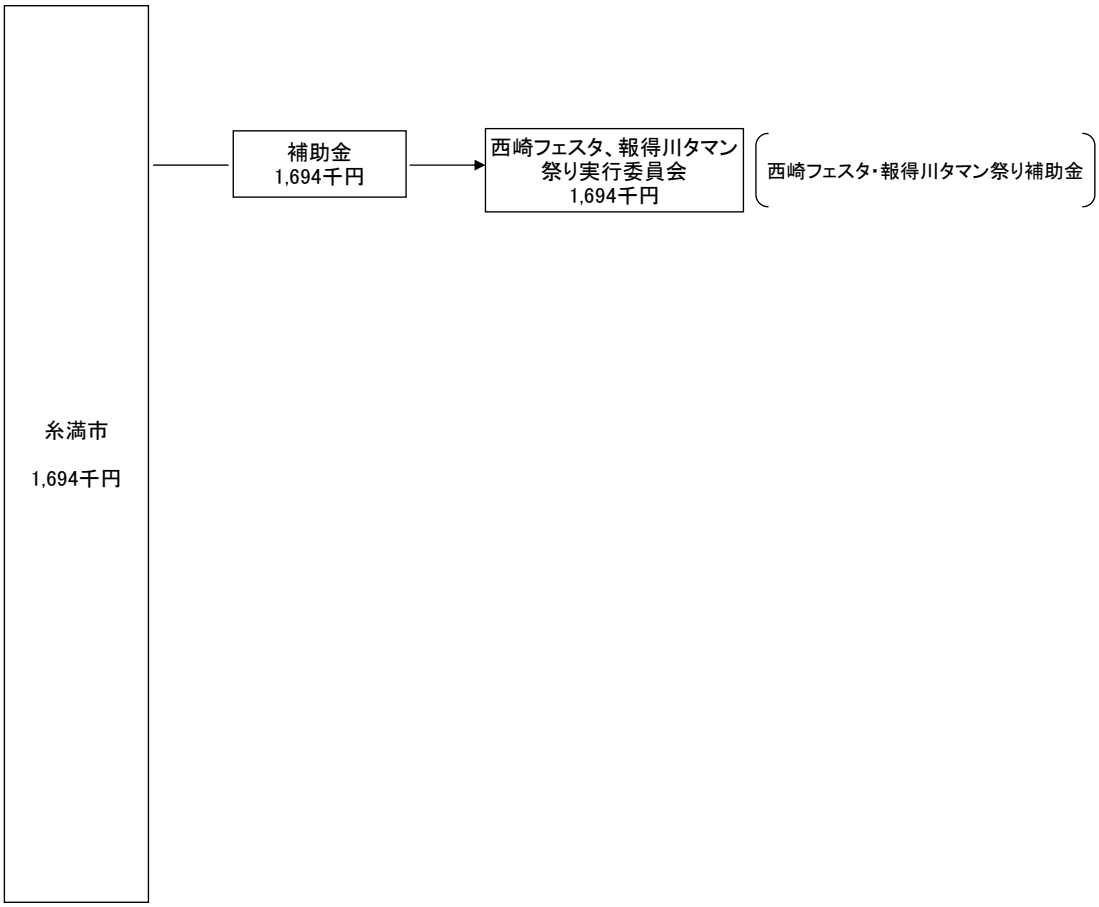
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・本市に立地して大型スーパーが撤退してから、西崎商業地域が急速に衰退した。西崎商業地域で商業活動を営む者と同辺地域自治会が連携し、報得川を中心に持続的な祭りを通して、地域活性化を図る。 ・西崎商業地域は、土地・建物所有者と商売をしている人が分離しており、またアパートに住む居住者も多くいるが、居住者同士間の連携は少ない状態で、コミュニティー不足が感じられ、行政が主体となり、組織化を図っている。 ・西崎商業地域の活性化を図る目的で周辺地域自治会が連携し、イベントを盛り上げる。	・西崎商店街の飲食店を中心に同祭りにおいてグルメ選手権を開催し、地域活性化に繋げる。又、住民参加型のイベントを行い、近隣にある観光ホテルに周知をし観光客を呼び込み、観光客を含め住民と観光客が一体となって祭りを盛り上げる仕組みを充実させる必要がある。

今後の取り組み方針

・西崎商業地域は飲食業を営んでいる方々が多くいるが、地域間での交流はない。平成25年は商業地域の活性化を図る目的でグルメ選手権開催をし、商業地域で飲食業を営む方々を参加させ、飲食業者間同士の活性化に繋げる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,694	1,694	1,355	339	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	●西崎近隣地域の自治会の方々より実行委員を募って実行委員会事務局を結成し、支出先の選定をした。 ●保育所の園児をはじめ、幼稚園、小学校の児童・生徒、一般市民に、市魚であるタマンののぼりを制作をし、住民参加型を実行し、使途については事業目的に必要性がある。 ●受益者負担金については、参加者が負担にならないように、事務局で協議した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	8-④	キッズインザキッチン事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－イ
					流通・販売・加工対策の強化
担当部課名	福祉部　児童家庭課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(7)

事業内容

本市の基幹産業の一つである農業において就農者離れが著しい。親子で農業体験と地場産品を活用した料理教室を行うことでレシピの共有につなげ、地産地消と食育を促進する為、菜園整備と厨房を整備する。

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	0				
	(b) 予算現額	1,500				
	(c) 増減額 (b-a)	1,500				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	1,500				
	B. 執行済額	1,498				
	うち交付金充当額	1,198				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		99.9%				

予算の状況の説明：予算計上どおりに概ね執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・農業体験及び料理教室会場の整備	目　標	（　会場の整備　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	会場を整備			
	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績				

達成状況説明：
厨房設備工事　工事契約(h24.10.2)・工事着手(h2410.2)・工事完了(h25.12.28)
菜園づくり委託　委託契約(h24.9.20)・事業着手(h24.9.20)・業務完了(h24.11.11)

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・農業体験・料理教室参加者	目　標	（　0　）	（　250人　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		102人			
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明：冬場に体調面、衛生面(病原性胃腸炎等の流行により調理は控えた)を考慮し、積極的な活動を控えた結果、目標値を下回った。

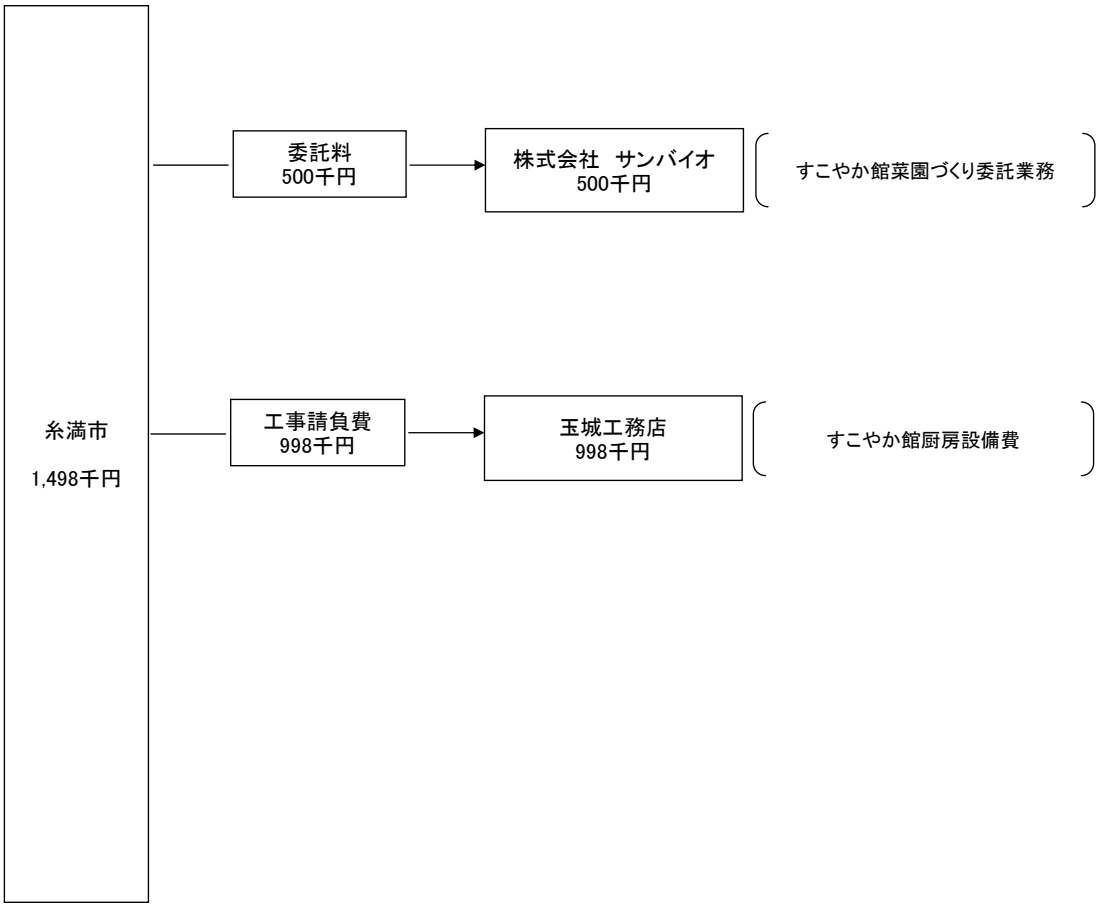
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・工事や委託完了後の冬場の期間となり、感染症（病原性胃腸炎等）が流行したため、積極的な活動ができなかった。 ・種まきから収穫、調理までの一通りの工程を親子で体験できなかった。 ・季節ごとに収穫できる作物に合わせた年間の活動方針を決める必要がある。	・種まきから収穫、調理までの一通りの体験等の事業メニューを開発する。 ・季節ごとに収穫できる作物に合わせた年間の活動方針を決め、計画的に事業施行できるようにする。 ・冬場の衛生面の管理を徹底し、安心して事業に参加してもらう環境づくりを行う。

今後の取り組み方針

・糸満市福祉プラザすこやか館に菜園及び厨房を設置した。今後、これらを活用し親子で収穫した野菜等を使った親子料理講習等を実施する。
・作物の成長と収穫の喜びを体験し、菜園活動を通じて地域と連携した子育て支援活動の展開へとつなげていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,498	1,498	1,198	300	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○親子での農業体験や食育促進のため、菜園・厨房整備は必要であり予算執行は妥当である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	9-①	戦災滅失戸籍等沖縄関係書類電算化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(9)－イ 県産品の販路拡大と地域ブランドの形成
担当部課名	市民健康部　市民課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容	沖縄戦で滅失した戸籍等を終戦後再製したが、用紙の劣化等により再び公文書の減失する現状にあった。同文書の電算化を図り保存した。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	49,020				
	(b) 予算現額	59,520				
	(c) 増減額 (b-a)	10,500				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	59,520				
B. 執行済額		59,520				
うち交付金充当額		39,215				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		予算現額のとおりに執行できた。 ※増減額について・・・沖縄振興特別推進市町村交付金事業計画（平成24年12月17日）中の総事業費には、交付対象外の経費（平成改製原附票ﾃﾞｰﾀ作成業務委託費10.500千円）を含めずに報告したため、その分の差額が生じている。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・沖縄戦滅失書類等の電子化 161,300枚	目　標	（161,300枚）	（　）	（　）	（　）
	実　績	133,339枚			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

・沖縄振興特別推進交付金成果目標報告の際、H24活動目標（指標）数値を『125,269枚』と記載すべきところを161,300枚と誤記しており、正しい目標値にて事業を実施した。
・書類の両面読込や分割読込等による実質作業枚数は133,339枚と実績として8,070枚の増となっている。
・戸籍訂正の際の重要な根拠資料として活用されている当該書類等が電子化されたことで、今なお続く戦後再製された戸籍の訂正等に永続的に活用することができるようになり、さらには電子化により戸籍再製までに要した書類データの保管性や該当書類の検索性の向上につながった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（24年度）
・沖縄戦滅失戸籍等の電子化整備率	目　標	（0）	（100%）	（　）	（　）	（100%）
	実　績		106%			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

・沖縄振興特別推進交付金成果目標報告の際、H24成果目標（指標）数値を『125,269枚』と記載すべきところを161,300枚と誤記しており、正しい目標値にて事業実施した。
・書類の両面読込や分割読込等による実質作業枚数は133,339枚と目標値の106%の実績率となっている。
・今後、戦災滅失による戸籍再製時の事件本人や関係者が少なくなっていく中で、電子化による永続的な保存が可能となったことは、今なお続く戸籍訂正の重要な根拠資料として更なる活用が期待される。

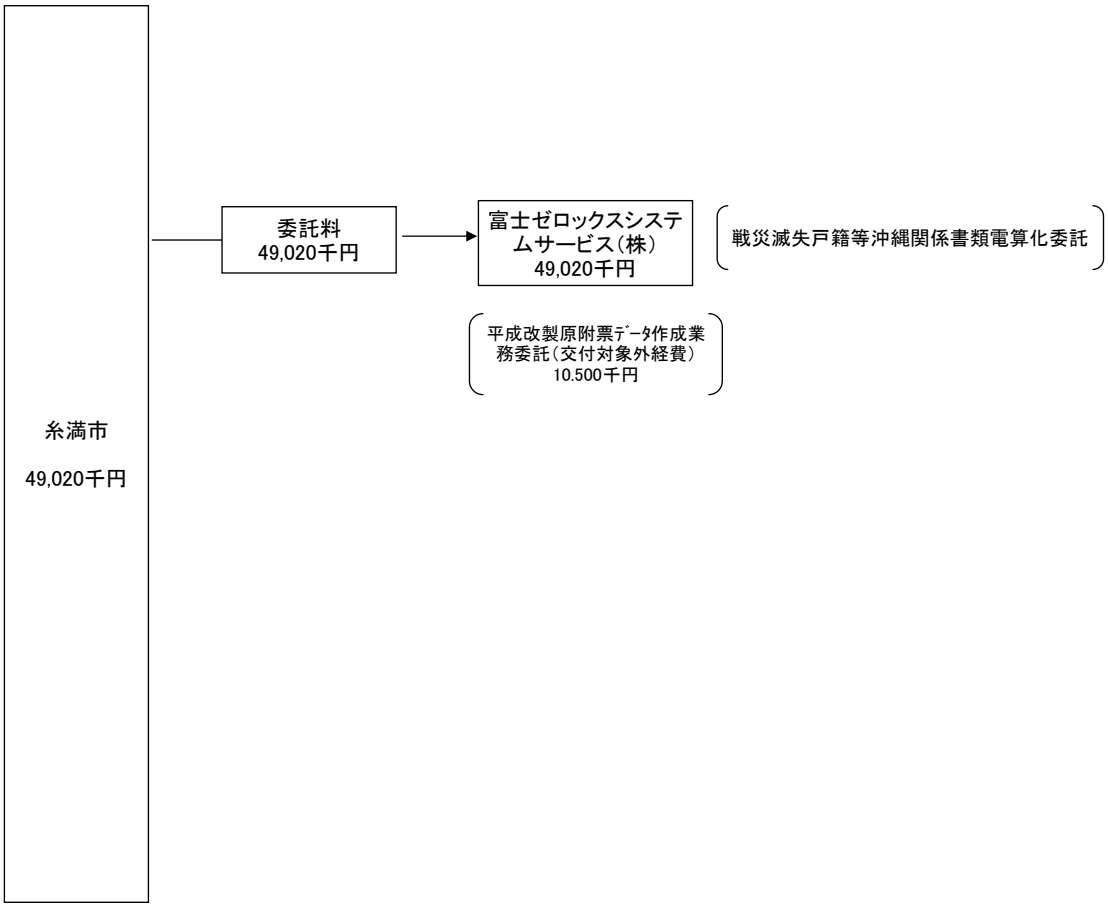
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	事業全体として目標値を上回る成果を得ることができ、書類の劣化により長期保存が懸念されていた書類をすべて電子化できたことは大きな成果である。	電子化による保存性、検索性の向上は、戸籍訂正の際の資料にとどまらず、沖縄の戦後における貴重な資料としての活用が期待できる。ただし、個人情報保護の観点を含め活用方法については十分に検証していく必要がある。

今後の取り組み方針

福岡戸籍、仮戸籍申告書、臨時戸籍という沖縄の戸籍が再製されるまでの間に使用された書類の電子化は、その保存性や検索性が向上することで、今後の戸籍訂正のみならず、相続登記の際の証明書類など幅広く活用されることが期待されるが、これら書類のもつ意味や沖縄の戸籍再製の経緯をしっかりと引き継ぎ、活用できる体制づくりにより、更なる成果の向上が見込まれる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
59,520	49,020	39,215	9,805	10,500



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、随意契約にあたり企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模・費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	9-②	平和の語り部育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－4－(2)－ウ アジア・太平洋地域の安定と平和に資する平和・人権協力外交の展開
担当部課名	企画開発部　秘書企画課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容	市内小・中・高校生の中から、沖縄（糸満市）で繰り広げられた戦争と広島、長崎で起こった戦争の違いを理解し、平和の尊さを伝える平和メッセンジャーを育成する。
実施方法	□直接実施　■委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,687				
	(b) 予算現額	5,687				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	5,687				
B. 執行済額		5,435				
うち交付金充当額		4,347				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		95.6%				
予算の状況の説明		不要額が252千円生じているが、県外平和学習補助金や消耗品費等の不要額である。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・語り部育成各段階における研修会及び講演会の開催	目　標	（研修会・講演会開催）	（　）	（　）	（　）
	実　績	研修会・講演会開催			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：平和ガイド育成及び平和子ども大使育成に関しては、18名の参加者に事前研修・県外研修・事後研修を行った。

平和講演会等に関しては、市内中学校による平和の語りのオープニングからはじまり、講演会・コンサートと行い平和啓発を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・語り部育成研修会受講人数	目　標	（0人）	（15人）	（　）	（　）	（　）
	実　績		18人			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：平和ガイド育成及び平和子ども大使育成に関しては、15名の参加目標に対し18名の参加者があった。

平和講演会等に関しては、300名の集客目標に対し約500名の集客があった。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平和ガイド育成及び平和子ども大使育成に関しては、単年度による一定の成果も認められた。 ・しかし、H24事業を通して平和こども大使に求められる役割についても再考する余地が生じた。（平和等に関する知識、自発的学習意欲及びプレゼン能力等） ・そのため、大使等育成における追加的事業の必要性が生じた。 ・平和講演会等に関しては、若い世代の集客に課題がある。	・平和ガイド育成及び平和子ども大使育成に関しては、左記のとおり内容充実を図っていく必要があるため、複数年度にかけてステップアップしていくプログラムとして実施していくことが望まれる。併せて、各ステップにおける候補者確保も課題となる部分がある。 ・また、当該プログラム実施においては民間活用を使っていく点に改善余地の可能性がある。 ※糸満市（企画開発部秘書企画課）→実行委員会（補助金）という流れを、研修内容充実を目的に、糸満市（企画開発部秘書企画課）→実行委員会（補助金）及び※糸満市（企画開発部秘書企画課）→民間事業者（公募）→事業実施という検討も行う。 ・平和講演会等に関しては、若い世代の集客が平和の価値や理念継承においてポイントとなってくる。

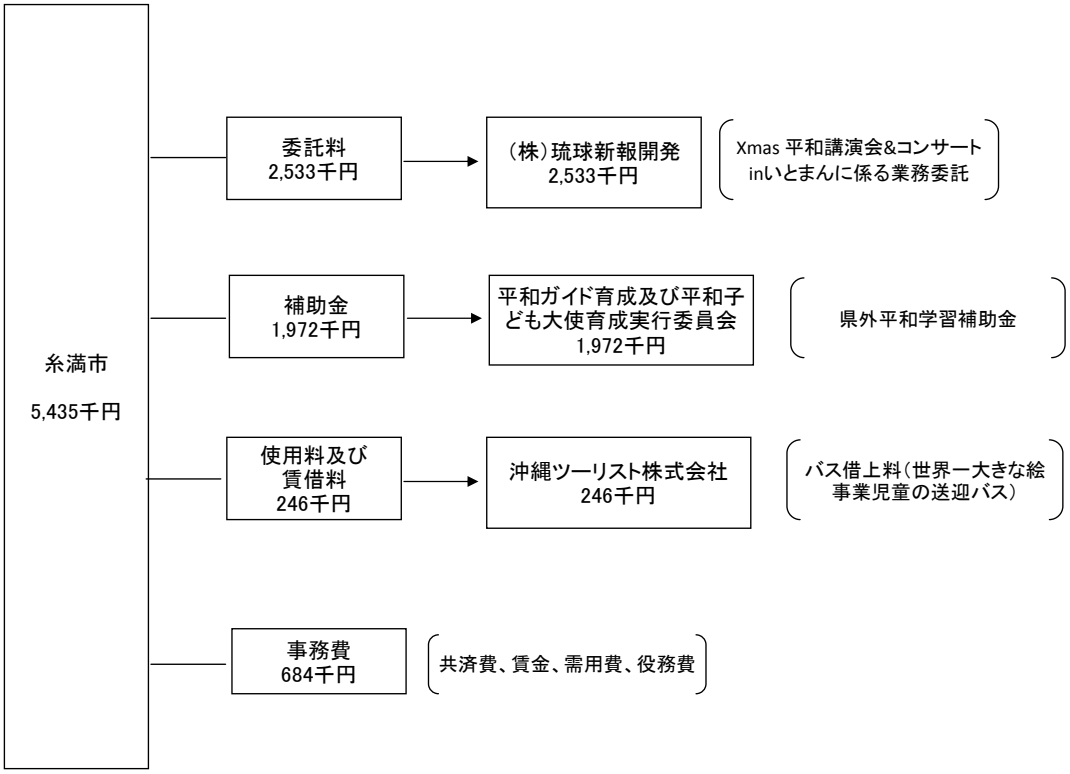
今後の取り組み方針

・平和の語り部（平和ガイド育成及び平和子ども大使）として育成していくには、複数年度のプログラムを通した取組が必要であるため、平成25年度以降については、各研修ステージ（ステップ）を設け、より効果的な研修プログラムとして機能させていくため、適宜プログラムの見直しを行いながら取り組んでいくこととしたい。

・平和講演会等に関しては、次世代への平和継承を柱に若い世代の集客を念頭にした講演・イベント内容としての充実を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,435	5,435	4,347	1,088	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託料について、この事業は「平和」を発信するための啓発事業であること、そのためには事業の周知が不可欠であり、県内の広告媒体（新聞紙上）に掲載することが有効だと考えた。広告掲載のメリットとして観客動員数が大きく、共催となった場合には安心度も高い。さらにポスター等の印刷物についても広告と統一デザインを使用することで低コストが図られる。またイベントを運営するノウハウと経験を有することも求められ、本契約の目的である新聞紙上への広告掲載・イベント業務委託が特定の者でなければ納入できないものであるに該当するとし随意契約を採用した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	10-①	確かな学力を育むサポート事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－ア 確かな学力を身につける教育の推進
担当部課名	教育委員会　指導部　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)

事業内容	糸満市においては、学習支援を必要とする児童が小学校で222人(5%)、中学校で107人(5%)いた。また、学校生活への不適応児童生徒が学校79人(1%)、中学校35人(1%)いた。学校現場へ学習・自立支援員を配置、支援し課題解決を図った。
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	23,575				
	(b) 予算現額	23,575				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	23,575				
B. 執行済額		22,919				
うち交付金充当額		12,052				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		97.2%				
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
学習・自立支援員の配置 小学校10人、中学校6人	目　標	（16名）	（　）	（　）	（　）
	実　績	18名			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明	学習支援を必要とする児童生徒に対し学校現場へ学習・自立支援員を配置・支援し課題解決をはかる。 年間を通して市内10小学校へ11名、6中学校へ7名の学習自立支援員を派遣。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
学習自立支援員配置数 小学校10校、中学校6校	目　標	（16校）	（16校）	（　）	（　）	（　）
	実　績		16校			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明	・支援員1人当たりの対応児童数　延べ　小学校143人/週、中学校118人/週 ・学習・支援員配置効果 平成23年度と比較し平成24年度は県到達度調査における教科の総合計においても小学校7.2ポイント、中学校9.7ポイント改善した。

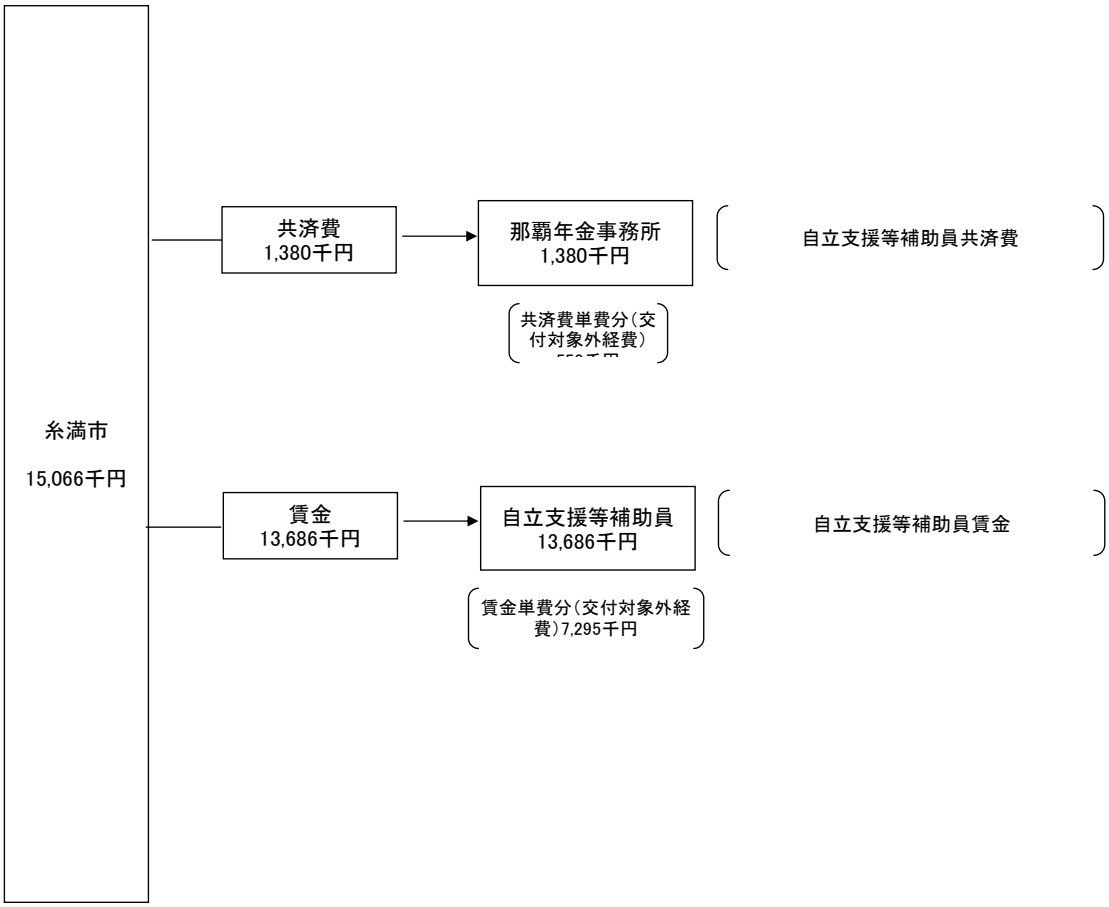
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・県到達度調査において、沖縄県平均には至っていない。 ・支援員を配置したことで、児童生徒の学習に対する意欲・集中力において効果を感じるなどの現場の声があった。	・支援員を各学校に1名配置し学習支援等を行っているが、大規模校では支援員が足りていない状況であり、複数人配置を行う必要がある。 ・支援員に対し研修会や勉強会を開催し、教諭としての資質の向上を図り、児童生徒の学力向上に寄与する。 ・平成24年度に配置した支援員を次年度以降も継続配置することで、学校での連携・児童生徒との信頼関係等が既に築けている状態であり、事業をスムーズに行うことができる。 ・県、他市町村の臨任職員に比べ学習指導・自立支援員の賃金が安く、人材を確保するのが厳しい現状である。

今後の取り組み方針

・県到達度調査における県平均の達成ができていないため、次年度以降に関しても同事業を継続・実施していきたい。また、将来的に毎年度県平均を達成し続けることができるよう、同事業を活用していきたい。
・支援員の資質向上を目的として研修会等を年3回程度開催していく。
・各学校の実情に合わせ、適正な支援員数の適正配置・柔軟な配置を検討していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
22,919	15,066	12,052	3,014	7,853



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○学習自立支援員の公募・選考を行い、適切な人材と考えている。 △予算規模については、小学校勤務の支援員の勤務時間を短縮し運用している状況である。予算規模を拡大し、より多くの支援を行いたい。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	10-②	英語指導事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(4)－ア 国際社会、情報社会に対応した教育の推進
担当部課名	教育委員会　指導部　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)
事業内容	小中学校の英語授業における英会話指導、発音指導や学級での質の高い英語指導を実施するため、英語指導助手を配置する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	21,291				
	(b) 予算現額	21,291				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	21,291				
B. 執行済額		21,245				
うち交付金充当額		10,856				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		99.8%				
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・英語指導教諭の配置 小学校　5人　中学校2人	目　標	（　7人　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	7人			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：
・市内小学校・中学校へ英語指導教諭の配置した。
H24年度：小学校　5名　中学校2名

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
・英語指導教諭の配置数 小学校　10校　中学校6校	目　標	（　16校　）	（　16校　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		16校			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：
・計画どおり市内16校への配置ができた。
・英語指導教諭１人当たり指導児童数としても延べで小学校283人/週、中学校220人/週が実現できた。

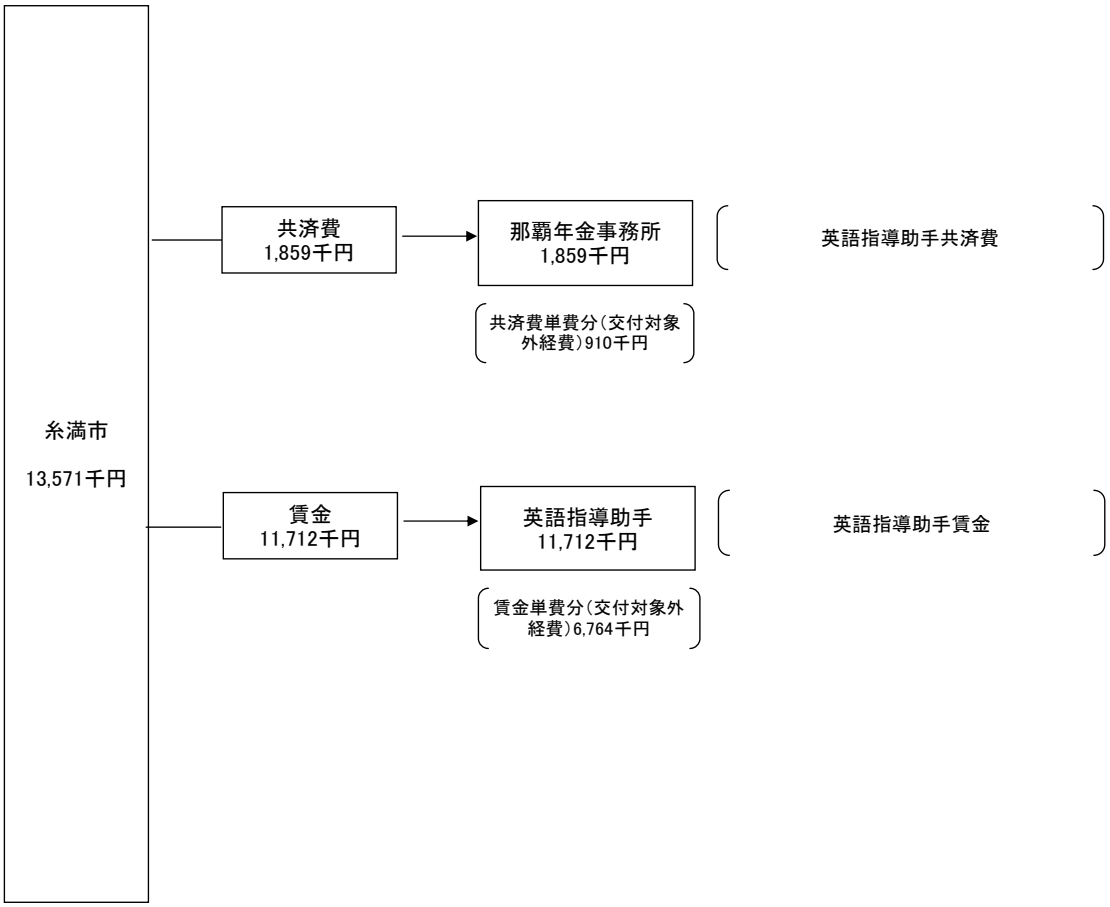
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	「英語立県沖縄」の宣言を踏まえ，小学校段階からの国際理解教育の充実を図り，コミュニケーションの手段としての外国語（英語）に慣れ親しませ，外国語(英語)を用いて，コミュニケーションを図る楽しさを体験させることなどが重視されているが，実際の外国人にふれあい、外国語（英語）を使ってコミュニケーションを行う場面などが不足している。 また、県到達度調査において、沖縄県平均には至っていない。	・小学校の学級担任や小中の外国語活動担当教諭等の研修会を実施 ・外国語活動における学習指導要領や地域，学校および児童生徒の実態を踏まえた年間指導計画を作成し、指導方法の工夫改善などを目指し、資質向上を図る。 ・英語指導助手を今後も継続派遣することでﾈｲﾃｨﾌﾞｽﾋﾟｰｶｰとの対話が可能となり、英語に慣れ親しむ環境を整えることができる。

今後の取り組み方針

●小学校5年6年での英語教育が必修実施となり、各市町村は1年より英語に慣れ親しむ環境を整えている。中学校において英語の時間が各学年週4時間に増となっており、ﾈｲﾃｨﾌﾞｽﾋﾟｰｶｰの人員不足により授業への効果懸念があるため、次年度以降も同事業を継続・英語指導助手を活用し、国際理解教育及び英語活動を推進していきたい。また、県到達度調査における県平均の達成を目指し、また、将来的に毎年度県平均を達成し続けることができるよう、同事業を活用していきたい。
●外国人との交流会等を積極的に実施するために、英語指導教諭を派遣し、ティームティーチングやグループワーク等の指導形態及び指導方法の工夫・改善を積極的に行い，「聞くこと」，「話すこと」，「読むこと」，「書くこと」の4技能の総合的な育成を図っていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
21,245	13,571	10,856	2,715	7,674



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○英語指導助手の公募・選考を行い、適切な人材と考えている。 △予算規模については、7名の英語指導助手を派遣することで市内小中学校へ英語指導を行っているが、予算規模を拡大し、8名の英語指導助手を派遣することでより多くの指導助言が可能になる。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	10-③	障がい児支援ヘルパー派遣事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－ウ 時代に対応する魅力ある学校づくりの推進
担当部課名	教育委員会　指導部　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)

事業内容

発達障害を含む様々な障害を持つ児童生徒に支援ヘルパーを配置するとともにヘルパーの資質向上を目的とした研修会を開催した。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	19,855				
	(b) 予算現額	43,553				
	(c) 増減額 (b-a)	23,698				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	43,553				
B. 執行済額		42,085				
うち交付金充当額		10,225				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		96.6%				
予算の状況の説明		予算現額どおりに概ね執行できた。 ※増減額について・・・沖縄振興特別推進市町村交付金事業計画（平成24年12月17日）中の総事業費には、交付対象（小学校高学年19,855千円）のみを計上し、交付対象外の経費（幼稚園・小学校低学年23,698千円）を含めずに報告したため、その分の差額が生じている。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・障がい児支援ヘルパーの配置 ・ヘルパー研修会の開催 幼稚園8人、小学校16人、中学校1人	目　標	（25人）	（　）	（　）	（　）
	実　績	25人			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

・市内幼稚園・小学校・中学校へ障がい児支援ヘルパーの配置を実施。
H24年度：幼稚園8人、小学校16人、中学校1人
・学期ごとに研修会の開催　3回/年

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
・障がい児支援ヘルパーの配置数 幼稚園6園、小学校8校、中学校1校	目　標	（15校(園)）	（15校(園)）	（　）	（　）	（　）
	実　績		15校(園)			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

・当初の計画どおり市内15校（園）へのヘルパー配置が実現できた。
・ヘルパー1人当たりの対応児童数としても延べ24人/年のサポートが実現できた。
・ヘルパースキルアップのための研修会についても開催し、履修者数としても33人（延べ）の参加があった。

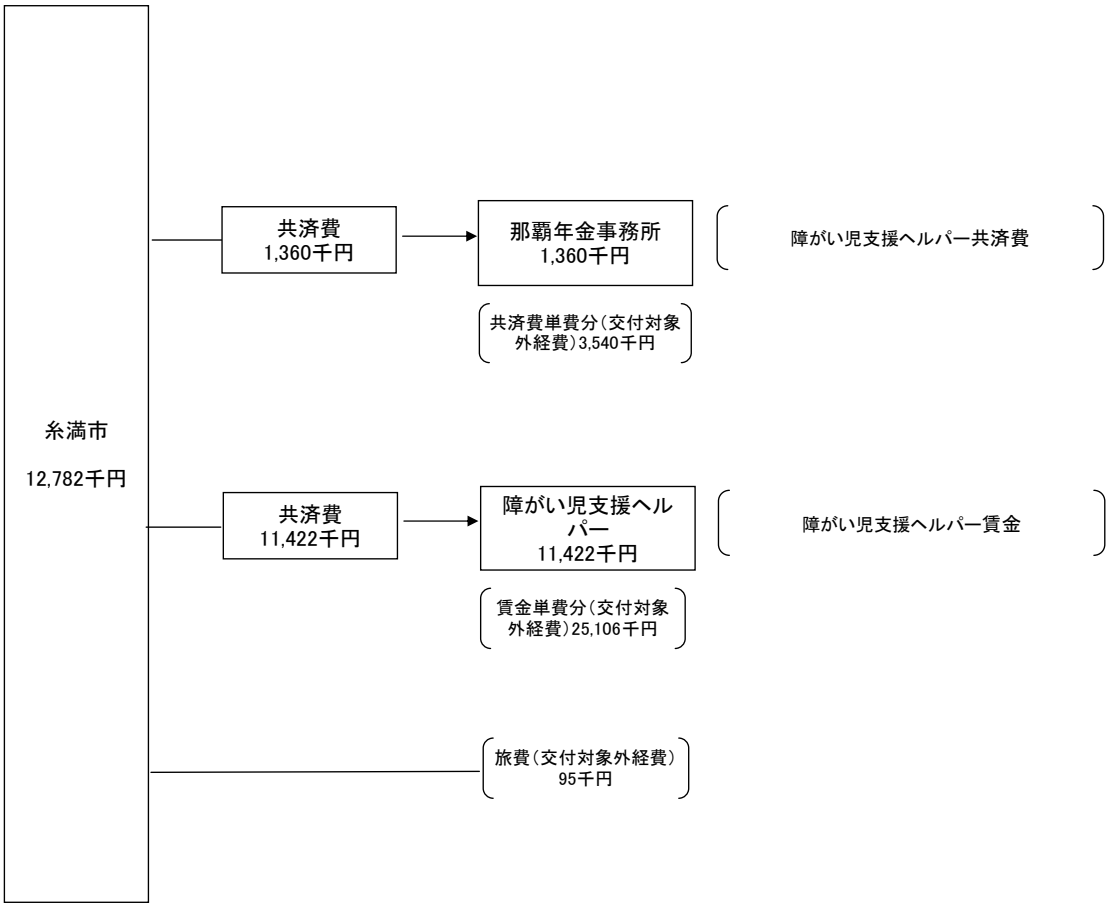
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・学校教育法施行令第22条の3に掲げる障害者以外に自閉症などの広汎性発達障害、注意欠陥・多動障害、学習障害、協調障害、精神遅滞、てんかんなどの発達障害等による支援を要する幼児児童生徒が年々増加傾向にある。（支援側における発達障害の危険因子の発見技術の向上もある）その結果、幼稚園及び学校現場の職員は、多様化し・複雑化する幼児児童生徒の諸問題の対応に苦慮している。 ・ヘルパーを配置するも、現場における新たな要支援児童の発見等も多く、サポート体制（事件・事故発生率上昇の懸念）が十分ではない。 ・ヘルパーによる単年度単位の支援活動には、支援成果も限定的となる。	・学校職員への特別支援教育への理解及び周知と障害児への対応へのスキルアップ研修の実施。 ・障害児支援ヘルパーの資質向上のためのスキルアップ研修プログラムの向上。 ・事件事故防止のための障害児支援ヘルパーの増員。 ・支援ヘルパーの複数年継続配置により要支援児童との信頼関係を構築することで、相乗的な支援成果が期待される。

今後の取り組み方針

・次年度以降も継続して支援ヘルパーを派遣し、要支援児童の量的・質的ニーズへ対応していく（ヘルパーの増員）。
・特別支援コーディネータ・特別支援学級担任及び障害児支援ヘルパー配置学級担任等に対する更なる資質向上のための研修会の実施（研修会の質的・量的向上）

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
41,523	12,782	10,225	2,557	28,741



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○障がい児支援ヘルパーの公募・選考を行い、適切な人材と考えている。 △予算規模については、年々支援を要する児童生徒が増加している現状を踏まえ、予算規模を拡大し、より多くの要支援児童生徒にヘルパーを配置することで手厚く支援を行っていきたい。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	10-④	学習ボランティア推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－ウ 時代に対応する魅力ある学校づくりの推進
担当部課名	教育委員会　指導部　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)

事業内容

退職教諭や学生等による「学習ボランティア」の組織をつくり学校現場へ学習ボランティアを派遣する。また、学習指導ボランティアの連絡協議会を開催し運営者指導の充実を図った。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	600				
	(b) 予算現額	600				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	600				
B. 執行済額		536				
うち交付金充当額		217				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		89.3%				
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・学習ボランティアの組織化（協定）	目　標	（　組織化　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	組織化した			
・学習ボランティア連絡協議会の開催	目　標	（　協議会の開催　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	協議会を開催			

達成状況説明：・学習ボランティアの組成し、学習ボランティア連絡協議会を開催（1回/年）した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
・学習ボランティア組織化の協定数：2件	目　標	（　－　）	（　2件　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		2件			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：
・当初の計画どおり、2つの組織化が実現できた。
・組成した学習ボランティアへの登録者数は21人となった。
・組成した学習ボランティア派遣回数としては、延べ　360日/年　となった。

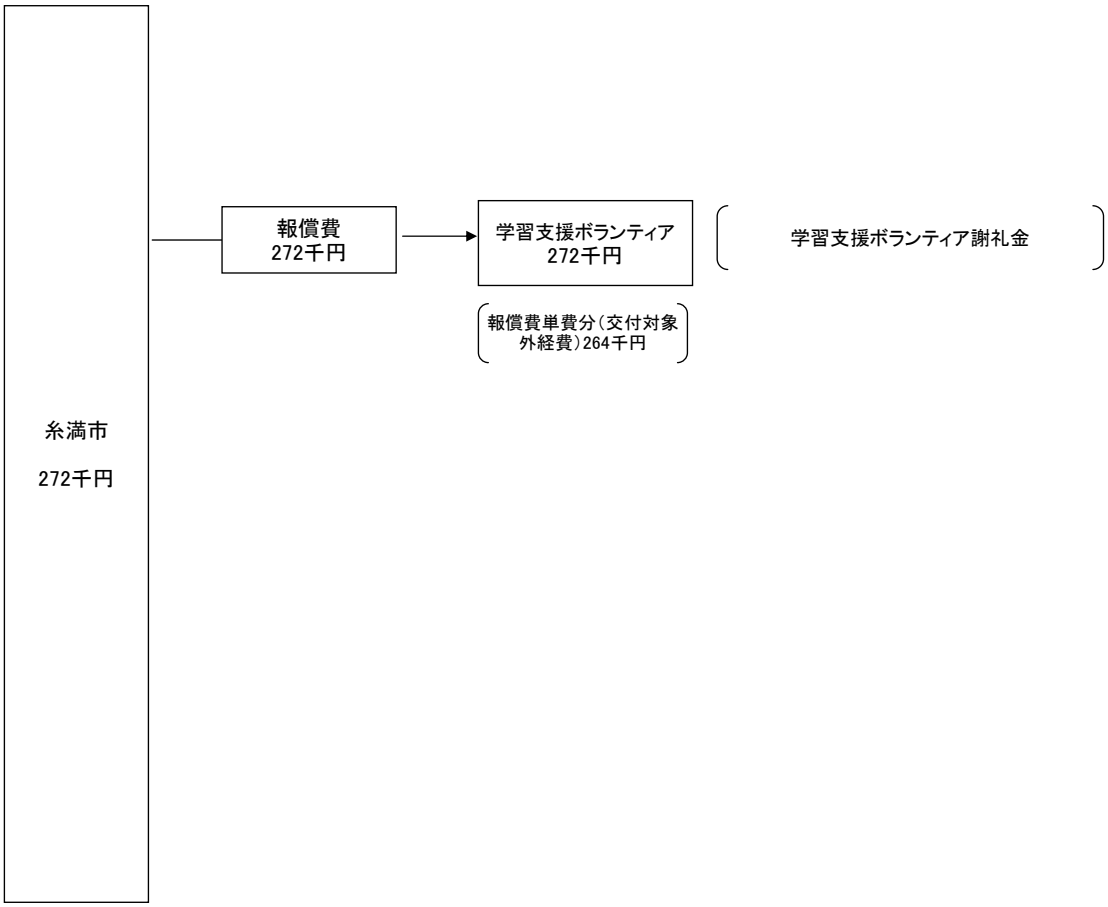
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・県到達度調査において、沖縄県平均には至っていない。 ・学校によってボランティア員数に差がある。 ・ボランティア員を配置したことで、授業をより円滑に運営できたとの現場の声があった。	・大学等からの学生派遣のみだけでなく、地域住民ボランティア員の活動に対して報償費を工面することでさらなるボランティア員の確保につながる。 ・ 学習支援ボランティアの連絡協議会を開催し運営や指導の充実を図る必要がある。 ・大学等との協定において教員養成課程の充実を図っているため、今後も継続した学生ボランティア員との連携が見込め、持続した学力向上を行える。

今後の取り組み方針

・大学等との協定において教員養成課程の充実を図っている為、今後も同事業を活用した学力向上が見込める。県到達度調査における県平均の達成ができていないため、次年度以降に関しても同事業を継続・実施していきたい。また、将来的に毎年度県平均を達成し続けることができるよう、同事業を活用していきたい。
・学習支援ボランティアの連絡協議会を開催し運営や指導の充実を図る。
・大学等との協働事業を拡大し、ボランティア活動の充実を図る。
・学校支援地域本部事業との連携の推進

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
536	272	217	55	264



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ボランティア員に対する報償費として適切に執行されていると考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	10-⑤	学びの体験事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(3)－ウ 時代に対応する魅力ある学校づくりの推進
担当部課名	教育委員会　指導部　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)

事業内容

学力向上で成果を上げている秋田県に直接児童等を派遣し、学習に対する心構えや学校生活・放課後の過ごし方など、先進地の学校における“学び”を体験し、派遣元の生徒や地域に波及させ、全国下位にある学力向上を図った。

実施方法　■直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	0				
	(b) 予算現額	5,495				
	(c) 増減額 (b-a)	5,495				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	5,495				
B. 執行済額		5,378				
うち交付金充当額		4,301				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		97.9%				
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
先進地体験交流事業の実施	目　標	（交流事業の実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	交流事業を実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明

・先進地体験交流事業を実施した。
・同交流事業への参加者数　51人/H24年度となった。交流事業終了後は、先進事例発表会を実施し、経験したことのフィードバック及び発表会を通じた発表表現力等の向上を図った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
・先進地体験交流参加者数　51人	目　標	（－）	（47人）	（　）	（　）	（　）
	実　績		51人			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

・当初の予定を超えてトータルで51人交流団となった。
・先進地体験交流参加者数51名（小学校20人、中学校16人、引率12人（教諭10人・団長1人・看護師）、事務局3人）
・先進事例発表会参加者数　450人/H24

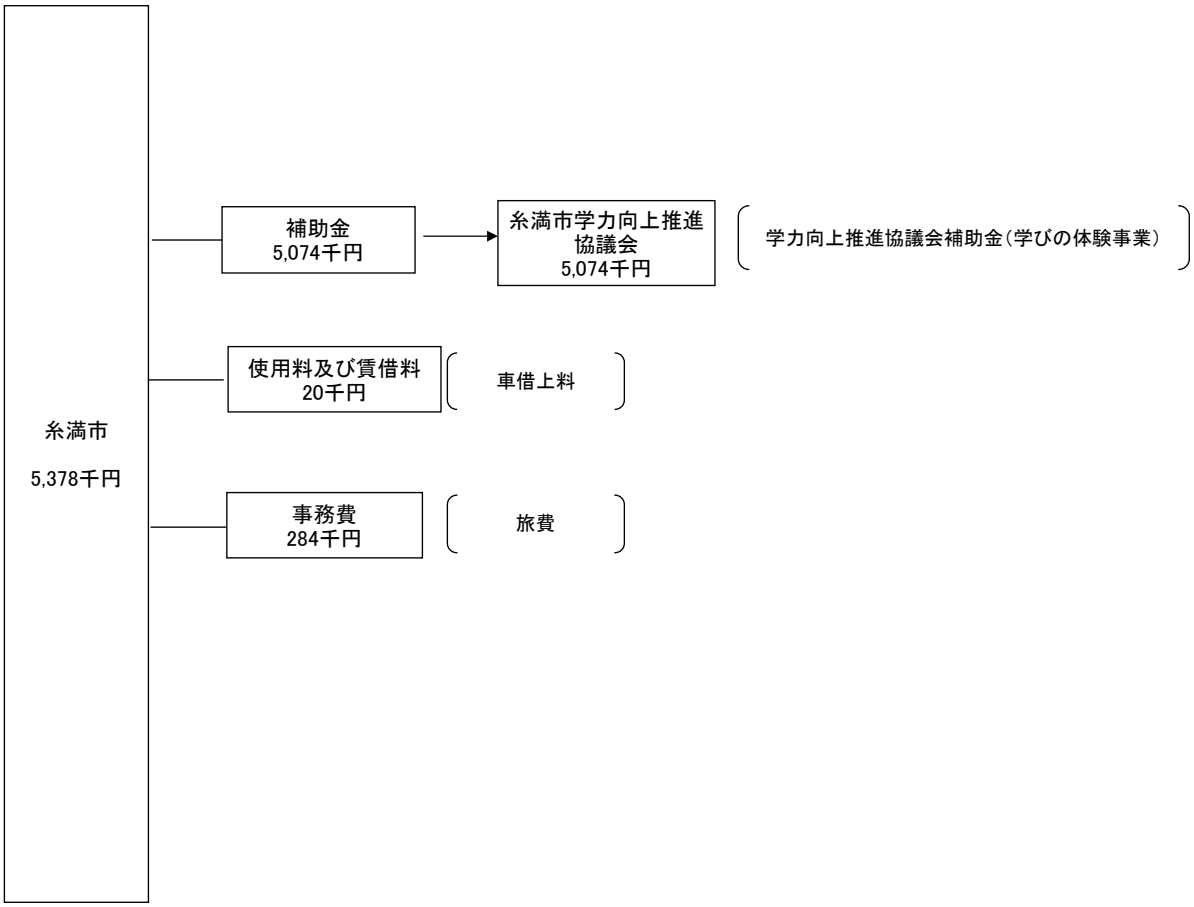
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・県到達度調査において、沖縄県平均には至っていない。 ・派遣児童生徒、及び教員の選考。 ・児童生徒の体調管理を考慮し、日程を組む。 ・秋田派遣の児童生徒から勉強方法に対する意識の変化、学んだことを持ち帰り学級・学年・学校と伝え広げていきたいとの意思が感じ取れる報告があった。	・幼稚園教員の派遣を行わなかったことで、先進地幼稚園の視察に支障がでた。次年度は幼稚園教員派遣も考慮したい。 ・今年度交流事業を行ったことで、秋田県大仙市教育委員会と協力的な関係を築くことができた。次年度においては更なる連携を図り児童生徒の学力向上・教員の資質向上に取り組みたい。

今後の取り組み方針

・秋田県大仙市教育委員会との協力的な関係のもと、次年度も児童生徒の更なる学力向上・教員の資質向上を行い、県到達度調査の県平均を達成していきたい。
・先進地教育委員会との連絡調整後、交流日程・受入校を決定
・学校・児童生徒・保護者説明会開催
・先進地へ派遣。受入先幼・小・中学校と体験交流
・交流事業後、実践発表会を開催
・実践報告書作成

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,378	5,378	4,301	1,077	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金支出団体は市の学力向上推進を目的としており、組織・実績等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	11-①	幼稚園児預かり保育関連整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(2)－イ 地域における子育て支援の充実
担当部課名	教育委員会　指導部　学校教育課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－4

事業内容

当該幼稚園の在園する園児で、保護者が「預かり保育」を希望する園児を募集し、教育課程修了後～午後6時までの「預かり保育」を実施する。
併せて預かり保育事業を進めるため、食器・コンテナ、冷房設備整備を行う。

実施方法　□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,711				
	(b) 予算現額	5,958				
	(c) 増減額 (b-a)	247				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	5,958				
B. 執行済額		5,787				
うち交付金充当額		4,629				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		97.1%				

予算の状況の説明：空調設備工事の規模が大きくなったことによる予算現額の増

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
預かり保育環境整備工事の実施	目　標	（　工事の実施　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	工事を実施			
	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績				

達成状況説明：・預かり保育環境整備工事　1箇所（糸満南幼稚園）

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
幼稚園預かり保育利用者数：80人	目　標	（　60人　）	（　80人　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		90人			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：
・預かり保育児童数90人/年
・預かり保育実施園数　3園

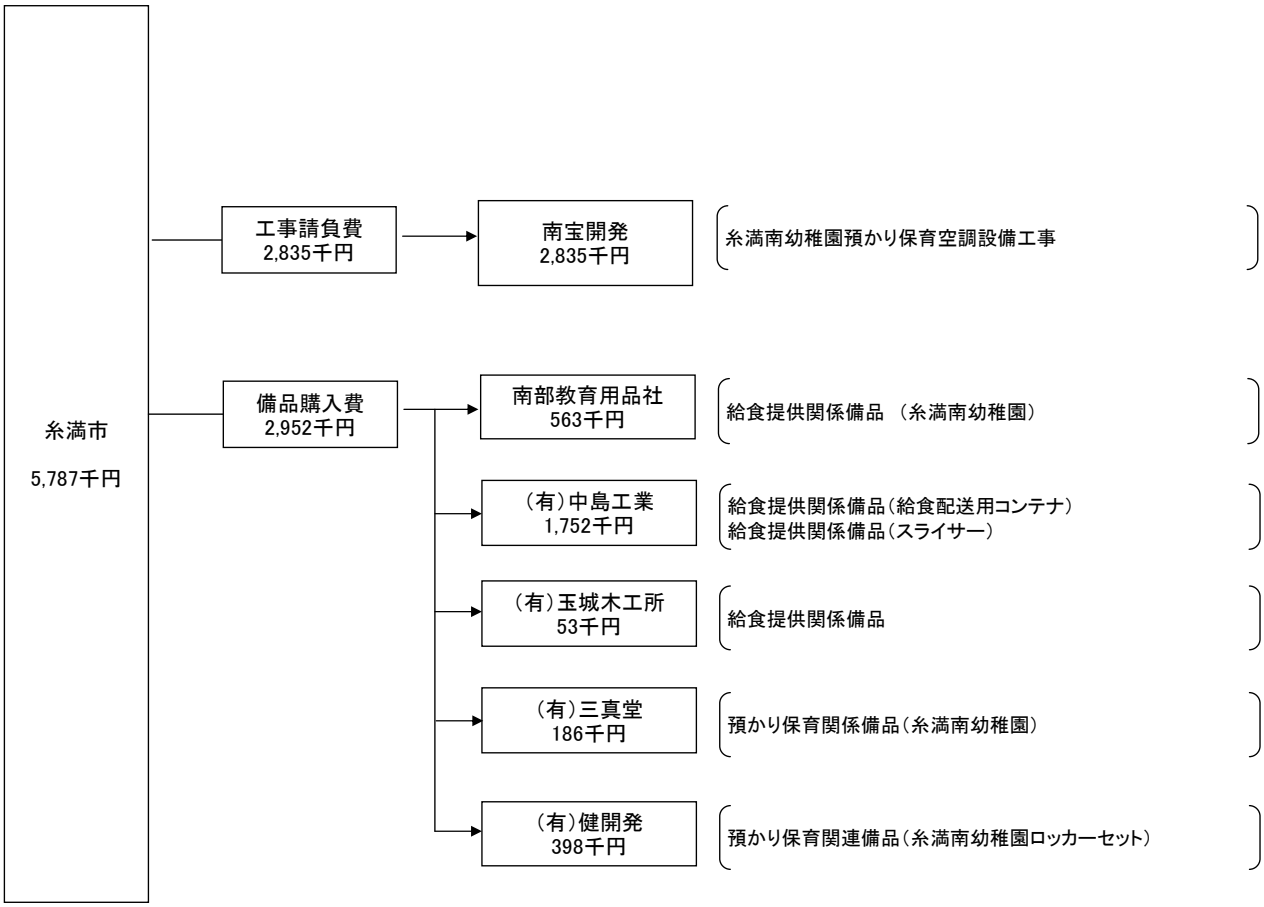
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	預かり保育を実施するには、教育環境の整備が必要であり、空調設備の整備や備品類の整備が必要となる。今回初期の目的が達成が達成できたと考える。	預かり保育を実施するに当たり、教育環境の整備が図られたと考える。

今後の取り組み方針

今後は、市の預かり保育に関する方針（決定）を踏まえて、環境整備等を進めていく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,787	5,787	4,629	1,158	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○費目、使途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	11-②	地域子育て推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(2)－イ 地域における子育て支援の充実
担当部課名	福祉部　児童家庭課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－4

事業内容

全ての家庭が安心して子育てができる環境を整備することを目的とし、地域における子育て支援ネットワークを構築すべく、子育て支援嘱託員、児童厚生指導員等の配置を実施した。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	14,862				
	(b) 予算現額	14,862				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	14,862				
B. 執行済額		14,628				
うち交付金充当額		6,409				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		98.4%				

予算の状況の説明：予算計上どおりに概ね執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
すこやか館・児童館への地域子育て支援員の配置	目　標	（　3人　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	3人			
すこやか館・児童館への児童厚生指導員の配置	目　標	（　4人　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	4人			

達成状況説明：子育て支援事業全般（すこやか館、児童館、ふくらしゃ館等で実施する子育て支援活動全般）の円滑な運営を実施するために子育て支援員1名を配置。また親子通園事業に保育士2名、児童館2か所（がじゅまる、太陽）に、それぞれ児童厚生指導員を2名を配置したことにより、地域の子育て支援、健全育成の向上を図ることができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・すこやか館・児童館利用者数（延）	目　標	（　0　）	（　23,000人　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		21,008人			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：
太陽児童センター利用者数（9月～3月）　11,391人
がじゅまる児童センター利用者数（9月～3月）　8,406人
すこやか館（親子通園事業　9月～3月）　1,211人

概ね目標水準の利用数ではあったが、目標を超えるには至らなかった。

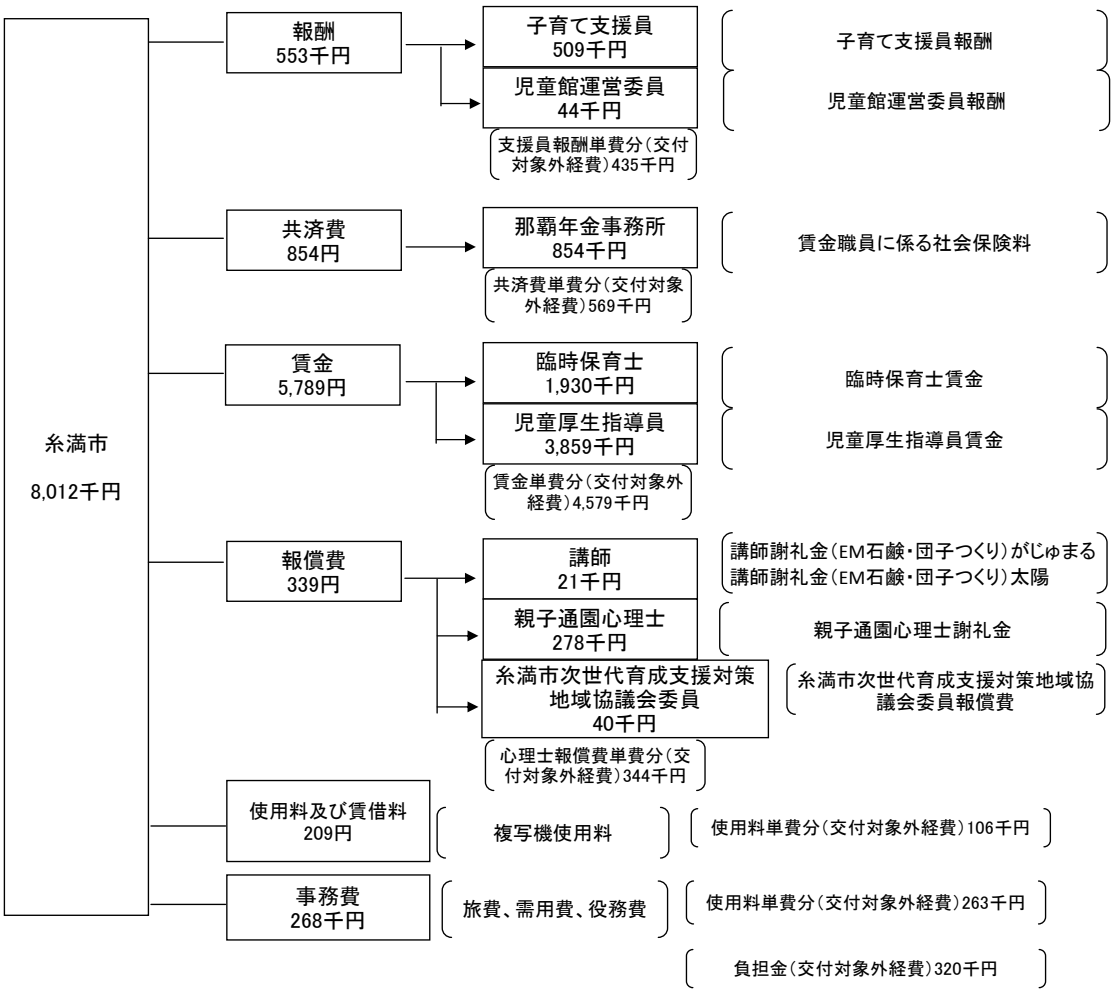
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	保育士（親子通園事業）、児童厚生指導員（児童館）については、有資格者を配置しているが、人員確保に苦慮している。	他の部署と情報を共有し、人材の確保を図る。 OB職員（保育士）の活用を検討する。

今後の取り組み方針

人材不足が事業縮小に繋がらないよう、保育担当部署、教育委員会等とも連絡を密にして人員確保に努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
14,628	8,012	6,409	1,603	6,616



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○児童館、すこやか館運営に必要な経費であり、予算執行は妥当である。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	11-③	子育て応援NPO活動支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(2)－イ 地域における子育て支援の充実
担当部課名	福祉部　児童家庭課	事業実施（予定）年度	平成２４年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)
事業内容	子育ての困難な親が増加しており、適切な支援を必要とする機会増えている。NPOを活用して親の居場所づくりや子育ての見守り、支援を行った。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,583				
	(b) 予算現額	4,583				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	4,583				
B. 執行済額		4,551				
うち交付金充当額		3,640				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		99.3%				
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
(NPO活動団体への事業委託) ・NPOを通じた親向け学習会の開催	目　標	（　学習会の開催　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	学習会を開催			
・支援員(1人)の配置	目　標	（　1人　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	1人			

達成状況説明：支援の必要性があるにもかかわらず行政のサービスメニューがない、継続したきめ細やかな支援ができない等の事例に対して、子育て支援員が家庭児童相談員、婦人相談員、保健師と連携し、対象者のニーズにあった支援を展開することができた。また、その親の支援を通して普段の暮らしの仕方を伝え（料理講座7回、研修会13回を実施）、子供や家族のために作る喜び、感謝される嬉しさ等を味わう中で子育ての喜びと同時にその負担感の軽減につなげることができた。

研修会を通じて要支援者の理解とアセスメント、支援目標、支援方法について学び、共有し、実際の支援に生かすことができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（　年度）
・NPOを通じた親向け学習会の参加者数	目　標	（　0　）	（　480人　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		983人			
【参考指標】	目　標	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明：※学習会等の参加者数については、本来45人参加の参加目標として設定すべきであったが、NPOが施設管理を行う利用者全体の数値として設定してしまったため、正しくは次のとおりの目標及び結果となっており、それぞれ目標を達成することができた。
・NPOを通じた親向け学習会の参加者数　目標45人　実績　47人
・NPOが管理する施設利用者数　目標　480人　実績　983人
・本事業で支援員を配置したことにより関係機関との情報交換や会議を開催することができ、支援者のニーズに応えることができた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・支援する側が福祉の実態や支援内容によって対応が不十分な場面があった。 ・対応後の細やかな報告等の情報交換が不十分であった。 ・若年の親の精神面の理解や信頼関係の構築が十分ではなかった。 ・同年齢の親同志の交流が困難だった。	・専門家（講師）を招いて学習会を継続して開催する。 ・情報の共有化を図る体制づくりの検討 ・ワークショップ等を企画し、青年期を理解する研修会の実施 ・支援会議を開催し、きめ細やかな支援の取り組みを図る。 ・一緒にフォローしながら、各種行事参加を促す。

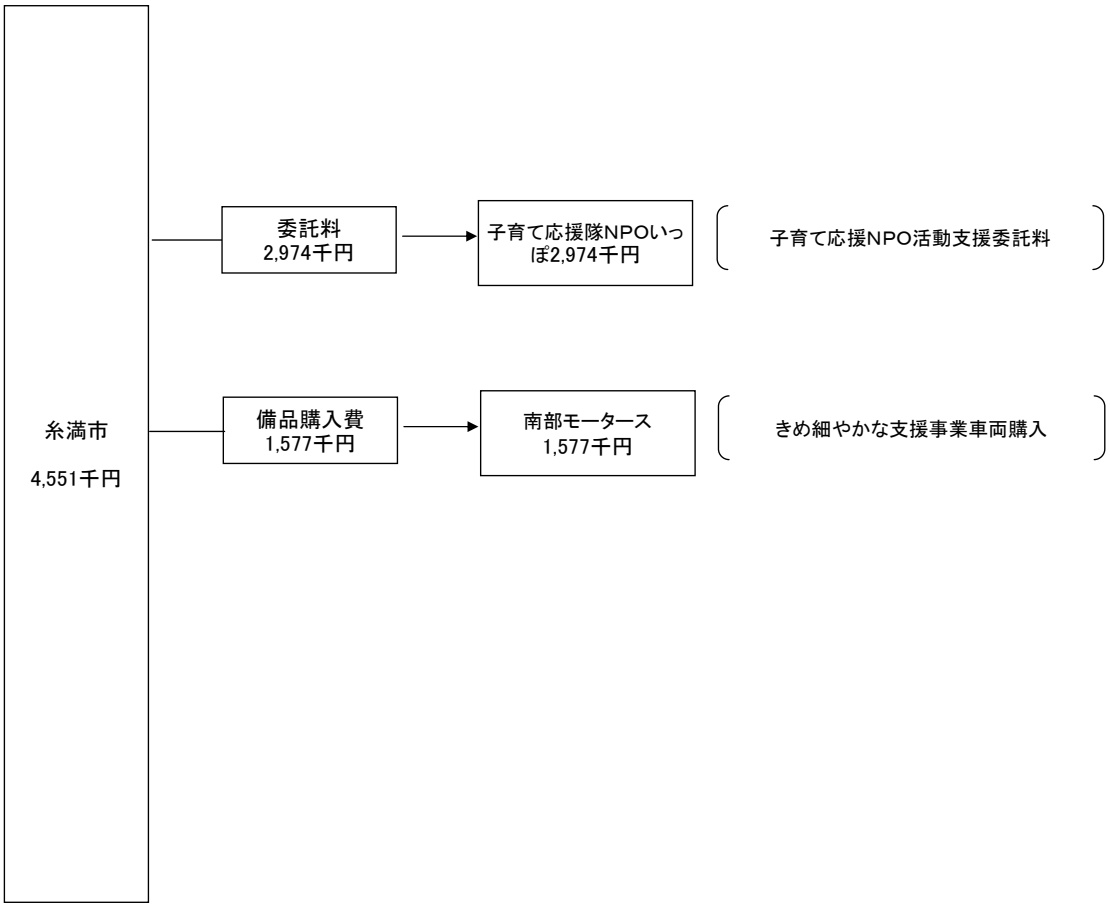
今後の取り組み方針

これまで通り、支援員が地域を公用車で巡回して子どもを抱え親が引きこもりがちな家庭や養育困難な家庭等支援が必要とされている親に対して定期訪問を実施するとともに、家庭児童相談員、婦人相談員、保健師と連携し、早期の支援開始と個々のケースに応じた対応策を講じていく。加えて、支援員のスキルアップを図るための専門的知識の習得と支援技術の向上を目的とした研修会の開催、要支援家庭を対象とした学習会の開催を実施する。

養育困難な家庭環境下では、児童の健全育成を阻害する恐れが懸念されるが、その要因は様々であり個々のケースにあったきめ細やかな支援を提供することにより時間を掛け養育可能な家庭環境に導く。これらを行政のみで実施することは容易ではなく、NPOと連携し、次年度以降も長期に渡る支援体制の確立、支援の継続が子育て支援事業には必要不可欠である。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,551	4,551	3,640	911	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○子育て支援の目的や実績・知識を勘案してNPOを選定しており、また、車両購入は入札により事業者選定したため、妥当だったと考えている。。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市

平成２４年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	12-①	障害者就労支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－(3)－イ 障害のある人が活動できる環境づくり
担当部課名	福祉部　社会福祉課	事業実施（予定）年度	平成２４～２８年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－2

事業内容

市内や住んでいる地域でも自らが商品を販売できるよう移動式販売所の設置を目指し、市場で競争力のある商品の開発を行い、市内就労支援事業所における商品開発、販売への取組みを強化し、障がい者の働く環境の整備に取り組んだ。（糸満市障がい者ワークエンジョイプロジェクト）
H24年度個別支援した商品については、市役所ロビーにてパネル等で展示を行う。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,975				
	(b) 予算現額	5,975				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 前年度繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	5,975				
B. 執行済額		5,634				
うち交付金充当額		4,506				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		94.3%				

予算の状況の説明：予算計上どおりに概ね執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

H24活動目標（指標）		達成状況 24年度	25年度	26年度	27年度
・事業所連絡会議の開催	目　標	（　連絡会　5回　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	連絡会　3回			
・事業所職員研修の開催	目　標	（　4回　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	6回			

達成状況説明
・市内就労支援事業所連絡会については、当該事業開始前に3回開催し、事業内容の検討等を行った（平成24年度における開催回数は6回）。連絡会として「糸満市就労支援施設ガイドブック」を企画し、各事業所商品の紹介、障害者が事業所を選択する際の参考となる冊子を作成することができた。
・市内就労支援事業所へ呼びかけし、就労支援事業所職員の資質向上を目指し、先進事例セミナー（4回）「工賃向上を題材にした支援の質の向上」及び「福祉×六次産業の復興支援」、「人が育つ環境づくり」「福祉×学生の取組み」を開催しのべ65名が参加。また経営基盤強化ワークショップ（2回）も開催し、のべ15名が参加

成果目標（指標）及び進捗状況

H24成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
新商品開発件数　3件	目　標	（　0件　）	（　3件　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		3件			
【参考指標】	目　標	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績					

進捗状況説明
・事業所への個別支援として、3事業所において商品開発コンサルティングを実施。
①ハーブティーの商品企画・パッケージ制作、ハーブティーのパンフレット・POP・ポスターの作成・販路開拓
②お菓子のパンフレット・POP・ポスターの作成、販路開拓
③商品（ジュエリー）ブランドのコンセプト設計、ロゴデザイン、商品試作
・新商品開発まではほぼ予定どおり達成できたが、商品開発の過程において販路設計を見直す必要性も生じた。

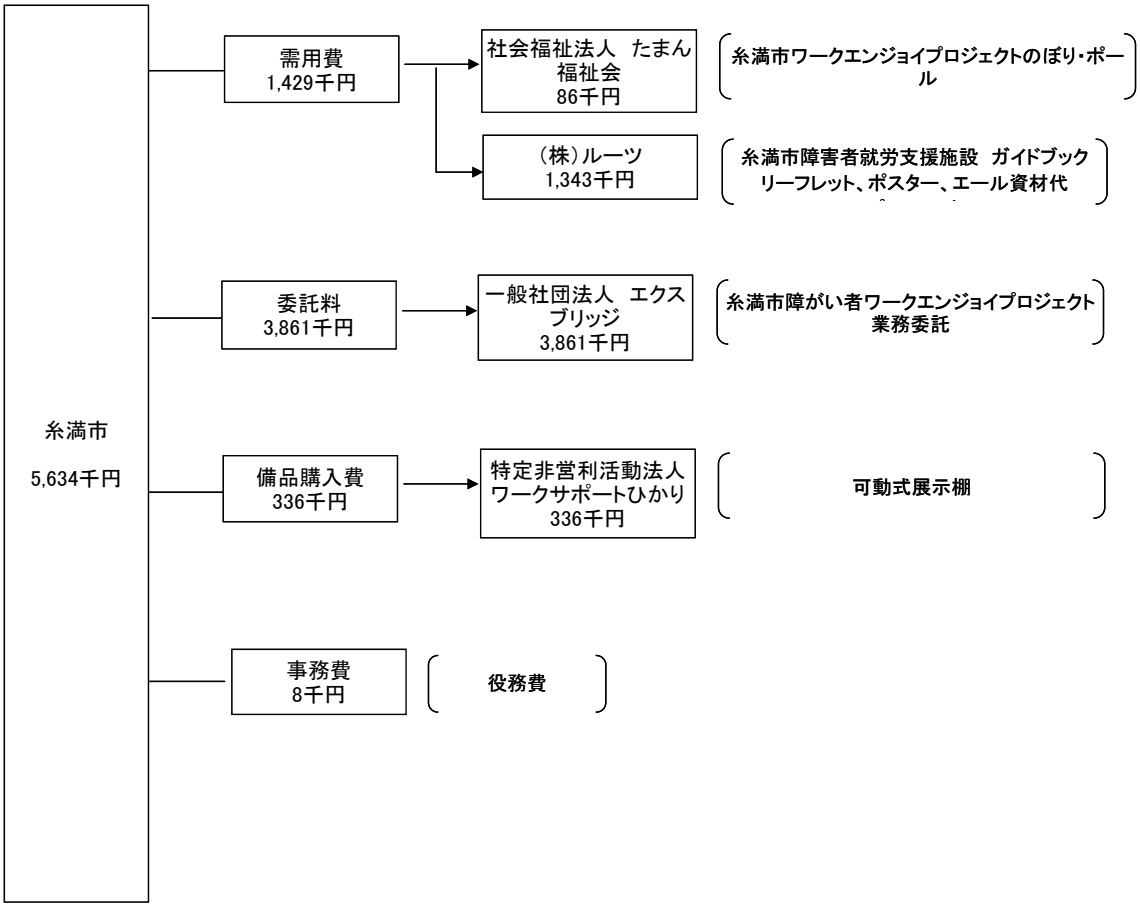
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	（1）事業所連絡会について ・共同受注や共同求人など事業所連携の具体事例がまだ生まれていない ・連絡会を構成する事業所間に温度差がある。 （2）人材育成について ・商品を一般市場で勝負するという意識がまだ薄く、商品開発・販路開拓に関しての具体的なイメージが持てていない。 （3）個別支援について ・事業所が動き出す準備は整っているが、十分に動ききれていない ・事業所ごとに抱えている課題があり、それを把握したうえでの支援が必要 （4）販売所の設置について ・上記(1)～（3）までの商品等開発の過程において、販路及び販売方法としての移動販売所等に適したニーズと商品形態の在り方等詳細について検討していく必要性が生じた。	（1）事業所連絡会の定期的な開催の継続及び運営方法の検討 （2）先進事例の研修 （3）事業所の現状把握、継続した支援（商品開発・販路拡大） （4）事業所に存在する技術活用を踏まえ、移動販売所等での販売を想定した商品開発、企画体制の在り方をマーケットインで進めていく。

今後の取り組み方針

・平成24年度に実施した事業内容（糸満市障がい者ワークエンジョイプロジェクト）を継続して実施する
・イベント等を開催するなどの具体的な目標を掲げ、実行できるよう連絡会の機能を強化する。
・売り場視点からの商品開発・マーケティング・販路開拓について、実践的に学ぶ機会を設ける。
・新たに商品開発等を希望する事業所への支援と並び、24年度において支援した事業所が自ら販売行動ができるよう継続した支援を実施
・各事業所の商品市役所内での共同販売に向けた商品開発及び開発プロセスの在り方を検討（開発）していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,634	5,634	4,506	1,128	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名型プロポーザル方式により2事業のなかから、企画内容等のプレゼンを実施したうえで選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・用途については、事業の目的を達成するため、障害者就労支援事業所連絡会における検討事項も参考に決定しており、支出に関する書類確認の上、適正に執行している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	